

本省 12月19日後着

第一三三六号

(六四文書)

貴電第五六八号二関シ

張作霖トノ交渉ハ往電第一三一三号ノ通りナルカ張ハ問題ヲ充分諒解シ居ラサル關係モアリ今一応楊宇霆及十八日着

燕セル劉省長等ノ意向ヲモ当リ見ル必要アルニ付田中ノ引揚ハ夫レ迄待タシムル様致度シ

奉天、安東へ転電セリ

〔編注 本件関連文書は事項三にもあり参照されたい〕

三 满蒙懸案解決交渉

66 昭和2年1月25日

在奉天吉田總領事より

幣原外務大臣宛

吉海鉄道問題に関する張作霖の回答および二

れに対する反駁について

(1月29日接受)

機密公第四九号 昭和2年1月二十五日

在奉天

總領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉海線ノ件

本件ニ關シ今般別紙甲号写ノ通り張作霖ヨリ回答アリ別紙

乙号ノ通リ反駁シ置ケリ右報告ス

本信写送付先 在支公使、吉林總領事

(別紙甲号)

政字第一号

照会

鎮威上將軍節制東三省軍政督弁奉天軍務善後事宜公署為照
復事准

貴總領事照會第七四八号内開吉林官憲計画敷設吉林至海龍
間之鐵路認為藐視條約之規定希速為調查如果属实請転飭吉
林官憲中止進行又准

貴總領事照會第七八一号内開此案調查結果請迅見復各等因
查吉林省府籌集官商資本投入奉海路請求為延長之敷設事
誠有之奉海路敷設之初承

貴總領事転陳

貴國政府声明承認當經正式表示在案查東省地面之開發
貴國政府及

貴總領事素抱協助之心此次奉海路延長即為開發地面之計想
貴國政府對此已經承認之奉海路為開發地面而計画延長必能
樂於贊同且奉海路之敷設無異為南滿路添一支綫茲計画延長
即無異為南滿路營業上計画發展

貴國政府自應有以輔助提携之相應照復即希

査照此致

大日本駐奉代理総領事蜂谷輝雄

張作霖

中華民国十六年一月十八日

(別紙乙号)

公文第四三号

昭和二年一月二十五日

駐奉日本帝国總領事 吉田 茂

鎮威上將軍 張作霖 殿

拝啓陳者吉海線敷設計画ノ件ニ関シ一月十八日付政字第一号貴照復ノ趣閲悉御來示ニ依レハ本件吉林、海龍間鉄道布

設計画ハ曩ニ奉海鉄道布設當時我政府ニ於テ承諾ヲ与ヘ居

リ又同鉄道ハ滿鉄營業上ノ發展ト異ナラサルヲ以テ同地方開発上我政府トシテ贊成セラル處ナルヘシトノ趣ナル處

吉林、海龍間鉄道布設ニ関シテハ前回拙信申進ノ通り大正七年貴我両國間ニ於ケル滿蒙四鉄道借款交換公文明示ノ通

リ我方ニ於テ明ニ之カ布設権ヲ有スルモノニシテ右布設権ハ曾テ未タ放棄シタル事實ナク斯ル事實アリトセハ其事實貴意候

本件会談要領並協定事項要領一部各別紙甲号並乙号ノ通り貴官限り極秘ノ御含迄ニ及御送付候条御査収相成度

(右会談要領並協定事項要領ハ極秘トシテ在奉天總領事ニモ送付シ置ケリ) 将又右ノ中吉会鉄道ニ関スル部分ニ付テハ之ヲ一括シ在吉林總領事ニモ同總領事限り極秘ノ含ミトシテ送付致置候ニ付右併セ御含ミ置相成度此段申進旁々得貴意候

敬具

別紙甲号 昭和二年一月滿蒙鉄道問題ニ關スル木村亞細

亞局長大藏滿鉄理事會談要領

別紙乙号 滿蒙ニ於ケル懸案解決ニ關スル木村亞細亞局

長大藏滿鉄理事協定事項

各一部其儘添付ノコト

編注 別紙甲号及び乙号は本信に添付されておらず。但し別紙乙号と同文と思われる文書を後掲付記す。

(付記) 滿蒙ニ於ケル懸案解決ニ關スル木村亞細亞局長大藏滿鉄理事協定事項

(昭和二年二月一日)

ヲ明示アリ度素ヨリ滿蒙開發上鉄道布設ノ益々多カラソコトヲ希望スト雖為メニ貴方ノ條約協定ヲ無視スルヲ看過スルヲ得ス貴我ノ約定ヲ無視シテ飽迄本線敷設ヲ強行セハ協定違反ノ一切ノ責任ハ當然貴方ノ負ハルヘキモノト承知可致此段重テ照会得貴意候

敬具

67 昭和2年2月16日

木村亞細亞局長より
在中国芳沢公使宛

内容について

付記 二月一日

滿蒙に於ける懸案解決に關する木村亞細亞局長と大藏滿鉄理事との協定事項

半公信

昭和二年二月十六日

木村亞細亞局長

在支芳沢公使

滿蒙ニ於ケル懸案解決問題ニ關スル件

拝啓陳者滿蒙ニ於ケル懸案解決問題ニ關シテハ今般當方ニ於テ大藏滿鉄理事ト協議シ大体ノ協定ヲ遂ケタルニ付テハ

等諸線カ滿蒙開發上重要ナル鉄道タルヲ認ムルモ今日ノ対支對露ノ機微ナル關係ニ鑑ミ右実行ハ之ヲ他日ノ好機ニ譲ルコト可然トノ意見ナルヲ以テ結局右諸新線ニ付テハ滿鉄ヨリ政府ニ對シ別ニ意見書ヲ具申スルコトトシ今回ノ「滿蒙ニ於ケル政情安定並懸案解決案」中ニハ之ヲ挿入セサルコト

(一)懸案諸線ノ一括実現

昨大正十五年協定ノ諸線中(1)長春大齊線(2)呼蘭綏化線(既ニ材料壳込契約实行済ニ付其ノ延長線三付別項第3ノ(1)ノ通協定)(3)白音太拉開魯林西線(4)敦化會寧線(5)齊々哈爾昂々溪線(支那側ニ依ル東支線横断)ノ五線ニ付此ノ際支那側ニ一括交渉ノ上即時実現ニ着手スルコト

(二)日支合弁運炭鐵路

今次支那側ト交渉スヘキ諸線ハ前項ノ通我既得権ニ属スル諸線ノ実現又ハ其延長ニ過キス唯新邱炭坑ヨリ新台子ニ至ル一線ハ從来契約関係ナキ新線ナルカ満鉄ニ於テハ右鉄路ニ闊シテハ他ノ諸線ト異リ之ヲ純然タル運炭専用線トシ且之カ布設ニ付テハ目下新邱炭坑権利ノ一部ヲ取得シ居レル日支合弁大新公司（満鉄投資）ノ組織ヲ改メ此際楊宇霆ヲ之カ督弁ニ鎌田（満鉄奉天公所長）ヲ總弁ニシ同時ニ新邱鉄道ヲモ日支合弁トシテ右大新公司ヲシテ実現セシムル等ノ別法ヲ講スヘキコト

四 交渉ノ順序方法

(1) 先ツ在奉天總領事ニ於テ張作霖（並楊宇霆）ニ対シ概括的ニ満蒙ニ於ケル從來ノ懸案ヲ解決シ度旨ヲ申入ルヘキコト

然ル後個々ノ問題例之鉄道問題ニ付テハ満鉄側ニ於テ先ツ奉天側ト一般的ニ協定ヲ遂ケタル上尚一タノ線ニ付テハ地方権力者即吳俊陞若ハ張作相トモ適宜協定ヲ遂クヘキコト

(2) 敦化老頭溝間ノ鉄道ニ付テハ先ツ飯田延太郎ヲシテ

第三、満鉄側ヨリ外務省側ノ承認ヲ求メ来レル其他ノ諸問題

(1) 紓化海倫線ニ対スル借款問題

齊昂線ノ東支線横断並広軌改築実現ニ關シテハ吳俊陞ニ對シテモ相当ノ籌備費ヲ許与スルノ必要アル処齊昂線ハ僅々十數哩ノ輕便鉄道ニシテ之カ広軌改築費ハ約二百二十万円ニ過サルヲ以テ右ノミヲ以テシテハ到底充分ナル籌備費ヲ捻出シ難キ処目下吳俊陞ハ「オストロモフ」ニ對シ紓化海倫間鉄道（呼紓延長線）ノ工事ヲ請負ハシメ居ルニ付此際満鉄トシテハ之カ建設費五百万円ヲ正隆銀行ノ名義ニテ「オストロモフ」ニ融通シ（但シ鉄道並其収益ヲ担保トス）之ニ依リ「オストロモフ」ヲ通シテ間接ニ吳俊陞ニ籌備費ヲ与フルコトトシ以テ齊昂線実現ヲ容易ナラシメ度キコト尤モ本件工事費ヲ黑龍江省側ニ於テ支弁スル場合ニハ満鉄トシテハ同鉄道ニ対スル車輛等ノ供給ヲ為スニ止ムヘキコト

(2) 吉敦鉄道増款追認方ニ闊スル件

吉敦鉄道契約ニ依レハ同鉄道建設費ハ一千八百万円ナルカ満鉄ニ於テハ支那側ト交渉ノ上今般之ヲ二千四百万円

支那側ニ対シ日支合弁天団鉄道広軌改築交渉ト共ニ之カ延長線トシテ敦老間布設方ニ付予備的交渉ヲ行ハシマルコト尤右延長線交渉不成功ニ終ルトモ少クトモ広軌改築丈ハ極力取極メシムルコト尚右交渉長引クニ於テハ其成立、不成立ニ拘ラス必要ノ時機ニ飯田ヲシテ手ヲ引カシメ満鉄側ノ本件満蒙諸鉄道ニ関スル一括交渉ニ支障ナカラシムヘキコト

第二、土地権獲得問題

新商埠地トシテノ土地買収ニ闊シ満鉄トシテハ該地方ノ開発セラル迄ハ右買収費約五百万円ノ投資ハ無収益ノ儘寢カシ置クコトナルヘキニ付進ンテ本件出資ヲナスヲ好マストニ政府ニ於テ右満鉄出資額ニ対シ利息補償ノ方法ヲ講セラレントコトヲ希望セル処右土地問題ハ政府トシテハ満州懸案ノ一タル商租問題解決ノ一便法トシテ重要視シ居ルモノナルノミナラス満鉄トシテモ決シテ無収益ノモノニ非ス從來ノ借款又ハ請負鉄道ノ沿線ニ於テ満鉄ノ活動ノ基礎ヲ作り邦人發展ノ地盤ヲ開クモノナルニ付重要ナル政策ノ実現トシテ政府ヨリ満鉄社ニ指令スヘキコト

(1) 工事費増額三百萬円（右ハ隧道開鑿費其他ニ於テ最初ノ見積額ヲ超過シタルモノナリ）

(2) 建設中ノ工事費利子繰入額二百万円（吉敦鉄道契約ニハ建設中ノ工事費利息ニ闊スル規定全然欠如シ居レル為右ハ從来満鉄側ノ損失トスルヨリ外ナカリシ處今般交渉ノ結果支那側ニ於テ右利息ニ当ル額二百万円ヲ工事費中ニ計上スルコトヲ承認シタルモノナリ）

(3) 筹備費百万円

(4) 尚本件増款ハ目下ノ處張作霖之ヲ承認シタルノミナルカ中央政府ノ追認ハ張ニ於テ責任ヲ以テ之ヲ取付クルコトナリ居レリ

(5) 洪昂鉄道増款承認方ニ闊スル件

本件ハ支那側ニ於テ一千二百九十二万円（工事費）ノ既存借款額ヲ約一千八百五十万円ニ増額セムコトヲ希望シ満鉄側ニ申出テ來レルモノナルカ本線ニ闊シテハ曩ニ対支借款團ニ通告シタル次第モアルニ付満鉄トシテハ支那

三 满蒙懸案解决交渉

側ニ対シ未タ何等ノ意思ヲモ表示シ居ラサルモ本件増款

ハ満鉄ニトリテモ有利ナルモノナルニ付オメ之ニ対スル

政府ノ承認ヲ得タキコト但シ本件増款ノ内訳ハ

(イ) 王永江ニ対スル貸金二百万円並利息(年九分) 四十七

万六千円ノ繰入(右ハ曩ニ満鉄ニ於テ王永江ニ対シ其

省長時代ニ二百万円ヲ貸付タルコトアリ支那側ニ於テ

ハ爾來之力整理ニ苦シミ居タルカ今般莫省長ヨリ右額

並利息ヲ洮昂線借款中ニ繰入レムコトヲ申出テ来レル

モノナリ)

(ロ) 車輛売込代金二百万円

ハ籌備費百万円

尚以上(イ)並(ヨ)兩增款ニ関シ予備費又ハ貸付金ノ關係ハ満鉄
支那側間ノ内部關係ニ属シ外務省トシテハ表面上之ヲ承知
セサルヲ以テ満鉄ニ於テ右増加額ヲ純然タル工事費超過額
トスル等(車輛売込代金ハ別トス) 増款ノ理由ヲ筋道立テ
可然形式ヲ整ヘ具申スルニ於テハ追認若ハ承認方考量スヘ
キコト

本協定事項ニ対スル幣原外務大臣ノ意向

一、飯田ノ交渉ヲ進ムルモ一般問題ハ支那ノ時局如何ニヨ

リ必要ノ場合ニハ一時停止スルコトアルヘシ

二、長大線ニ付事前適當ノ機会ニ満鉄側ヨリ露國側ニ内談

シ置クコト得策ナルヘシ

三、第三ノ諸項ハ書面ノ提出ヲ待テ審査決定シ度シ

68 昭和2年2月24日

在奉天吉田總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

二分五厘付加税の默認を張作霖に与える方が

得策である旨の意見具申

奉天 本省 発

2月24日後着

第四五号(極秘)

二分五厘付加税問題ニ關シ既ニ御來訓ノ次第アリ愈々東三
省ニ実施ノ場合我対抗策ニ付テモ御考慮相成居ル儀ト愚考
スルモ愈々力ヲ以テ阻止ストセハ我鐵道付屬地ヲ奉軍ノ軍
事輸送ニ対シテ閉鎖シ京奉線ノ奉天城内ヘノ交通ヲ遮断ス
ルカ如キ華府條約無視ニ対スル最モ有力ナル報復手段タル
ヘシ然レトモ右ハ余リニ大人氣ナキ措置ニシテ且無用ナル
抗争ヲナスノ嫌アリトセラルニ於テハ本件ニ關スル我主
張ハ既ニ北京外交團ノ容認セラレタル今日ナレハ表面抗議
ヲ統クル一面ニ付加税問題ノ最終ノ決定迄暫ク課稅ノ実施

貴電(第六号)

本省 2月28日後8時15分発

ヲ默認スル内面的諒解ヲ張ニ与フル事然ルヘクト存ス或ハ
之ヲ与フルノ与ヘサルニ比シ害渺カルヘク課稅ノ實施ヲ
阻止セハ東三省各地ノ稅捐局ハ不規律ナル課稅ヲ強制シ渺
クモ一時ハ我商取引ヲ妨碍スヘク將又奉軍ノ失敗仮ニ近キ
ニアリトセハ其実施期間ハ暫時ナルヘク且ツ今日斯様ノ手
段ヲ以テ張ヲ苛メ置クハ偶々奉軍潰乱ノ際張作霖自暴自棄
ノ余リニ一時ナリトモ存外ノ秩序破壞ヲ企ツル事ナシトセ
ス故ニ此際張ニ対シ二分五厘付加税実施黙認ノ諒解ヲ与ヘ
一面ニ自今其余ノ條約違反及我利益ノ侵害ヲ企テサル事ヲ
誓ハシムルト共ニ万ノ場合我好意ニ依頼シテ尚一条ノ血
路ヲ我権力圈内ニ見出シ得ヘシト信シ得ル丈ケノ余裕ヲ生
セシムル様仕向クル事将来ノ事變ヲ予想シテ滿州ニ於ケル
帝國臣民及其利益ヲ保護スル機宜ノ措置ト存ス何分ノ儀御
詮議ノ上至急御回訓ヲ請フ
在支公使ヘ転電セリ

~~~~~

69 昭和2年2月28日 幣原外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛(電報)  
張作霖に二分五厘付加税徵收の默認諒解を与  
えることは望ましくない旨の訓令

支那官憲ニ於テハ之ニ課稅セムト試ムヘキ處其際我當業者  
ニ於テハ可成付屬地内ニ於テ壳却ヲ了シ支那側引取人ヲシ

三 满蒙懸案解決交渉

テ納税セシムルコトトシ度ク右不可能ナル場合ニハ之亦抗議付ニテ納税スルノ外ナカルヘシ就テハ本件付加税実施ノ場合ニハ以上ノ含ニテ然ルヘク措置セラレ度シ  
在支公使関東庁及在満税関所在地各領事ニ転電アレ

70 昭和2年3月4日

在奉天吉田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

商取引の円滑化のため二分五厘付加税徵収方  
法を日本側より暗示すべき旨の意見具申

奉天 3月4日後発  
本省 3月5日前着

第五四号  
貴電(六九文書)  
第二六号ニ閑シ

支那側カ東三省ニ於テ二分五厘付加税徵収ヲ断行ノ場合ニハ大連安東県海關ノ位置及鉄道付属地トノ關係アリ天津地方トハ事情同一ナラス海關ニ於テ徵収ヲ不可能ナラシムレハ各地税捐局ニ於テ付加徵収ヲ試ムヘク斯様ニ始末トモナラハ專照單廢止ニ依ル銷場稅徵収ニ直面シテ本邦商人力繁雜ナル手續及不規則ナル課稅弁法ニ苦シメラレ居ルト同様ノ苦境ニ立ツヘク此ノ苦境ヲ免カルル為今日ニ於テ予メ方

法ヲ講究セサルニ於テハ昨往電第五三号ノ通支那側ニハ一応ノ警告ヲ与ヘ置キタルモ目下支那側ハ軍費ノ捻出奉票暴落ニ苦シム折柄單ニ脅喝ヲ以テ本件徵収ヲ阻止スヘカラス支那側願望ナル課稅方法ニ出ツル以前ニ我ヨリ賦課徵収ニ関シ相当ノ暗示ヲ与フルニ非サレハ商取引上意外ノ障害生セストモ限ラス商人ノ便宜ヨリセハ海關所在地ニ於テ他地方同様徵稅セラルルヲ可トスヘク然ラサレハ各地税捐局ニカ二者ソノ一ヲ選フノ外ナシ後者ニ依ルモ猶前記銷場稅付加ノ場合ニ生セル面倒ト同様商品ノ稅捐局ヘノ搬入、不規則ナル検査徵稅、徵稅価格ノ爭議、商品ノ抑留毀損等ヲ覺悟セサルヘカラス其辺御考究ノ上徵稅断行ノ場合ニ処スル方法ニ付更ニ何分ノ御訓令ヲ仰ク

北京へ転電シ安東、牛莊、哈爾賓へ暗送セリ

71 昭和2年3月7日 在奉天吉田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

吉海鐵道敷設材料の運搬を満鉄に許さざる旨  
中国側に通告するの権限要請について

奉天 3月7日後発

第五六号

本省 3月8日前着

貴電(七〇文書)  
第二七号  
貴電(六九文書)  
第五四号ニ閑シ

吉海鐵道敷設ニ付テハ吉林側ニ於テ公然準備ヲ進メツツアル處其敷設ニ対シ帝国政府カ絶対ニハ反対セサル可キ消息ノ満鉄其他ヨリ自然支那側ニ洩レタルヤニモ感セラレ從テ将来如何ニ本件彼我ノ間ニ協定セラルトモ右協定ヲ我ニ有利ニ決定セシムル為ニハ更ニ支那側ノ反省ヲ促ス手段ヲ執リ我條約上ノ権利ヲ無視スル鉄道ノ敷設材料ノ運搬ハ満鉄ヲシテ断然之ヲ拒マシム可キ決心ヲ一応支那側ニ暗示スル必要アリト思考ス

就テハ本官及吉林總領事ノ裁量ヲ以テ帝国政府ハ本件鉄道敷設材料ノ運送ヲ満鉄ニ許ササル旨必要ニ応シ当地及吉林官憲ニ対シ通告シ得ルノ權限ヲ予メ与ヘ置カレタク何分ノ御詮議ヲ請フ

在支公使、吉林へ転電セリ

72 昭和2年3月8日

幣原外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛(電報)

海關内の付加税徵收機關設置を許容すること  
は不可なる旨の訓令

トモ邦商トシテハ面倒ナキノミナラス却テ利益アリ

吉海鉄道の材料運搬に関する中国側の企画は  
満鉄側にて阻止すべき筈の旨木村亞細亞局長  
（アーヴィング・ムーア）

(三)唯問題トナルハ(イ)我方商人力付屬地内ニ於テ貨物ノ包装ヲ解キ分割シテ付属地外ニ搬出スル場合並(ロ)右包装ヲ解カ

本省 3月9日後5時発

ス海閥ニ於ケル特別徵稅機關設置反対ニ對スル報復トシテ

木村三里  
(七一文書)

卷之三十一

ノ態度ヲトルニ決シタル旨ノ報告アリタルニモ鑑ミ當方トシテハ商人側全体ヨリスレハ結局前記往電ノ方法ヲ利益トスルヤニ思考スルニ付貴官ハ此際貴地各方面ノ當業者ト熟議ノ上然ルヘク前記(イ)ロノ場合ニ対応スヘキ弁法ヲ講究セラレ度ク尚支那側ニ対シテハ商人ヲシテ抗議付納税ノ具体的方法トシテ納稅ノ都度右弁法ニ依リ然ルヘク応酬セシムルトキハ支那側ノ態度ヲ緩和スル為有効ナルヘシト思考ス

海吉絲問題ハ我方新鉄道計画実現ノ掛引ニ利用シ度當方ノ  
底意ナルヲ以テ此際素ニ之力敷設ヲ容認スヘカラサルハ勿  
論ニシテ満鉄側殊ニ大蔵理事ハ這般ノ消息ヲ熟知シ居ルヲ  
以テ右我方底意カ支那側ニ洩ルル筈ナキモ万一右様ノ理由  
ニテ支那側カ材料輸送ヲ企ツルニ於テハ満鉄側ニ於テ之ヲ  
阻止スル為努力スヘキハ當然ニテ必要ナラハ本件鉄道材料  
ノ輸送ハ帝国政府ノ容認セサル所ナル旨ヲ申入レ輸送ヲ拒  
絶セシムルコトト致度貴電末段ノ如キ貴官並吉林總領事ニ  
特ニ輸送禁止命令權ヲ付与スル等ノ手段ヲ執ラサルヘカラ  
サル特別ノ事情アリヤ折返シ御内報アリ度

在支公使及安東、牛莊、哈爾賓三転電アレ  
幣原外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛（電報）

卷之三

74 昭和2年3月11日 在奉天吉田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

付加税負担已むなしとすれば不法課税を免が  
れるため海關での徵収を便利とする旨の邦商  
の一一致する意見について

第六一號

各方面ノ當業者ノ意見ハ別電ノ通ニシテ付加税負担已ムヲ  
得ストセハ銷場税其他不規則ナル課税ヲ免カルル為海關三  
於テ徵收セラルルヲ便利トナスニ大体一致スルモノノ如シ  
尚貴重第二二号刊參ノ場合ニ考フノニ

邦商力專照單付貨物ノ包裝ヲ解キ又ハ解カスシテ付属地外ニ分送スル場合ニ於テ税捐局員力現ニ為ス繁雜ナル手続及

専照單面ノ価格ハ「テール」ヲ以テ記載スルモノナレハ  
奉天票暴落ノ当今更ニ「テール」ニ対スル奉票換算率ニ  
付テモ種々ノ面倒ヲ生シツツアリ

### 三 满蒙懸案解决交渉

ヘキ損害ヲ顧慮スレハ直ニ条約論ヲ以テスルノ実益ニ伴ハ  
サルノ恨アリ既ニ抗議付納税トスレハ条約論ニ対スル一応  
ノ解决タルヘク商人ノ実利ヲ重нстセハ条約論以外ニ別  
ニ方法ヲ案出スルコトヲ要スヘク右実情ニ付別ニ御詮議ヲ  
希望ス

在支公使ヘ転電シ牛莊、安東、長春、哈爾賓ヘ暗送セリ

75 昭和2年3月14日

幣原外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛（電報）

直接中国側に警告を発し又は満鉄をして材料

輸送を拒否せしめる等取計方訓令

別電 三月十四日付幣原外務大臣より在奉天吉田總領事宛電報第三一号

吉海線用諸材料の輸送は政府の容認なき限り拒否すべき旨の入江満鉄理事より山本社長宛電報

本省 3月14日後7時30分発

第三〇号

海吉線問題ニ閑シ

十二日当方ノ注意ニ依リ満鉄東京支社ヨリ大連本社宛別電  
第三一号ノ通り電報シタルニ付テハ今後本件ノ推移ニ応シ

貴官ノ裁量ニ依リ直接支那側ニ対シ警告ヲ發セラルルカ若  
ハ満鉄ヲシテ日本政府ノ容認ナキ故ヲ以テ本件材料輸送ヲ  
拒否セシムル等可然御取計アリ度

別電ト共ニ北京ニ転電セリ吉林ニ訓令トシテ転電アリ度

（別電）

本省 3月14日後7時35分発

第三一号

入江理事發満鉄社長宛電報

支那側ノ海吉線敷設計画ニ關シテハ目下外務省ヨリ嚴重抗議中ナルコトハ御承知ノ通ナルカ近來滿州方面ニ於テ日本側ノ意向トシテ該線ノ敷設ハ別ニ絶対ニ反対スル所ニ非ストノ趣旨ヲ漏シ居ル向アル由ニテ斯クテハ日本ノ抗議ヲ薄弱ナラシメ引テハ帝国政府ノ威信ヲモ傷クル事トナリ打通線問題ハ勿論一般将来ノ鉄道敷設ニ関スル交渉ニ対シ悪影響ヲ与フル事大ナリト思ハルニ付右政府抗議ノ趣旨ヲ徹底セシメンカ為支那側カ該線路用諸材料ノ輸送ヲ企ツルモ満鉄ニ於テ右諸材料ハ政府ノ容認ナキ限り絶対ニ輸送シ得サル事ヲ明ニスル要アル旨本日外務省ヨリ注意アリ政府窮

局ノ腹ハ大蔵理事充分承知ノ筈ナルモ此際満鉄トシテハ何処迄モ強硬ノ態度ヲ示シ前記ノ風説ニ対シテハ極力之ヲ否定シ尚關係方面ニ対シテモ夫々注意シ置ク必要アリト思ハル念為

76 昭和2年3月15日

幣原外務大臣より

在奉天吉田總領事宛（電報）

付加税はあくまで承認せず邦商が抗議付納税  
をすることを前提とした弁法を講究すべき旨  
の訓令

本省 3月15日 発

第三三号

貴電〔七四文書〕第六号ニ閑シ

租借地乃至付属地内ニ於ケル本件付加税ノ徵収ハ往電〔七二文書〕第七号ノ通我方トシテ主義上到底承認ス可カラサル所ナルカ

右我方態度ノ結果支那側カ付属地外ニ於テ課税スル場合ニ  
御來示ノ如キ障碍又ハ不便アリトスルモ「アンダープロテ

スト」ニテ商人側ニ於テ納稅スルコトノ諒解アラハ支那側ニ  
ニ於テモ斯ル障碍不使ヲ除去スル弁法ニ付テ應諾スヘント

思考セラル殊ニ貴電第五三号ノ如ク支那側ハ本件付加税ノ  
先般飯田着京後同人ノ支那ニ対スル交渉ニ付テハ本使ニ於

（別電）

本省 3月22日後着

第二八二号

吉海鐵道問題解決策に関する張作相との会談

報告

北京 3月22日後着

在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

在奉天總領事宛貴電第二〇号ニ閑シ

先般飯田着京後同人ノ支那ニ対スル交渉ニ付テハ本使ニ於

### 三 满蒙懸案解決交渉

テモ側面ヨリ援助シ来リタル処三月二十二日或ル宴会ノ席上張作相ヨリ海吉鉄道ニ付テハ地方人民ニ於テ資本ヲ集メ敷設方ヲ請願シ来レル際日本トノ約束ヲ承知セサリシ為日約束ノ存在ヲ承知セサリシ為許可シタル次第ニテ且今更日本ノ反対ノ為折角請願者側ニ於テ準備ヲ進メタル計画ヲ阻止スル場合ニハ地方人民ノ日本ニ對スル感情悪化スヘキハ勿論ナルヘク且該鉄道敷設ノ上ハ結局滿鉄ノ利益トナルヘキハ明白ナル次第ニ付何トカ本使ノ尽力ニ依リ日本側ノ態度緩和方ヲ望ム旨申出テタルニ付本使ハ先方ヨリ口ヲ切リタルハ掛引上我方ニトリ最好都合ト認メタルニ付張ニ対シ其ノ儀ハ頗ル困難ナル問題ニ付貴方ニ於テ日本ニ對スル過去ノ契約ヲ無視セラレタル事ハ否ムヘカラサル事實ニシテ日本側ニ於テ此ノ点ハ頗ル遺憾トスル処ナリ從テ滿鉄ニ於テハ支那側ノ計画ニ對シ極力反対ヲ試ミ又日本政府ニ於テモ之ヲ支持シ居レル次第ナリト述ヘタル處張ハ頗ル当惑ノ色ヲ示シ本問題ハ今更之ヲ中止シ難ク之ヲ中止スル場合ニハ地方民ノ風潮ヲ悪化セシムル事必然ナリト述ヘタルニ付

足スヘキ事疑無キ処ナリ之レ本使カ予テ北満ニ鉄道網ヲ設クルノ必要ヲ認ムル所以ニシテ海吉線ノ敷設天図鉄道ノ延長及其他ノ鉄道ヲ出来得ル丈ヶ敷設スル事必要ナリ海吉線ノ敷設ハ兎ニ角トシテ天図ノ延長ニ関シ貴督弁ハ如何ニ考ヘラルルヤト尋ネタル處張ハ何レニシテモ老道溝ト敦化ノ間ハ僅少ノ距離ニ付之カ敷設ハ要スルニ時機ノ問題ナリ海吉線ノ敷設ニ対シ偏ニ本使ノ斡旋ヲ希望スト重ネテ訴ヘタルニ付本使ハ困難トハ思ハルカ左程御希望ナラハ兎ニ角尽力ヲ試ムヘク貴督弁ニ於テモ敦化老道溝間ノ連結方御尽力ヲ請フ旨述ヘタル処然リト答ヘタリ張トノ会談ハ大体右ノ如キ次第ニテ從来天図鉄道ニ付テハ同人力最大難闘一ノ目セラレ居タルモノノ如キハ楊宇霆等ノ口吻ニ依ルモ明カナル處ナルカ右ノ会談ニハ同人ノ関スル限り本件交渉ノ上ニ一步ヲ進メタルモノト思考ス

奉天、吉林へ転電セリ

78 昭和2年3月23日

在奉天吉田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

いて

大連における二分五厘付加税徵収方法案につ

本使ハ右ハ遺憾ノ至リナルモ事實致シ方無キ次第ナリ実ハ此ノ場限リノ話ナルカ本使個人トシテハ予テ満州ノ經濟的発展ニ付テ考量スル処有リ右經濟的發展ハ之ヲ要スルニ鉄道網ヲ設クルニ如カス吉林省ハ満州ノ宝庫ニシテ鉄道ヲ敷設シテ同省ノ富源ヲ開發スル事何ヨリノ急務ナリト信ス将来北満ニ於ケル鉄道ハ海吉線ト云ハス天図鉄道ノ延長ト云ハス其ノ他出来得ル丈ヶ多数ノ鉄道ヲ敷設スル事必要ナリ殊ニ天図鉄道ハ既ニ營業中ニテ吉敦線モ近ク敷設ヲ見ルヘク然スレハ敦化老道溝間ノ距離ハ近々六十五哩ニ過キス若シ天図鉄道ヲ延長シテ敦化ト連絡セシムル場合ニハ吉林省ノ物資ヲシテ直ニ日本海ニ捌ケロヲ得セシメ同省ノ豆粕ハ清津ヨリ直ニ裏日本ノ各県ニ配送セラルヘシト述ヘタル處張ハ貴説御尤ナルモ天図鉄道ノ延長ハ尚地方ニ於テ反対シツツアリト述ヘタルニ付本使ハ天図鉄道敷設前ニ於テハ地方民ハ之ニ反対シタルモ敷設後ノ今日ニ於テハ其ノ恩惠ニ浴シ極メテ満足シ居レリ若シ該鉄道ヲ延長シテ敦化ト連絡スル場合ニハ吉林ト日本海トヲ連結スル事トナリ吉林省民ノ富ヲ増シ地方民ニ於テハ一層ノ恩恵ヲ受クル事明白トナル次第付仮令只今反対スルトスルモ敷設後ハ非常ニ満

奉天 3月23日後發  
本省 3月24日前着

第六九号

大連、營口視察ヲ終リ帰奉セル蜂谷ヨリ付加税問題ニ閑シ一般大連當業者側ハ未タ本件ニ付定見ナキモノノ如キモ同地有力ナル當業者意見トシテハ既ニ支那本部方面ニテ納稅シ居ル今日独リ大連ノミ特殊地帶故ニ納稅拒否ハ徒ニ租借地ニ付スル支那側反感ヲ助長シ且大連ニテ拒絕スル為奥地ニテ生スル紛糾ヲ思ヘハ寧ロ進テ納稅スルヲ得策ナリト大體考ヘ居レリ

只其納入弁法ニ付テハ差当リ何等考究シ居ラス同地稅務司ノ意見ハ今後支那稅關監督派遣セラレ若ハ總稅務司ヨリ徵收命令アリトスルモ付加税徵収カ稅關設置協定範囲以外ノ事項ナル關係上予メ関東府ノ諒解又ハ默認ナキ限り(関東府意見ハ政府ノ認メサル限り默認シ得サル立場ニ在リ)徵收ヲ実施シ難ク又閑東府ノ諒解アルモ總稅務司ノ命令ナクムハ徵収シ難ク從テ同稅關トシテハ全ク干与シ得サル立場ニ在リ

### 三 满蒙懸案解決交渉

トナランカ付加税強徵ノ事実発生セサルカ故ニ所謂「アンダープロテスト」ニ依ル納入ノ事実モ発生シ得ス故ニ強テ税関側強力ニ依ル徵收弁法ヲ講セントセハ總稅務司ノ命令ヲ得テ閔東序默認ノ下ニ徵收布告ヲ非公式ニ掲示スル外ナシトノ事ナリ

事情右ノ如クニテ税関ノ強力若ハ支那側強制力ナキ同地ニ於テノ徵收弁法ハ自然輸送機関タル滿鉄ノ協力ニ待ツ外ナク其協力ニ依ルトセハ左記三案ヲ考へ得ヘシ

(2) 貨物陸揚後大連税關指定銀行タル正金若ハ中国銀行ヘ寄託若ハ納税シタル上放行單ニ納税済ノ証明ヲ求ム

(2) 日支商業會議所協定ノ下ニ民間側機関ヲ設ケ之ニ寄付其他ノ名義ヲ以テ商民側自發的ニ納入シ放行單ニ納税済ノ証明ヲ求ム

(3) 貨物到着シタル各付屬地外税局ニ対シ放行單ニ依リ荷受

ケ主ニ於テ納税シテ納税済ノ証明ヲ求メ納税證明付放行單ヲ以テ滿鉄ヨリ貨物ヲ受取ラシム到着地鐵道停車場ヨリ貨物受取リノ際納税済證明ナキ放行單所持者ニ対シテ

ハ滿鉄ハ一応ノ注意ヲ与ヘ猶付加税納入ヲ肯セサレハ税

局ニ通知スル方法ヲ滿鉄ニ於テ採ルコト但シ何レノ弁法

#### び東三省における二分五厘付加税問題に関する対処について

拝復時下益々御清榮奉賀候陳者三月十四日付貴翰ヲ以テ御申越ノ趣了承仕候

(1) 满蒙懸案解決案提案ノ時機ニ付慎重考慮ヲ要スルハ貴論ノ通ニ有之當方ニ於テモ其後支那政情ノ変転ニ鑑ミ先般貴台ト打合済ノ閣議案ニ付多少形式変更ノ必要ヲ認メ居ル次第ナルカ何レニシテモ此際速ニ閣議ノ決定ヲ取付ケ置クコトハ今後支那時局ノ変動ニ対応スル上ニ於テ極メテ肝要ナリト思考セラレ候ニ付議会終了ヲ俟チ速ニ閣議ノ決定ヲ請ヒ度キ所存ニ有之候然ルニ最近滿州方面ヨリノ情報ニ依レハ貴台斡旋ノ下ニ滿鉄大倉東亞勸業ノ手ニテ張作霖ニ対シ百万円融通方ニ閑スル議有之候由ニテ右ニ閑シ問合セノ次第モ有之當方トシテハ何等右ノ如キ報道ニ接セス恐ラクハ誤伝ナルヘキ旨ヲ以テ應酬シ居ル次第候處右ニ閑シ何等御氣付ノ点アラハ小生限リノ含トシテ御回報相煩度候

(2) 将又二分五厘付加税問題ニ閑シテハ先般來慶々電信ノ往復ヲ重ネタルカ尚當方ノ真意十分貴方ニ徹底セサル憾ア

ニ依ルモ当地着支那局力納税證明付放行單ノミヲ以テ貨物ノ通過ヲ許シ検査其ノ他ノ手続キヲ要セサル諒解ヲ我ニ与フルコトヲ主要条件トス

以上弁法中我方從來ノ方針及支那側ノ諒解取付ケノ難易等ヨリ考フル時ハ結局第三案ヲ妥当ト認メラルモ之力愈々

實行ノ場合ニハ猶相當考究ノ余地存ス當口ノ狀況ハ岸田領事累次報告ノ通ニテ同地邦商ハ殆ト全部奥地ニ對スル取繼キ業ナルト昨今解冰期ト共ニ積荷入港ヲ明日ニ待チ構工居ル一方陸揚地及税關所在地付屬地外ナル關係上付屬税ヲ拒絶セハ結局陸揚不可能ナル為自然他ノ諸港ト同一ナリ難ク當業者側亦逸速ク納税ヲ希望スルニ至ルヘキ處之カ納入弁法トシテハ他銀行又ハ領事館ニ供托スル等考ヘサルニ非サルモ支那側承諾セサルヘキカ故ニ結局抗議付納入ノ外ナク若シ強テ差シ止ムルニ於テハ一時同港貿易ヲ中絶セシムル外ナキ趣ナリ

北京ヘ転電シ牛莊、安東、長春、哈爾賓ヘ暗送セリ

79 昭和2年3月24日 木村亞細亞局長より  
在奉天吉田總領事宛

#### 滿鉄等の張作霖に対する融資問題の実否およ

ルヤニ被存候處本件ニ關スル當方ノ意向ハ結局貴見ト同様ニテ條約ノ規定ニ拘泥スルノ意毛頭無之出來得ル限り實際的弁法ヲ講セムトスルニ有之候只租借地乃至鐵道付屬地内ニ於テ支那側ノ不法措置ヲ許容スルコトハ對内關係其他ニ對スル反響少カラサルモノアルニ鑑ミ當方ノ容易ニ認容シ能ハサル所ニ有之支那側カ付屬地外ニ於テ本件徵稅ヲ行フ場合ニハ之ニ對シ然ルヘク弁法ヲ講究シ實際上ノ不便ヲ避クルコト最モ時宜ニ適スルモノト思考致候(七六文書)往電第三三号モ右ノ趣旨ニ外ナラサル处在支公使堯幣原大臣宛電報第二七一号ニ依レハ顧總長ニ於テモ差当リ暫ク東三省ニ於ケル二分五厘付加税ノ實施ヲ待ツヘキ旨申居候趣ナルニ就テハ蜂谷領事帰奉ノ上然ルヘク具体的弁法御考究相成様祈上候尚滿州辺ヨリノ下馬評ニ依レ乍ラ貴台ヨリモ真面目ニ同省長ヲ相手ニ手厳シク當ラレ居リ斯くてハ支那側ニ對スル影響如何ニヤト相憂ヲ抱キ居ル向モアルヤニ聞及候ニ付御笑草迄右申添候 敬具

昭和2年3月二十四日

木村 銳市

吉田 茂様

80 昭和2年3月26日

幣原外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛（電報）

鉄道付属地外において商取引を阻害しない方  
法での付加税徵収策を講究実施しても可なる

旨の意向通達

本省 3月26日後7時40分発

第三六号  
(七八文書)  
貴電第六九号ニ閔シ

一、支那側ノ二分五厘付加税自主的実施ニ対スル我方從來ノ態度ハ屢次ノ往電ニ依リ御承知ノ通ナルカ既ニ英米其他ノ列国ニ対スル政治的考量モ一段落ヲ告ケタル今日當方ニ於テモ必要ニ法理論ヲ強調スル考ナク通商保持ノ見地ヨリ本件ノ実際的解決ニ重キヲ置クヘキハ勿論ナリ唯本課稅ハ本来違法ノモノナルヲ以テ各国ノ承認ヲ経タル課稅ノ如ク満足ナル結果ヲ得ヘキ性質ノモノニ非サルコトハ支那側ヲシテ機會アル毎ニ自覺セシメ置ク要アルヘク現ニ支那本部殊ニ南支那ニ於ケル課稅成績思ハシカラサルモノアルハ各方面ヨリノ報道ノ一致スル所ニシテ

二、右考量ノ下ニ東三省内ノ付加税問題ヲ考フルニ(一)此際租借地乃至付属地内ニ於テ本件不法徵稅機關ノ設置及徵收ヲ許容スルコトハ租借地ノ性質上又我対内關係其他ニ對スル影響ニ鑑ミ到底容認スヘカラサル所ナルカ(二)付属地外ニ於ケル支那側ノ徵稅ニ対シテハ實際上我方関係ノ取引ヲ阻害セサル様適宜弁法ヲ講究実施スルモ差支ナシトスル當方ノ意向ナリ

三、此實際的見地ヨリ貴電申越ノ弁法中第三案ヲ見ルニ多少我方針ニ副フヤニ認メラルモ同案ハ滿鐵側ヲシテ本件付加税ノ徵收ニ協力セシムルノ觀アルノミナラス付属地内ニ於テ邦商荷受人カ貨物ヲ支那側ニ転売シ得ル場合ニモ邦商荷受人ニ納稅ヲ強制スル結果トナリ主義上及實際上面白カラス故ニ我方トシテハ邦商カ貨物ヲ付属地外

二搬出スル場合放行單又ハ其他ノ書類添付ノ方法等ニ依リ支那側稅局ノ繁雜ナル検査手続ヲ免レシメ從テ該貨物ノ簡易通過ヲ為シ得ル様適當ノ了解ヲ支那側ヨリ取付ケ置ク等弁法ヲ講究シ置クコト可然

四、尤モ大連安東三於テ付加税徵収ヲ許ササル結果輸入貨物ヲ鐵道沿線隨所ニ於テ取締ノ為支那側ハ徵稅吏ヲ四方ニ派スルヲ要シ徵稅費ヲニ嵩ミ徵収困難ナルヘシトノ意見ニツキテハ滿州商取引關係當業者ニ付実狀ヲ照会シタル處輸入貨物ハ問屋、為替、其他市場設備ノ關係上大部分大連安東ヨリ一旦奉天、遼陽、鐵嶺、開原、長春、四平街等數個ノ主要市場ニ送付ノ上更ニ各地ニ転売セラレ居ル趣ナルニ付支那側トシテハ右主要都市ニ於テ徵稅ヲ行フトキハ殆ト洩レナク貨物ニ課稅シ得ヘキノミナラス仮ニ付加税增徵ノ結果大連、安東ヨリ直接各小駅向ノ貨物増加ストスルモ現ニ鐵道沿線各駅ニハ悉ク支那内地稅捐局ノ設備アル趣ナルニ付新ニ各地ニ徵稅吏ヲ派スルノ要ナキモノト認メラル

五、上述ノ諸点ヲ併セ考究スルトキハ我方ノ主張ト支那側ノ希望トハ必スシモ両立シ得サルニ非ルヲ以テ貴地商業

南軍ニ於テハ外國側殊ニ本邦人ニ対スル課稅ニ付テハ頗ル大目ニ見ツツアルコト並我方ニ於テ我国ト東三省トノ特殊關係ニ顧ミ同省當局カ本件ニ閔シ我方ノ妥協的態度ニ対シ南軍以上控目ノ態度ニ出ツヘキヲ期待スルハ當然ナルヘキコトヲ同當局ヲシテ必要ニ応シ十分承知セシメ置ク要アルヤニ思考セラル

二、右考量ノ下ニ東三省内ノ付加税問題ヲ考フルニ(一)此際租借地乃至付属地内ニ於テ本件不法徵稅機關ノ設置及徵收ヲ許容スルコトハ租借地ノ性質上又我対内關係其他ニ對スル影響ニ鑑ミ到底容認スヘカラサル所ナルカ(二)付属地外ニ於ケル支那側ノ徵稅ニ対シテハ實際上我方関係ノ取引ヲ阻害セサル様適宜弁法ヲ講究実施スルモ差支ナシトスル當方ノ意向ナリ

三、此實際的見地ヨリ貴電申越ノ弁法中第三案ヲ見ルニ多少我方針ニ副フヤニ認メラルモ同案ハ滿鐵側ヲシテ本件付加税ノ徵收ニ協力セシムルノ觀アルノミナラス付属地内ニ於テ邦商荷受人カ貨物ヲ支那側ニ転売シ得ル場合ニモ邦商荷受人ニ納稅ヲ強制スル結果トナリ主義上及實際上面白カラス故ニ我方トシテハ邦商カ貨物ヲ付属地外

81 昭和2年3月30日 在中国芳沢公使より  
貴電第六九号ニ閔シ  
東三省における付加税実施問題等に関する張作霖との会談

北京 本省 3月30日後着 発

三月二十九日張作霖本使ヲ來訪シ張ヨリ

一、張宗昌ハ自分ノ命令ヲ聞カス上海ニ迄モ派兵シタルニ付自分ハ更ニ命令シテ長江北岸ニ引揚ケシメタル關係モアリ今回ノ上海南京ノ陥落ニ依リ大ナル損害ヲ蒙リ居ラス張宗昌ヨリハ更ニ反抗方ヲ申出テ來タリタルモ自分ヨ

### 三 满蒙懸案解決交渉

リハ暫時守勢ヲ執リ充分ニ軍容ヲ備ヘタル上攻勢ニ出ス  
可キ旨ヲ命シ置キタリ河南ハ徐州、鄭州間ノ隴海鉄道連  
絡成リ又京漢沿線ニテハ漸次南下シ形勢有利ニ向ヒツツ  
アリ

二、上海殊ニ南京ニ於ケル南軍ノ暴行ニ付各國ハ如何ナル  
態度ヲ執ラルル考ヘナリヤ南軍ノ亂暴ハ何レ南京一ヶ所  
ニ止マラサルヘク若シ今ニ於テ之ヲ制止セサレハ今後各  
地ニ同様ノ暴行行ハル可キハ明ラカニシテ現ニ南京ニ於  
テモ露国人二名参加セル事実アリ自分ハ從來条約ヲ尊重  
シ來リ殊ニ日本ト密接ノ関係アル滿州ニ於テハ充分ノ注  
意ヲ払ヒ来レリ

目下奉天軍ハ兵員軍器弾薬食糧等充分ノ準備アリ軍費ニ  
ハ經常費以外ノ臨時戰費ニ捻出ニ付大ニ困難ヲ感シ居ル  
モ之トテ何トカ都合ノツケラル方面ヨリ融通スル考ナ  
ルカ右ニ関連シテ滿州ニ於ケル二分五厘付加税ノ問題ア  
リ同付加税ハ既ニ支那本部南北ニ實行セルモノナルカ滿  
州タケニ實施セラレストナリテハ自分ノ体面ニモ閑スル  
訳ニテ実ハ成ル可ク日本ノ諒解ヲ得タル上ト思ヒ今日迄  
実施ヲ見合セ来レルモ日本ノ承諾ナキ以上致シ方ナキニ

事ヲ派シ滿州各地ノ事情ヲ調査セシムル等相当ノ手段ヲ講  
シ居ル次第ニテモアリ本件ハ本使ト外交總長トノ交渉ニ任  
セラレタシト答へ置ケリ

上海、奉天ヘ転電シ奉天ヨリ哈爾賓、安東、牛莊ヘ暗送セ  
シム

82 昭和2年4月(5)日

在奉天吉田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

付属地内の借地権、転売権に関する中国人、  
その他外国人への制限を除去すべき旨の意見

具申

第七八号

奉天 発  
本省 4月5日前着

沿線鐵道付属地ハ支那人ニ対シ土地ノ貸下ヲ制限シ又自由

ニ借地権ノ転売譲与ヲ許サヌ支那商人ハ郭松齡事変等ノ際

支那町ノ危険不安ヲ恐レテ付属地ニ逃込ム者アルモ事変治

マレハ忽ニ去リ取引ノ中心ハ依然支那町ニアルヲ以テ往電

第三六号ノ如ク付加税関係発生ノ場合直ニ付属地内ニ於テ  
商取引ヲ完了セシムルコト能ハサル狀態ナリ付属地ハ戰乱

リハ暫時守勢ヲ執リ充分ニ軍容ヲ備ヘタル上攻勢ニ出ス  
可キ旨ヲ命シ置キタリ河南ハ徐州、鄭州間ノ隴海鉄道連  
絡成リ又京漢沿線ニテハ漸次南下シ形勢有利ニ向ヒツツ  
アリ

付

各地ニ於テ付加税未納品ハ脱税品トシテ禁止スルノ外ナキ  
處右ハ或種ノ日貨排斥ニシテ自分ノ本意ニ非サルハ勿論各  
地ニ於テ種々ナル紛擾ヲ釀ス惧アルニ付其辺日本政府ニ於  
テ篤ト御諒察ノ上右至急実施方ニ付御諒解ヲ得タシ

ト述ヘタルニ付本使ハ南京事件ハ支那ノ不幸ニシテ各國モ  
重大視シ居レリ各國ノ態度ハ未タ判明セサルモ日本政府ト  
シテハ本件真相判明ト共ニ適當ナル措置ヲ執ル筈ナリ條約  
遵守主義ハ貴下ノ貴重ナル寶物ニシテ各国カ貴下ヲ信用シ  
居ルモ之カ為ナリ又時局ハ必シモ戰争ノ勝敗タケニテ決  
スルモノニ非ス貴下ノ勢力範囲ニ属スル内部ノ團結及人心  
ヲ收攬スル事緊要此上共自重アリタク軍費ノ困難ニハ同情  
スルモ何レノ方面ヨリモ借款ハ至難ナルヘシト述ヘ以テ付  
加税ノ不当課稅ナル所以ヲ指摘シタル上貴下ハ只今條約遵  
守主義ヲ嚴守スト云ハレタルモ條約違反ノ付加税実施ヲ要  
求セラルルハ其主義ニ反スル訳ナリ日本ハ当初ヨリ該付加  
稅ノ不当ナル事ヲ主張シ来リ條約ニ反スル課稅トシテ飽ク  
迄承認ヲ与ヘサル意見ナリ只條約論ハ暫ク擋キ實際問題ト  
シテ何等カノ弁法ヲ講シ然ル可シトノ考ヘニテ特ニ蜂谷領

シテ何等カノ弁法ヲ講シ然ル可シトノ考ヘニテ特ニ蜂谷領

又ハ不當課稅ニ對シ安全地帶タルヘキニモ拘ラス遂ニ經濟

ノ中心タラサルハ貓額大ノ鐵道付属地ヲ日本人ニ独占セシ

ムルヲ以テ我人口問題解決ノ一端ナリトナス俗論ヨリ出ツ

之力為目下我付属地ハ苦力其他ノ支那小商人ノ集合地ニシ

テ邦人ハ共食生活ニ依リテ生計ヲナシ日ニ萎微不振ノ經濟

狀態ニアリ露西亞カ鐵道付属地ヲ支那町ヨリ遠隔ナル地ニ  
設ケ支那町ノ繁榮ヲ此處ニ移サントセル用意ハ今ヤ之ヲ了  
解スルヲ得タリ現ニ各地戰爭ト課稅ノ誅求ニ苦ミ支那商民

ノ鐵道付属地内ニ居ヲ移サントスルモノ益々多カラントス

ル傾向日ニ顯著ナラントスルヲ以テ此際支那商人及ヒ外國

人ニ対シ付属地内ノ借地権及其転売等ニ關スル制限ヲ除去

シ各地支那町ノ繁榮ヲ沿線付属地内ニ移スノ計画ヲ断行セ

シヌタシ幸開東長官及滿鉄社長在京ナレハ往電七二号ト共ニ  
御協議煩度シ

還延期方要望について

奉天 4月8日後發

83 昭和2年4月8日 在奉天吉田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

東三省形勢急轉の可能性もあり滿州駐屯軍帰

本省 4月8日後着

本側の承認を求める旨の中国側の申入れにつ

第八四号

往電第七二号ニ関シ

中央政局ノ変転ニ伴フ東三省形勢ノ急転モ益々遠カラサル  
ヲ思ハシム奉票ハ既ニ千元代ヲ突破シ早クモ一千五百乃至  
二千元說出テ物価騰貴生活不安等政治ニ財政ニ社会事相ハ  
暗々ノ内ニ物情穩ヤカナラス变一度生セハ其波及スル所予  
想スヘカラス因テ被ムルヘキ我滿蒙ノ権利利益ニ対スル実  
害ハ到底中部南支方面ノ夫レト比スヘカラス或ハ我發展ノ  
将来ニモ關係スヘキモノアルヘク而シテ我権利利益ノ擁護  
ハ畢竟我実力ヲ以テスル外ナク事變ノ場合ニハ俄ニ増兵其  
他ノ措置ニ出ツルモ徒ニ外間ノ視聽ヲ歛ルノミニテ而モ万  
カ一二モ違算アラハ百年ノ悔ヲ貽ス惧アリ依テ時局見据エ  
付ク迄目下帰休ヲ急キツヴァル滿州駐屯軍ニ暫ク帰還延期  
ヲ命令セラルル様致度至急御詮議ヲ仰ク  
北京へ転電セリ

84 昭和2年4月11日

在奉天吉田總領事宛  
幣原外務大臣（電報）

銷場稅を撤回する代わりに付加稅に関する日

在支公使、牛莊、安東、長春、哈爾賓へ転電セリ

85 昭和2年4月13日

幣原外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛  
（電報）

付加稅問題に関する請訓の弁法で差支えない

旨の訓令

本省 4月13日後6時25分発

第四六号  
貴電〔第八九号〕ニ関シ

御申越ノ弁法案ハ貨物ヲ付屬地外ニ搬出セムトスル我商人  
カ先ツ税関ニ正税ヲ納入シタル上右納稅額ヲ証明スヘキ放  
行單又ハ其他ノ書類ヲ得テ之ヲ付屬地外税局ニ提示シ之ヲ  
基礎トシテ同局ニ於テ付加稅ヲ納付シ無検査ニテ貨物ヲ通  
過セシムルコトシタキ趣旨ト解セラルル處右ハ至極妥當  
ノ方法ニテ我方從來ノ主義ニ副フモノト認メラルニ付支  
那側ニ於テ右ノ取扱ヲ實行スル場合ニハ我方トシテハ條約  
トシ差支ナシ

86 昭和2年4月16日

外務省亞細亞局  
陸軍省軍務局 係官會議

奉天 4月11日後發  
本省 4月12日前着

いて

往電第七二号ニ関シ

第八九号

往電第五三号ニ関シ

付加稅問題ニ付テハ省長ノ銷場稅問題ニ関スル不誠実ヲ理  
由トシテ暫ク交渉打切り居ル處我商人側モ本件ヲ余り長ク  
未決ノ間ニ置クコトヲ困難トスル事情モアリ又支那側ニ於  
テモ本件ノ解決ヲ促進セシメタシトテ過日來交渉員ヨリ本  
官ニ彼此ト申迫リ結果銷場稅問題撤回方ニ付張作霖ノ同意  
ヲ得ヘクンハ付加稅問題ニ關シ帝国政府ノ諒解取付方本官  
ノ尽力ヲ請フ旨申来レリ就アハ支那側カ事實銷場稅問題ヲ  
全然撤回スル場合ニハ往電〔七八文書〕第六九号記載ノ三案ノ中〔三〕形式  
中滿鐵ノ関与スル部分ヲ除キ本邦商人カ付加稅支払書付放  
行單ヲ税捐局ニ呈示スレハ税捐局ニ於テ無検査通過ヲ許ス  
コトニ取極メ付加稅徵收不取敢開始スルコトヲ同意シ實際  
ノ不便ヲ生スレハ更ニ必要ナル方法ヲ案出スルコトニ致度  
ク右ニテ差支ナキヤ予メ御回訓ヲ請フ

満州および北支の警備方法に関する外務陸軍

係官會議要領

満州其他ノ警備方法ニ関スル外務陸軍係官會議要領  
昭和二年四月十六日外務省ニ於テ満州其他ノ警備方法ニ関  
シ外務陸軍両省係官（外務省側ヨリハ亞細亞局谷第一課長、  
中山第二課長、陸軍側ヨリハ軍務局林軍事課長、重藤中佐  
出席ス）会合協議セリ議事要領左ノ通り

一、一般方針

林軍事課長

満州其他ノ警備問題ニ付テハ實行上種々困難ノ点アリ  
テ未タ具体案ヲ得サル次第ナルカ今日ハ先外務省側ノ  
大体ノ希望ヲ承リ右立案ノ基礎ト致度シ

谷第一課長

外務省トシテノ意見ハ別トシ係官限リノ意見トシテ述  
へ度シ

〔一〕先第一ニ南支那ト北支那トハ見方ヲ異ニスルノ要ア  
リ南支ニ於ケル日本ノ利益ハ貿易ト投資トニ依ル移動  
的利益ニシテ之ヲ保護セムカ為ニハ日本トシテハ非常  
ナル國力ヲ賭セサルヘカラス反之北支ニ於ケル我方ノ

利益ハ鉄道其他固定的ノモノニシテ殊ニ滿州ニ付テハ諸般ノ関係上日支親善延テハ又日米親善ノ基礎タルヘキ重要地域ニシテ既ニ我国ハ二度流血ノ犠牲ヲ払ヒ居リ将来ニ於テモ如何ナル犠牲ヲ払ヒテモ之ヲ守ラムトスルノ決心ヲ有スルコトハ中外皆之ヲ知ル所ナリ

〔〕之ヲ居留民問題ニ付テ見ルモ南支ニ於テハ居留民数僅ニ三万足ラスノ數ニ過キサルニ北方ニ於テハ内鮮人併セテ七八十万以上ニ及ハムトス（日本人約二十万、

鮮人數ハ領事ノ調ニ依レハ五十三万、朝鮮總督府ノ調ニ依レハ百五十万ト註セラル）故ニ滿州ヨリ全部居留民ヲ引揚クルコトハ南支ト北支トノ間ニハ相違ヲ

〔〕支那人ノ氣風ニ付テモ南支ト北支トノ間ニハ相違ヲ認メサルヲ得ス南方ハ既ニ一旦赤化ノ洗礼ヲ受ケ爾後漸次桃色トナリツツアル處北支ニ於テハ他日赤化ノ風潮來ラハ如何ナル事態トナルヘキヤ大イニ憂フヘキモノアラム

四叙上ノ考慮ニ基キ自分ノ希望トシテハ滿州ニ於テ出来得ル限り現状ヲ持続シ日本居留民ノ保護、我方財產利益殊ニ *vested interest* ノ保護及滿蒙政策ニ關スル

日本ノ外交上ノ威信ヲ損セサラムコトヲ希望スルモノニシテ滿州ニ駐派スヘキ兵數ハ既ニ先日ノ閣議ニ依リ決定ノ通ナルカ我方利益保護ノ為ニハ出来得ル限り支那側ノ兵力ヲ利用スルノ策ニ出テサルヘカラスト思考ス  
中山第二課長  
現在想定セラルル居留民ニ対スル危険ハ〔〕外部ヨリ来るモノト〔〕内政ノ紊乱ヨリ来ルモノナル処〔〕外部ヨリ来る危険ニ付テハ仮ニ露國側カ侵入シ来ルモノトスルモ露人ハ直接日本人ヲ敵トスルモノニ非サル關係上我居留民ハ卷添ヘラ食フ虞ハアラムモ之ニ対シ適宜保護ヲ加フルコトトスレハ現状ノ儘居据リ居リ不都合ナキモノト思考セラル

〔〕内政紊亂ヨリ来る危険例ヘハ奉票ノ暴落或ハ東三省各省ノ分裂等ニ付テハ居留民ハ何物ヨリ避難スヘキヤノ対象ナキニ付之亦現状ノ儘居据ルコトトシ差支ナカルヘシ

二於テハ現状ヲ維持スルコト致度シ唯問題トナルハ鮮人居留民ナルカ之ハ理論上ヨリ云ヘハ勿論日本人トシテ内地人同様保護ヲ加フヘキ次第ナルカ不逞ナルモノノ中ニハ却テ我方ノ保護ヲ受クルヲ好マサルモノモアルヘク且奥地ニ散在セル鮮人労働者ヲ一々保護スルコトハ事實上不可能ナルニ付政策上ノ關係アラハ兎ニ角居留民保護ノ見地ヨリスレハ鮮人青年会等ノ手ニ依リナルヘク鮮人ノ自治自衛ニ任セ度シ結局滿州ニ於ケル最大重要ノ問題ハ居留民ノ保護ヨリモ *vested interest* ノ保護ナルヘシ

## 二、具体的の方針

林軍事課長

本年四月末ヲ標準トシテ見レハ滿州駐屯ノ兵數ハ約一

万二千ニシテ右ノ兵力ヲ以テ何ヲナシ得ルカヲ決定スル為ニ先ツ外務省側ノ希望ヲ具体的ニ承知シ度キ次第ナルカ以下逐次質問スルコト致度シ

第一、満鉄（安東線ヲ含ム）ノ鉄路ハ勿論保護セサル可ラサルカ沿線各小駅ノ居留民ノ保護ハ技術上一万二千ノ兵力ヲ以テハ到底十分ニ之ヲ行ヒ難キ处处外務省ト

第二、吉林ノ警備ハ如何ニスヘキヤ

中山第二課長

居留民ノ問題トシテハ全部長春ニ引揚クルコトモ困難

ニ非サルカ政治上別ニ考慮ヲ要スル点モアルヘシ

谷第一課長

吉林ハ内政的ニハ奉天ト相對スルノ地位ニアリ且吉会線ノ關係モアルニ付間島ノ問題トモ併セ考フルヲ要スヘク政情ノ変転如何ニ依リ変通自在ノ方法ニ依ルノ外

ナシト思考ス

林軍事課長

第三、陸軍トシテハ北満警備ノ為策戦上哈爾賓、洮南、

齊々哈爾（齊々哈爾ヘハ約一大隊）ニ出兵シ度キ意向

ナルカ鄭家屯、白音太拉、赤峰等ハ如何ニスヘキヤ

中山第二課長

白音太拉ニハ相當數ノ居留民アリ引揚ハ稍困難ナルヤ

モ知レス赤峰ノ居留民ハ錦州ニ引揚クルヲ便トスヘシ

唯齊々哈爾出兵ノ結果ハ日本側ハ釣込マレテ結局支那

ノ為ニ東支全線ノ保護ニ任セサル可ラサルニ至リ結局

日支共同シテ露國ト戰フコトトナル虞アルヘシ

谷第一課長

北満ノ警備ニ付テハ吳俊陞ノ兵力ヲ十分利用セラルル

コトトシ立前トシテハ飽ク迄支那人自身ヲシテ治安ノ

維持ニ当ラシメ我方ハ精神的援助ヲ与フルコトトスヘ

キモノト思考ス唯洮南、鄭家屯ハ東支南線不通ノ場合

ヲ考慮ニ容レ相当力ヲ用フル必要アルヘシ

林軍事課長

第四、滿州里ヲ如何ニスヘキヤ

林軍事課長

第五、「ボグラニチナヤ」ハ如何ニスルヤ

中山第二課長

滿州里ト同様ニテ可ナルヘシ

已ル次第ナルヘシ

中山第二課長

第六、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

沿線ノ保護ハ勿論ナルカ錦州、連山灣、葫蘆島等モ保

護スルコト致度シ

林軍事課長

第七、山東ノ警備ハ如何ニスルヤ

中山第二課長

中山第二課長

満州里モ露國ニ対スル一ノ拠点ニシテ我方トシテハ可

成ハ引揚ケラ希望セサルモ遠隔ノ地点ニテ特ニ之カ為

兵隊ヲ派遣スルコトハ策戦上困難ナルヘキノミナラス

居留民ハ壳春婦及不正業者ナルニ付此際ハ引揚モ不得

已ル次第ナルヘシ

中山第二課長

白音太拉ニハ相當數ノ居留民アリ引揚ハ稍困難ナルヤ

モ知レス赤峰ノ居留民ハ錦州ニ引揚クルヲ便トスヘシ

唯齊々哈爾出兵ノ結果ハ日本側ハ釣込マレテ結局支那

ノ為ニ東支全線ノ保護ニ任セサル可ラサルニ至リ結局

日支共同シテ露國ト戰フコトトナル虞アルヘシ

谷第一課長

北満ノ警備ニ付テハ吳俊陞ノ兵力ヲ十分利用セラルル

コトトシ立前トシテハ飽ク迄支那人自身ヲシテ治安ノ

維持ニ当ラシメ我方ハ精神的援助ヲ与フルコトトスヘ

キモノト思考ス唯洮南、鄭家屯ハ東支南線不通ノ場合

ヲ考慮ニ容レ相当力ヲ用フル必要アルヘシ

林軍事課長

第四、滿州里ヲ如何ニスヘキヤ

林軍事課長

第五、「ボグラニチナヤ」ハ如何ニスルヤ

中山第二課長

滿州里ト同様ニテ可ナルヘシ

已ル次第ナルヘシ

中山第二課長

第六、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

沿線ノ保護ハ勿論ナルカ錦州、連山灣、葫蘆島等モ保

護スルコト致度シ

林軍事課長

第七、山東ノ警備ハ如何ニスルヤ

中山第二課長

第八、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

沿線ノ保護ハ勿論ナルカ錦州、連山灣、葫蘆島等モ保

護スルコト致度シ

林軍事課長

第九、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十一、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十二、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十三、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十四、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十五、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十六、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十七、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十八、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第十九、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十一、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十二、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十三、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十四、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十五、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十六、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十七、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十八、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第二十九、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十一、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十二、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十三、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十四、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十五、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十六、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十七、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十八、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第三十九、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十一、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十二、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十三、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十四、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十五、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十六、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十七、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十八、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第四十九、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十一、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十二、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十三、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十四、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十五、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十六、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十七、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十八、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第五十九、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十一、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十二、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十三、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十四、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十五、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十六、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十七、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十八、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第六十九、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第七十、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第七十一、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

第七十二、京奉線ハ如何ニスヘキヤ沿線ノ保護タケニテ満

足スルヤ

中山第二課長

問ハス滿州ノ治安ハ我力ノ及フ限り之レカ維持ニ任シ度之  
レ所謂我優越ナル地位ヲ確保スル所以ナルヘク我力ノ及フ

ヘクハ吉長線洮昂線等我投資鉄道保護ニモ当リ以テ我勢力

農若クハ南方軍ノ使嗾等ニヨルストライキ等ハ我官憲ニ於

テ厳ニ強圧シ度翻テ考フルニ滿州ニ於テハスル治安混乱ノ

事態ヨリモ最モ懸念スヘキ張作霖失脚ニ伴フ東三省政局ノ

混亂ニアル斯ル變局ニ際スレハ或ハ排張援張ノ議論生シ或

ハ楊宇霆又ハ王永江支持論モ生シ將又将来我ニ於テ有利ナ

ル情勢ヲ馴致スルカ為トテ種々小策ヲ弄セントスル輩ノ生

スヘキモ我滿州經營ハ帝國ノ國力ヲ以テ遂行スヘク張ニ依

リ楊ニ依リ將又王ニ依リテ事ヲナスヘキニ非ス如何ナル場

合ニモ小策ヲ弄スルハ斷シテ排除シ度滿州經營ノ要諦ハ東

三省鐵道政策及通貨政策ニアルヘク東三省ニ於ケル日露支

鐵道ヲ一團トシテ之力連絡組織ヲ考へ通貨制度三対スル相

當ノ考案ヲ案出シ右二案ヲ東三省ニ實施スルノ機會ヲ得ハ

滿州ニ於ケル我優越ナル地位ハ經濟的ニモ樹立スルヲ得ハ

キカト思考スル次第ヲ述へ候處閔東長官ハ軍司令官ニモ本

官ノ意見ヲ開陳シ置様トノ事ニ付長官同道軍司令官ヲ尋ネ

又翌十八日滿鉄社長ニ右様ノ意見ヲ陳述致置候 敬具  
昭和二年四月二十一日

木村亞細亞局長殿

吉田 茂

89 昭和2年4月23日 児玉閑東長官より  
田中外務大臣宛(電報)

東三省現状維持の方針について

関東厅 4月23日後發  
本省 4月24日前着

一月十七日吉田總領事來旅ヲ機トシ軍司令官トモ會見シ支  
那時局ニ對スル処置振等ニ付相談シタル處[一]今後支那時局  
ニ處シ各官憲互ニ連絡協調シ滿州ニ於ケル治安ノ維持ニ全  
力ヲ尽シ[二]時局ノ変転ハ俄ニ逆睹シ難キモノアルモ我最密  
接ノ關係ヲ有スル東三省ニ於テハ成ルヘク現状ヲ維持スル  
ノ方針ヲ取ルコト然ルヘシ萬一急ニ形勢ノ重大ナル變化ア  
ル場合ニ於テモ其推移ヲ靜観シ適宜ノ処置ヲナシ[三]以テ滿  
蒙ニ於ケル我特殊優越ノ地位権利ヲ擁護確立スルニ違算ナ  
キヲ期スルコトニ協議ヲ遂ケタリ右ノ趣旨滿鉄社長ニモ伝  
へ置キタリ

90 昭和2年4月26日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

大連海關に海關監督設置の意向中國側より申

入れについて

北京 4月26日前發  
本省 4月26日後着

第四八三号

顧外交総長ヨリ四月二十三日付公文ヲ以テ

『大連海關ハ設置ノ当初商業未タ十分發達シ居ラサリシ為  
海關監督ノ官職ヲ同時ニ設置スルコトナク實際上其事務ハ

多クハ奉天交渉員ニテ代弁シ來リタル次第ナル處右ハ距離

遠隔ニシテ往復手続上支障尠カラス一面大連ノ商業ハ日々

益々拡張セラレ昔日ノ比ニアラス現在ノ狀況ヨリ推ス時ハ

是非共海關監督增設ノ必要アリト認メラル依テ大連海關設

置ニ關スル協定第十五条後段ノ規定ニ基キ直ニ大連海關監

督ヲ増設スルコト致度ク就テハ右ノ次第貴國政府ニ御伝

達ノ上何分ノ儀回示アリタシ』トノ趣旨ヲ申越セリ右ハ大

連稅關ニ於テ付加稅徵收ノ件ニ關係アルモノト認メラル

ニ付不取敢電報ス

三 満蒙懸案解決交渉

91 昭和2年4月29日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

大連海關監督設置の中國側申入れを拒絶すべ

き旨の意見具申

北京 4月29日前着  
本省 発

第四九五号

往電(九〇文書)  
〔四〕八三号ニ関シ

〔一〕岸本ノ内話スル所ニ依レハ最近奉天財政局ヨリ吏員二名

ヲ大連稅關ニ派遣シ付加稅徵收方ニ付協議セシメタルモ

其ノ方法無カリシ為支那側ニ於テハ他ノ稅關ト同様海關

監督ヲ置クコトトシ之ニ依リ付加稅徵收ヲ実現セシメン

トルモノト察セラルル處同稅關ニ於テハ滿鉄輸送貨物



大連海關監督設置に関する中國側公文および

日本側回答覚書送付について

(5月12日接受)

機密第四五三号

昭和二年五月四日

在支那

特命全権公使 芳沢 謙吉 (印)

外務大臣男爵 田中 義一 殿

大連海關ニ海關監督設置ノ件

本件ニ關シ顧外交總長ヨリ四月二十三日付公文ヲ以テ申越  
ノ次第ハ往電(九〇文書)第四八三号所報ノ通ナル處右公文写並訳文ハ  
別紙甲号及乙号ノ通ニ有之尚本件ニ關スル往電(九一文書)第四九五号  
卑見ニ對シ貴電第二四三号ヲ以テ御回訓アリタルニ付別紙  
丙号ノ通本月四日付覚書ヲ以テ回答シ置キタルニ付委曲別  
紙ニ就キ御了悉相成度

本信写送付先

奉 天

(別紙甲号)

照 会 希字第十号

(別紙乙号)

(訳 文)

照会事查大連設置開之始因商務尚未甚發達故該關監督一欠未  
經同時設置其失關於監督應弁事件多由奉天交涉員代弁然相  
距頗遠輾轉周折不無窒礙現在商務日益擴充已非昔比該關監  
督一職揆之現在情形實有添設之必要茲中國政府根據前清光  
緒十三年中日會訂大連設置徵稅辦法第十五款內載商口岸岸  
監督關道所有之職權大連關均與一律無異等語之規定擬即添  
設大連海關監督以重稅務而專責成相應照會

貴國政府並見復為荷須至照會者

右 照 会

大日本國欽命駐華全権公使 芳 沢

中華民國十六年四月二十三日

交渉員ニ於テ之ヲ代弁シ來リタル次第ナル處、右ハ距離遠  
隔ニシテ往復手続上支障尠カラス、一面大連ノ商業ハ日ニ  
益々拡張セラレテ已ニ昔日ノ比ニ非ス現在ノ状況ヨリ推ス  
トキハ是非共海關監督增设ノ必要アルモノト認メラン候。

仍テ今般中国政府ハ前清光緒十三年中日間ノ協定ニ係ル大  
連海關設置並徵稅办法第十五条中ノ「通商港監督海關道ノ  
有スル職權ハ大連海關ニ於テ凡テ他ト一律差違ナキモノト  
ス」トノ規定ニ基キ直ニ大連海關監督ヲ増設シ以テ稅務ヲ  
重ンシ其職責ヲ完フセシムルコトニ致度、就テハ右ノ次第  
貴國政府へ御転達ノ上何分ノ儀御回示相成度、此段照会得  
貴意候。

敬 具

民国十六年四月二十三日 顧 外 交 總 長

芳 沢 公 使 宛

(別紙丙号)

覚 書

日本帝国公使ハ大連海關設置ニ關スル日支協定第十五条後  
段ノ規定ニ基キ大連海關ニ海關監督ヲ設置センコトヲ提議  
セル昭和二年四月二十三日付外交總長ノ書翰ヲ閱悉セリ

外 交 總 長 顧 為

滿蒙懸案解決交渉

日本帝国公使館

吉田総領事宛

96 昭和2年5月5日

在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛

打通線問題に関する大蔵滿鉄理事との電報往復について

機密公第二五二号

(5月9日接受)

昭和2年五月五日

在奉天

総領事 吉田 茂(印)

昭和2年五月四日電報  
(別添乙号)

吉田總領事發

大蔵理事宛

本件ニ閣シ今般大蔵滿鉄理事ヨリノ別添甲号ニ対シ本官ヨリ別添乙号ノ如ク回答シ置キタルニ付右ニ御了知相成度此段申進ス

本信送付先 外務大臣、在支公使

(別添甲号)

昭和2年五月三日電報

大蔵理事發

打通線問題ニ閣スル貴電ニ対シ軍事輸送其他支那側ヘノ厚意ノ表示ヲ一時差止メ以テ其反省ヲ促サントスル卑見ニ対シテハ未タ何等ノ回訓ニ接セス政変ノ為多少回訓遲延ノ事情モアルヘキモ結局ハ帝国政府ノ決心一ツニツナカリ居ル次第付先ツ以テ帝国政府カ本件ノ重大性ト工事進行ノ現状ニ付キ知悉スルヲ要スヘク就テハ貴社ヨリ直ニ委細ヲ帝

第六号

大蔵理事宛

吉田總領事發

公文第二九七号

昭和2年五月七日

駐奉日本帝國總領事 吉田 茂

鎮威上將軍 張作霖 殿

吉田總領事

吉田 茂(印)

吉田總領事

外務大臣男爵 田中 義一殿

打通線問題ニ閣スル件

本件ニ閣シ今般大蔵滿鉄理事ヨリノ別添甲号ニ対シ本官ヨリ別添乙号ノ如ク回答シ置キタルニ付右ニ御了知相成度此段申進ス

本信送付先 外務大臣、在支公使

(別添甲号)

昭和2年五月三日電報

大蔵理事發

第六号

大蔵理事宛

吉田總領事發

公文第二九七号

昭和2年五月七日

駐奉日本帝國總領事 吉田 茂

吉田總領事

吉田 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

打通線問題ニ閣スル件

本件ニ閣シ今般大蔵滿鉄理事ヨリノ別添甲号ニ対シ本官ヨリ別添乙号ノ如ク回答シ置キタルニ付右ニ御了知相成度此段申進ス

本信送付先 外務大臣、在支公使

(別添甲号)

昭和2年五月三日電報

大蔵理事發

第六号

大蔵理事宛

吉田總領事發

公文第二九七号

昭和2年五月七日

駐奉日本帝國總領事 吉田 茂

吉田總領事

吉田 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

打通線問題ニ閣スル件

本件ニ閣シ今般大蔵滿鉄理事ヨリノ別添甲号ニ対シ本官ヨリ別添乙号ノ如ク回答シ置キタルニ付右ニ御了知相成度此段申進ス

本信送付先 外務大臣、在支公使

(別添甲号)

昭和2年五月三日電報

大蔵理事發

第六号

大蔵理事宛

吉田總領事發

公文第二九七号

昭和2年五月七日

駐奉日本帝國總領事 吉田 茂

吉田總領事

吉田 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

打通線問題ニ閣スル件

本件ニ閣シ今般大蔵滿鉄理事ヨリノ別添甲号ニ対シ本官ヨリ別添乙号ノ如ク回答シ置キタルニ付右ニ御了知相成度此段申進ス

本信送付先 外務大臣、在支公使

(別添甲号)

昭和2年五月三日電報

大蔵理事發

第六号

大蔵理事宛

吉田總領事發

公文第二九七号

昭和2年五月七日

駐奉日本帝國總領事 吉田 茂

吉田總領事

吉田 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

打通線問題ニ閣スル件

本件ニ閣シ今般大蔵滿鉄理事ヨリノ別添甲号ニ対シ本官ヨリ別添乙号ノ如ク回答シ置キタルニ付右ニ御了知相成度此段申進ス

本信送付先 外務大臣、在支公使

(別添甲号)

昭和2年五月三日電報

大蔵理事發

第六号

大蔵理事宛

吉田總領事發

公文第二九七号

昭和2年五月七日

駐奉日本帝國總領事 吉田 茂

吉田總領事

吉田 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

打通線問題ニ閣スル件

本件ニ閣シ今般大蔵滿鉄理事ヨリノ別添甲号ニ対シ本官ヨリ別添乙号ノ如ク回答シ置キタルニ付右ニ御了知相成度此段申進ス

本信送付先 外務大臣、在支公使

(別添甲号)

昭和2年五月三日電報

大蔵理事發

第六号

大蔵理事宛

吉田總領事發

公文第二九七号

昭和2年五月七日

駐奉日本帝國總領事 吉田 茂

吉田總領事

吉田 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

打通線問題ニ閣スル件

本件ニ閣シ今般大蔵滿鉄理事ヨリノ別添甲号ニ対シ本官ヨリ別添乙号ノ如ク回答シ置キタルニ付右ニ御了知相成度此段申進ス

本信送付先 外務大臣、在支公使

(別添甲号)

昭和2年五月三日電報

大蔵理事發

第六号

大蔵理事宛

吉田總領事發

公文第二九七号

昭和2年五月七日

駐奉日本帝國總領事 吉田 茂

吉田總領事

吉田 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

打通線問題ニ閣スル件

本件ニ閣シ今般大蔵滿鉄理事ヨリノ別添甲号ニ対シ本官ヨリ別添乙号ノ如ク回答シ置キタルニ付右ニ御了知相成度此段申進ス

本信送付先 外務大臣、在支公使

(別添甲号)

昭和2年五月三日電報

大蔵理事發

第六号

大蔵理事宛

吉田總領事發

公文第二九七号

昭和2年五月七日

駐奉日本帝國總領事 吉田 茂

吉田總領事

吉田 茂(印)

吉田總領事

吉田 茂(印)

吉田總領事

吉田 茂(印)

吉田總領事

吉田 茂(印)

大藏理事ヨリ満鉄側ニ於テハ海吉鉄道ニ対スル抗議撤回ト  
交換的ニ長大線ノ建設ヲ促進シ且支那側ヲシテ之ヲ行ハシ  
メ差支ナキ意向ニテ裏面ヨリ吉林側ト折衝中ナルコト並右  
ハ関係領事ヨリノ報告ニ依リ當方ニ於テモ承知ノ筈ナル趣  
木村ヘ申越シタルモ當方トシテハ右ニ關シ何等承知セサル  
處貴方ニ於テ本件ニ付御心当リノ次第アラハ折返シ回電ア  
リ度シ

本電吉林へ訓令トシテ転電シ北京へ転電アレ

99 昭和2年5月11日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

### 打通線問題に関し対滿政策の全局より意見具

#### 申について

北京 5月11日後發  
本省 5月11日後着

第五三七号

閣下発奉天宛電報（第五三七号）ニ閲シ

打通線問題（目下折角御考慮中ノコトト存セラルル處御参考迄左ニ卑見申上ク）打通鉄道ハ既ニ打虎山ヨリ彰武迄敷設セラレ残リノ彰武通遼間ハ僅少ノ距離ニシテ右連絡ノ上

ムヘク其レニハ支那側ノ協力ヲ要スル次第ニ付今日ニ於テ實際上效力ニ乏シキ言質ヲ楯トシテ早晚連絡ノ運命ニアル打通線ノ如キ鉄道ニ付争フハ不得策ニシテ寧ロ我方予定線ノ敷設ハ勿論天國鉄道ノ延長ヲ承認セシムルコトシテ打通線ノ連絡ニ対スル提議ヲ撤回スルノ建前トスル方然ルヘシト思考ス尚又打通線開通スルモ連山湾築港成ラサレハ殆ト其価値ナキ次第ニシテ然カモ右築港計画実行ニハ外國側資本ヲ要スル訳ニ付斯ル場合ニハ我方ヨリ資金ヲ供給シ我方ノ足場ヲ築キ置クコト必要ナリト思料ス

奉天へ転電セリ

100 昭和2年5月11日 木村亞細亞局長より  
大藏滿鉄本社理事宛（電報）

### 吉海鉄道に関する吉林側との交渉打切り要請

#### について

（編注）貴電海吉線ニ關シ滿鉄ニ於テ裏面ヨリ吉林側ト折衝中ナル趣ハ從來関係領事ヨリ何等報告ナク本官ノ全ク承知セサル所ニシテ目下関係領事ニ照会中ナル處元来海吉線問題ニシテハ本年一月貴理事ト本官トノ間ニ談合ヲ遂ケタル通諸

ハ満鉄ト併行線タルコトニ相違ナシト雖モ単ニ併行線ナル故ニ直ニ抗議スルハ余程考慮ヲ要ス錦愛鉄道ノ如ク日本以外ノ外國資本ニテ併行線ヲ敷設スル場合ニハ日本ノ滿州ニ於ケル政治上並ニ經濟上ノ立場ヨリ容易ニ同意出来兼ヌヘキモ翻テ我方從來ノ遣口ヲ見ルニ曩ニ新借款團成立ノ際洮齊線ハ敷設セシメサルコトナリ居タルニ僅カ二二三年ノ後満鉄側ニ取リテ有利ナリトシ我方ノ都合ニテ其ノ併行線ナルニ拘ハラス支那側ヲ勧説シ工事請負ノ形式ヲ以テ敷設ヲ了シ又洮齊及該線ノ一点ヨリ海口ニ至ル鉄道ハ最初果右一線カ満鉄ノ競走線タルコト打通線ト同様ナルニ拘ラス之ヲ借款團ノ費用ニテ敷設スルコトヲ承認シタリ然ルニ

新借款團ノ企業ヨリ除外シ置キタルモ英米政府ト交渉ノ結果敷設セントスルニ當リ我方ニ於テ之ニ反対スル唯一ノ根拠ハ滿州善後談判ノ際ニ於ケル言質アルノミニシテ之トテモノ見ル處ヲ以テスレハ前記ノ経緯ニモ鑑ミ余程薄弱トナレリ本使ノ今日トナリテハ前記ノ経緯ニモ鑑ミ余程薄弱トナレリ本使ノ見ル處ヲ以テスレハ往電（第七文書）第二八二号稟請卑見ノ通成ルヘク多數ノ鉄道ヲ敷設スルコト然ルヘク支那側ニ於テモ自ラ敷設スヘキト同時ニ日本側モ予定線ノ敷設ハ着々進捗セシ

条件ニシテ或ル一線ノ建設トノ交換条件トスヘキモノニ非ス一方長大線ノ建設ニ就テハ本来我方ニ於テ支那ニ借款權ヲ主張シ得ルモノナルモ場合ニ依テハ貸付又ハ請負ヲ為スコトニ譲歩スルモ可ナリトノ方針ナリ然ルニ今回ノ案ハ条件中不明ノ点アルモ大体支那側カ自由ニ布設スルノミニテ満鉄トノ關係甚稀薄ナルノミナラス政府トシテモ之ヲ認諾スル上更ニ海吉線ヲモ譲歩スルコトナリ極メテ不得策ナリト思考セラレ小生ノ同意シ得サル所ナリ満蒙諸鉄道一併解決ニ関シテハ貴理事トノ打合案ヲ基礎トシ近ク政府ニ於テ考究決定ノ筈ニテ旁此ノ際本件交渉ハ之ヲ打切り深入セラサル様致度シ

編注 本文書は五月一日午後五時入江理事の使へ手交され、「満鉄東京支社ヨリ満鉄暗号ニテ發電ノコト」と注記があり、外務省の電信番号は記されていない。

101 昭和2年5月12日 大藏滿鉄本社理事より  
滿鉄東京支社長宛（電報）

### 吉海鉄道に関する吉林側との交渉打切りにつ

#### いて

鐵道懸案全部ヲ我方ニ有利ニ解決スル際最後ニ持出ス讓歩

極秘 支社長宛 大藏理事宛 5月12日午後4時50分着

### 三 满蒙懸案解決交渉

亜細亜局長へ左ノ通御申出乞フ

貴電拝誦御垂示ニ基キ免モ角本件ノ話ヲ此際一応打切ルコトトセリ但シ長扶線ニ対シ変態的処理方法ヲ考慮スルニ至リタルハ曩ニ御協議以後ニ於ケル奉天省、吉林省ノ政情ヲノ報告ニテ御承知ノコトト信シタルニ其ノ事ナカリシハ甚遺憾ニ存ス何レ更メテ從来ノ経過ト愚見ヲ貴覽ニ供スヘキニツキ御承知置キ乞フ

102 昭和2年5月13日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

吉海鉄道抗議撤回は民間交渉によらず日本政府の決定を俟つべき旨回電について

奉天 5月13日後着 発  
本省

第一四〇号  
貴電第六一號ニ閲シ

去四月二十八日大藏ヨリ當時迄ノ長大線交渉ノ経過ニ付大体ノ話アリ右ハ和登（長春）及峰畠（吉林）等ノ話ヲ基礎

経由亜細亜局長宛電文ハ一層具体的ナルヲ見ル不取敢在支公使、吉林、長春へ転電セリ

103 昭和2年5月13日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

打通線問題に関する芳沢公使の意見に対し從來の態度を維持すべきこと肝要なりとの意見

具申

奉天 5月13日後発  
本省 5月13日後着

第一四一號  
本官發在支公使宛電報第一〇二号

大臣宛貴電第五五三七號ニ閲シ

打通線ニ関スル貴見ハ一応誠ニ御尤ナルモ打通及海吉両線完成ノ晚ニハ満鉄ハ打通洮昂線並奉海、海吉ノ二並行線ヲ

有スル結果トナリ只ニ満鉄ノ利益保護上面白カラサル状態ヲ生スルノミナラス翻テ又我政治上ノ立場ニモ關係スヘク故ニ打通、海吉両線カ早晚敷設ノ運命ニアルトスルモ満鉄

カ何等業務連絡協定ヲ有セシテ其完成ヲ座視スヘキハ之ナク且北京議定書ニ依リ我ニ相當ノ口実アル以上嚴然タル

トセルモノニシテ彼等ノ話力如何程迄確實性アリヤ本官ニ

於テハ見究メ難ク直ニ栗原領事ニ問合セフ為シタル處同領事ニ於テモ本官ト同意見ニテ支那側トノ交渉ハ全然和登並ニ峰畠ヲ通シテノ事ナレハ支那側真意モ測定シ難ク今後事

篤ト研究シ新局面ニ適合スル变通ノ道ヲ講スルノ緊要ナルヲ認メタルニヨルモノニテ此等ノ經緯ハ隨時関係領事ヨリノ報告ニテ御承知ノコトト信シタルニ其ノ事ナカリシハ甚遺憾ニ存ス何レ更メテ從来ノ経過ト愚見ヲ貴覽ニ供スヘキニツキ御承知置キ乞フ

内面的ニモ相当関係ヲ有スルニ至ルモノトスレハ必シモ排斥スヘキニ非サルモ海吉線抗議撤回ト否トハ満鉄会社ノ都合ノミニ依ルヘキニ非スニ帝国政府ノ決定ヲ俟ツヘキモノニシテ満鉄会社ト本鉄道關係トノ内面的關係ノ程度如

何ニ依リ決定セラルヘキハ申ス迄モナキ次第ナレハ本官ハ大藏ヘハ本件経過ヲ逐一早目ニ本省へ報告シ置ク様勧告シ置キタルカ當時大藏ハ大連ニ帰リタル上重役會議ニ付議シタル上早速報告ヲスヘシト云ヒ居リタリ其後支那側トノ交渉ハ更ニ進捗シタリト見エ本日大藏ヨリ入手セル東京支社

商議ヲナシテ支那側ノ反省ヲ促シ彼等カ翻然其從来ノ態度ヲ改メ我ニ対シテ自發的ニ和親妥協ノ精神ヲ以テ満州問題ヲ処スルノ氣風ヲ馴致スル様致度ク單ニ連絡ノ運命アルカ故ノミニテ輕々シク我主張ヲ放棄スルハ貴電ニ所謂鐵道敷設ニ付支那側ノ協力ヲ得ル所以ニモ非サルヘク彼我相互連絡共助ヲ目的トシテモ本件抗議ハ依然從来ノ態度ヲ維持スルコト肝要ナリト思考ス東三省政府ノ從来ノ態度及我満州鐵道政策ノ将来ニ顧ミ御再考願ハシク存ス  
外務大臣へ転電セリ

104 昭和2年5月18日 大藏満鉄本社理事より  
木村亞細亜局長宛

吉海鉄道及び長扶鉄道について

庶秘第五三号（極秘）（接受日不明）

昭和2年五月十八日

南滿州鐵道株式會社

理事 大藏 公望

亞細亜局長 木村 銳市殿

海吉線及長扶線ニ閲スル件

本省ニ関スル貴省御意向ハ五月十一日付弊社東京支社長ヨリ電報ニテ敬承則チ拙電ニ依ル交渉ハ一応之ヲ打切り候然ルニ滿蒙鉄道問題一括処理ニ付テハ左記ノ如キ事情有之候ニ付從来吉林、長春各領事官トモ御協議ノ上長扶線ニ限り之ヲ切離シテ海吉ニ対スル政府御抗議撤回ト交換的ニ此線ヲ促進セシムルノ案ヲ立テ非公式ニ吉林当局ト交渉シ來リタル次第モ有之拙電記載条件ノ適否ハ別シテ長扶線ハ今後ト雖尚之ヲ切離スニ非サレハ其ノ建設ハ或ハ大ニ後レ或ハ幾多ノ支障ニ遭遇シ仮リニ張作霖氏ノ強圧命令ノ下ニ長大線ヲ敷設シタル場合吉林官民ノ怨恨ハ主トシテ其ノ命令ヲ出サシメタル滿鉄及日本ニ集リ今後吉林トノ関係極メテ不円滑トナル可キヲ憂慮被致候ニ付此点ニ關シ貴省ニ於テ重テ慎重御考慮ヲ仰キ度取急キ左ニ其ノ理由ヲ陳述致候間御高闘ヲ賜リ度右得貴意候

敬具

## 記

貴官ト小職間御協議ノ事項ハ固ヨリ政府ニ於テ正式御決定ニ至リタルモノニアラス隨テ小職カ何等行動ヲ執ル際ニ於テハ更テ御指示ヲ蒙ルヘキコトハ万々承知致シ居リタルカ帰社以来海吉線ニ關スル吉林省ノ態度ヲ觀察スルニ吉林總

省治思想ノ具体化漸ク濃厚ヲ加フルニ反シ張作霖氏ニハ吉林省民ノ輿論ヲ排シテマテ奉天集權ノ実ヲ挙ケ得ルノ勢威ナク吉林省民ハ此ノ機微ヲ見テ奉天ノ桎梏ヨリ離脱セントスルノ傾向日ニ加ハルアリ然レハ吉林主腦部ニ於テモ張作霖氏トノ関係ハ有リナカラ漸次此ノ大勢ニ順応シ省民ノ希望ニ副フヲ得策ト思惟セシモノノ如ク最近ニ於ケル禁煙令及馬賊討伐ニ關シ奉天ノ方針ヲ排除シタル事実ハ此間ノ消息ト奉吉勢力ノ消長ヲ窺フニ足ルヘシ之ヲ要スルニ吉林ノ政情ハ省人省治ノ方針ニ於テ官民ノ利害一致シタルモノニシテ張作霖氏ノ勢力減退ニ反比例シテ此ノ傾向ハ今後トモ益顯著トナルヘキヲ信ス此ノ暗流ノ存スル限り各省ノ利害必スシモ一致セサル諸鉄道問題ハ之ヲ一括解決セムトスルモ奉吉对立ノ勢ヲ釀成シツツアル今日ニ於テ果シテ実行可能ナルヘキヤ疑ナキ能ハス若シ之ヲ可能タラシメントセハ必ス奉天ノ吉林圧迫ヲ要スヘク奉天カ斯ノ如キ方針ニ出ツル場合ハ縱令我方トノ間ニハ解決シ得ルトスルモ為ニ奉吉ノ乖離ヲ生シ東三省ノ政局ハ如何ナル変化ヲ來スヤモ知ルヘカラススル場合鉄道敷設ノ如キハ恐ク實行至難ニ陥ルヘシ果シテ然ラハ海吉線交渉ハ實際的ニハ吉林当局ヲ相手ト

領事ヨリノ抗議アルニ拘ラス同省ニ於テハ着々其ノ準備ヲ整ヘ其ノ敷設実行ニ取懸り居リタルニ付此儘ニ推移セムカ政府ノ抗議ハ事実ニ於テ無視セラレタル結果トナリテ一方ニ於テハ我方ノ面目ヲ傷ケ他方ニ於テハ實際ニ工事ノ大ニ進捗シタル曉ニ於テハ之ニ對スル抗議ノ撤回如何ハ先方ニ於テ何ノ痛痒ヲモ感セサルニ至ルヘキニ付何トカ我力面目ヲ保持スルト同時ニ此抗議撤回ニ依リ何物カラ獲得セムト希望シ即予テ懸案ノ長大線促進ニ利用セントノ計画ヲ立タル次第ナリ此計画ヲ立ツルト同時ニ奉天、吉林ノ總領事ニ御協議ノ上各領事官ノ贊同ヲ得タルヲ以テ右様ノ結果ヲ招来スルノ目的ヲ以テ滿鉄カ有スル各種ノ便宜ヲ利用シ爾來裏面ノ運動ニ着手シタルモノナリ尤モ愈之カ實行ニ当リテハ貴省ノ御承認ヲ得ヘキ筋合ナルヲ以テ今回案ヲ具シリテハ貴省ノ御詮議ヲ乞ヒタル次第ナリ

次ニ貴省トノ打合ニ於テハ御申越ノ如ク海吉線問題ヲ他ノ諸鉄道ト共ニ一括解決ノ筈ナリシカ右ハ東三省ノ政情カ之ヲ協議スルニ好都合ナル場合ニ初メテ妥善ノ方法ニシテ事情ノ変化如何ニ依リテハ必スシモ墨守セサルヘカラサル方針ニアラス現在奉吉両省ノ關係ヲ考察スルニ吉林省ハ省人更メテ御詮議ヲ乞ヒタル次第ナリ

諸鉄道ト共ニ一括解決ノ筈ナリシカ右ハ東三省ノ政情カ之ヲ支那側ノ工事実行ヲ阻止スルコト事實上可能ナラサル限リハ結局海吉線問題ニテハ我カ名譽ト利益トハ事實ニ於テ之ヲ失フコトトナルハ明ナリ然レハ結局失フヘキモノヲ失ハサル以前ニ於テ交換問題トシ長洮線ヲ敷設セシムル方実質的ニ利益ノ一部ヲ保全スルコトトナルヲ以テ我ニ有利ナリ尚海吉線ノ工事進捗スルニ從ヒ交換条件ノ利益先方ニ増加スルコトトナルヲ以テ本問題ハ一日モ速ニ解決セサレハ我方ハ遂ニ交換スラ主張出來サル窮地ニ陥ルコトナキヲ保セス當社ノ懼ルル處ハ張作霖氏ノ声望日々傾キツツアル今日同氏ノ威圧ヲ要素トスル諸鉄道一括解決策ハ畢竟我ニ得ル所ナクシテ吉林側獨リ海吉敷設ノ目的ヲ達シテ已ムノ結果トナラサルヤニ在リ故ニ此ノ際吉林側ヲ相手トスル交換問題ニテ之ヲ解決スル方成功確実ナル点ニ於テ寧ロ得策ナリト思考セラル又長洮線ニ付テハ我カ既得權ヲ其儘実行スルコトハ素ヨリ希望スル處ナリト雖現在（恐ラクハ今後トモ）外國資本ヲ以テ敷設スルコトハ張作霖氏ノ同意ハ仮リニ取付ケ得ルトスルモ吉林省民ノ反対ニヨリ実行出来サル





ル人道的見地ヨリ南北両軍ニ対シ停戦ヲ強制スルノ何等憚  
ル処ナキト信ス以上三者ノ場合ノ何レニ於テモ何人ヲカ助  
ケ何人ヲカヲ張ノ後繼者ニ為サントスルカ為ニ小策ヲ弄ス  
ルカ如キハ此際最慎ムヘク政権ハ自ラ其帰スル處ニ帰セシ  
ムヘク何人カ東三省ノ政権ヲ掌握スルモ満州ニ於ケル我国  
力ノ發展ハ張ニ依ルニ非ス吳ニ賴ムニ非ス其優越獨得ナル  
地位ニ立チ国民独自ノ力ヲ以テ開拓スルノ確信ヲ以テ帝国  
政府カ此変局ニ處セラレムコトヲ切望ス

在支公使ヘ転電セリ

110 昭和2年6月10日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

### 北軍敗退後の対張作霖政策について

北京 発

本省 6月10日着

（編注 電信番号不明）

貴電第三二一號ニ閔シ  
奉天軍カ黄河以北ニ退却シタルハ敗戦ノ結果ト言フヨリモ  
寧ロ作戦上ノ計画ニ基クモノト見做スヲ適當トス從テ黄河  
以北（不明）退却ハ戦争ヲ継続センカ為メノ退却ト言フヘ  
ク現ニ奉天軍最高幹部ノ意向トシテハ只今ノ所保定、德州

言フヘク此点ハ警戒ヲ要スヘキ事ト信ス

(一)若シ蔣介石ニシテ完全ニ武漢政府ト絶縁シ同政府ニ対シ  
テ攻撃的態度ニ出ツルカ如キ場合ニハ蔣自身ノ地位ニ或ハ  
危険ノ及フコトナキヤ若シ幸ニシテ斯ノ如キコトナシトセ  
ハ蔣介石閻錫山等ト馮玉祥等ノ武漢政府側ト相反目スルニ  
至リ其ノ結果独リ揚子江流域ニ於ケルノミナラス北支ニ於  
テモ又々彼等軍閥ノ間ニ格闘ヲ為スコトナルヘシ  
(二)若シ蔣介石ニシテ完全ニ武漢政府ト絶縁シ得サル場合ニ  
ハ是等武将等ハ大体ニ於テ協調ヲ保チ北支ノ時局ヲ收拾ス  
ルニ努ムヘク其ノ場合オハ奉天ニ退却シタル張作霖ニ下野  
ヲ迫ルコトトナルヤモ測リ難シ

御來示ノ第一点ニ關シ本使ノ觀ル處ヲ以テスレハ奉天軍敗  
退後例ヘハ御來示ノ比較的新思想ヲ解シ南方側ト妥協ノ余  
地アリ且文武ノ実権ヲ有スル人物ニ依リ奉天派ヲ纏メシム  
ルコトモ一策ナランモ右ハ暗ニ楊宇霆ヲ意味スルモノト想  
像セラルモ楊ハ人物技倅優秀ナルニハ相違ナキモ現在ノ  
奉天派ノ頭目連タル吳俊陞、張作相、湯玉麟等ヲ纏ムル丈  
ノ貫禄ハ未タ之ヲ有セス又王永江ノ如キ才能アル文官ヲ起  
用セントスルモ前記ノ武將等ヲ統率スルコト不可能ニテ最

モ人望アルハ吳俊陞ナラント思ハルモ同人ハ斯ノ如キ野  
心ナキハ勿論満州ニ於ケル文武ノ政治ヲ統率スル力量アリ  
トモ認メラレス是等ノ事情ヲ考究スルモ張作霖ノ生存スル  
間ハ矢張實際上ノ問題トシテハ奉天派統率ノ責任者トシテ  
ハ張ノ右ニ出ツル適任者ナシ從テ奉天派敗退後ノ満州ニ於  
ケル実権者トシテハ少クトモ差当リ張ヲ押立テ兎ニ角一段  
落ヲ告ケシムルヨリ致方ナキヤニ思考ス

第二点張カ満州ニ於テ依然文武ノ責任者トシテ立ツ場合ニ  
ハ或ハ御來示ノ通其ノ余力ヲ收拾シテ又々南軍トノ間ニ決  
戦ヲナサントスルヤ計リ難キモ張カ積極的行動ニ出ツルヨ  
リハ寧ロ京津方面ヲ略取シタル南軍側ニ於テ張ニ対シ下野  
若ハ満州立退ヲ要求スルコトナシトセス此ノ場合ニ付テハ  
張カ満州ニ引揚ケタル後専心政治ノ改善ニ從事スル態度ニ  
出ツル以上南軍側ヲシテ満州ニ干渉セシメサルヲ要ス將又  
張カ再ヒ決戦ヲナサントスルカ如キ態度ヲ示ス場合ニハ我  
方トシテハ同人敗戦ノ経過ニ顧ミ其ノ無謀ヲ嚴重警告シテ  
満州ノ善政第一ヲ方針トナサシムルコト必要ナリ將又南軍  
側ニ於テ宣伝暗殺等ノ方法ニ依リ東三省内部ノ攬乱ヲ策ス  
ルコトハ之亦有リ得ヘキコトナルモ此ノ場合ニ付テハ日本

ノ線ニ依リ最後ノ防御ヲ試ムル意向ナリト言フ但此計画ハ  
果シテ成功スヘキヤト言フニ之迄ノ戰局ニ顧ミ先ツ悲觀八  
分樂觀二分位ノ所ナルヘシ勿論支那時局ニ付テ予メ樂悲何  
レトモ予断スルノ危険ナルハ勿論ニテ何レノ場合ニ於テモ  
多少ノ余地ヲ存シ置ク事必要ナリ要スルニ現在ニ於テハ尚  
張作霖トシテハ北京引揚ノ決心着キ居ラサルモノト信ス要  
スルニ今後ノ形勢ハ閻錫山、馮玉祥等ノ出動如何ニ依リ定  
マルヘク其場合愈々奉天軍ノ形勢非ナル事確定スル場合ニ  
於テ初メテ張ノ閔内引揚ノ問題具体化スルニ至ルヘシ而シ  
テ奉天軍カ愈京津方面ヲ引揚テ満州ニ退却スル場合ニ於テ  
之ニ代リテ京津方面ニ進入シ来ルヘキ馮、閔等ノ諸軍カ如  
何ナル態度ニ出ツヘキヤ今日ノ所固ヨリ不明ナルモ閻錫山  
ハ蔣介石ト連絡アル趣ニテ大体ニ於テ蔣ト共同ノ態度ニ出  
ツヘクト想像セラレ又馮軍ノ部下ニ在ル露国將校ノ數ハ馮  
ノ露国ヨリ帰来後非常ニ増加シタル趣ニ付馮ノ行動ハ大体  
ニ於テ「ボロジン」、「ガロソ」ノ意向通ニナルニ非スヤト  
思ハル即チ閻錫山ハ南京政府側ナルト同シク馮ハ武漢政府  
側ナルヘシ而シテ閻錫山及蔣介石ハ南軍ノ京津地方略取ノ  
後ニ於テ果シテ武漢政府ト全然手ヲ切り得ヘキヤ猶疑問ト

トシテハ滿鉄付屬地ヲ基礎トシテ兵力及警察力ニ依リ滿鉄付屬地ニ於ケル治安ノ確保ニ最善ノ努力ヲナスコト必要ナリ南滿州ヲ横断セル滿鉄付屬地ニシテ完全ニ治安ノ確保セラル限リ少クトモ南滿州ニ於ケル戰乱ノ拡大ヲ防遏スルコトヲ得ヘシ東三省政情安定ノ為我方ニ於テ南方側及奉天派ノ間ニ介在シテ如何ナル態度方針ヲ採ルヘキヤノ点ニ付テハ元來支那ノ政争ニ立入りテ彼此斡旋ヲナスハ勿論成ルヘク之ヲ避クルコト得策ナルモ我方ニ密接ノ利害關係アル滿州ニ取リテハ政情ノ不安定ナルコトハ我方ノ忍ヒ得サル所ナルヲ以テ万一南方側カ余リニ非常識ノ手段ニ依リ滿州ノ治安ヲ攪乱セントスル場合ニハ嚴重ナル警告ヲ与ヘ之ヲ中止セシムルコト臺モ差支ナント信ス元來張作霖カ中原ニ出テ活動スルコトハ南軍側ノ承認シ難キ所ナルヘキモ張力一旦敗退シテ滿州ニ立籠リ滿州ノ治安ヲ維持スルノミニ其活動ヲ限ル場合ニハ南軍側トシテ左程苦情ヲ持出スヘキ論拠ナク而モ尚苦情ヲ持出スノミナラス種々ノ陰陥手段ニ依リ滿州ヲ攪乱スルカ如キ態度ニ出ツルニ於テハ早晚旅大ノ還付滿鉄ノ回収等我方ニ弓ヲ引クノ局面ニ到達スルノ趨勢ニアルモノト見做シ差支ナカルヘク從テ斯ノ如キ場合ニハ

我方トシテ南軍側ニ対シ立入りタル措置ヲナスモ差支ナシト存ス第三点ニ付テハ張作霖滿州ニ引揚後滿州ハ南軍ノ侵入或ハ第二ノ郭松齡ノ出現ニ依リ收拾スヘカラサル状態ニ陥ルヤモ計リ難キ處南軍侵入ノ場合ニ付テハ滿州ニ於ケル我方ノ立場ニ顧ミ大正十三年秋奉直戰ノ場合ニ於ケルカ如ク帝國政府ニ於テ南軍側ニ対シ嚴重ナル警告ヲ与ヘラレ之ニ基キ行動セラレ差支ナシト存ス要スルニ純理論ヨリ言ヘハ奉天派滅ヒテ南軍側ノ任命ニカカル文武官憲滿州ニ入り来リテ政治ヲナスモ差支ナキ訳ナルモ滿州カ南軍ノ統治ニ帰スル場合ニハ我方ノ利益カ危殆ニ赴クコトナシトハ断言出来難キ次第ナルノミナラス一旦滿州ニ於ケル首腦部ノ更迭ヲ我ニ於テ黙過スル先例ヲ作ル時ハ今後屢々之ヲ繰返スヘク（斯ノ如キ事態ハ我方ニ取り得策ト言フヘカラス）余儀ナクセラルヘキヲ覺悟セサルヘカラサルノミナラス奉天派カ今日迄多年張作霖及其乾兒ニテ滿州ヲ固メ來リタル為其根底ハ相當強キモノアルカ故少クトモ差当リハ根本的変革ヲナサナルコト滿州ノ治安保持上得策ナリト思考ス以上ハ御來示ノ三點ニ對シ本官ノ觀察ナルカ我政府ノ対策度ハ要スルニ南軍ハ大体ニ於テ多数ノ支那国民ヲ代表ス

ルモノト認メラレ此觀念ヲ基礎トシテ立テラレ居ルモノナルヤニ見受ケラルル処茲ニ考量スヘキハ蔣介石カ南京政府ヲ樹立スル以前ニ於テハ先ツ南軍ハ大体ニ於テ露國ノ指示ヲ受ケ居タルモノト見受ケラルル次第ナルカ南京政府樹立後ハ武漢政府ハ依然露國指導ノ下ニ在リテ南京政府ハ然ラサルモノノ如ク見做サレ居ルモ其果シテ右ノ如キ截然タル區別カ将来ニ於テ徹底スヘキヤ否ヤハ如何今ノ所本官ニ於テモ確信ヲ有スル能ハス今後ノ發展ヲ見届ケ度考ヘ居ル次第ナルカ今後截然タル區別徹底シ南京政府側カ反共產ノ旗幟ヲ鮮明ニシ全然露國ト關係無キ事明カトナル場合ニ於テモ國民政府過去ノ遺口ニ顧ミ日本ハ勿論各國ニ對シ或ハ從來ノ條約協約契約等ノ廢棄乃至改訂若ハ之ト同様ノ結果ニ至ルヘキ提議ヲナシ來ルヤモ計リ難ク從テ滿州問題ヲ初メ其他種々ノ問題ニ於テ日支間乃至支那ト各国間ニ紛糾ノ起ルヘキ可能性アル事ヲ予期セサルヘカラス列国トシテハ支那ニ對スル利害ニ夫々輕重ノ差アリ例ヘハ米國ノ如キ地勢事情ノ利益關係モナク通商上ニ於テハ相當多額ノ貿易ヲ有スルモ商業機關ノ大ナルモノトシテハ「スタンダード」石油会社其他ニアルノミニテ日英両國ニ比較スヘクモアラ

111 昭和2年6月10日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）  
満州の治安維持に關して積極策採用方意見具  
申について

奉天  
6月10日着 発

斯ノ如ク本國ニ於ケル生活ノ困難ナル為メ支那ニ渡来スル者トハ類ヲ異セリ要スルニ日本人ノ支那ニ在リテ生活スル者ハ多クハ生活ノ為奮闘スル者ニシテ真劍味ニ於テ米國トハ異ナレリ南軍北支ヲ占領シ奉天軍滿州ニ退却後馮玉祥、唐生智等ト蔣介石、閻錫山等トノ間ニ一致融和ヲ計ル事先ソ困難ト觀ルヘク其結果又々彼等ノ間ニ戰爭ヲ開始スヘシト予想セラルルト同時ニ我滿州問題ヲ初メ支那海關組織ノ問題塩務、郵政等現存協約契約等ノ變更問題ニ付列国ト支那トノ間ニ意見ノ衝突ヲ來ス事トナルヤ測リ難ク其場合之等ハ何レモ永久的性質ヲ帶フル大問題ニシテ列国殊ニ日本トシテハ今ヨリ之カ対策ヲ講スルコト肝要ナリ

奉天へ転電セリ

## 第一六一號（極秘）

本電ハ前電第一五六号ト重複ノ嫌ヒアルモ旅行中ノ所感ニ  
(一〇九文書)

基キ卑見左ニ電票ス

北支那旅行ヨリ一昨七日帰奉セルカ旅中ノ所感ヲ以テスレ  
ハ奉天軍ハ兵ヲ直隸ニ集中シテ猶暫時南軍ニ対抗スヘキモ  
士氣阻喪、人心離反早晚敗亡ヲ免ルヘカラス敗亡後ノ北京  
政局ノ推移ハ暫ク別論トシ北支那及滿蒙秩序維持ノ目的ヨ  
リ此際帝国政府ハ列国ヲ誘ヒテ北清事変最終議定書ニ基キ  
テ北京地方ト海浜間ノ自由交通維持ノ名義ノ下ニ京奉線ヲ  
南北両軍ニ使用セシメス天津二十支里以内ニ支那軍隊ノ接  
近駐留ヲ禁シ以テ北支ノ動乱ヲ京奉線ニ依リテ滿州ニ波及  
スルコトヲ防止シ奉天軍隊ニシテ滿州ニ帰ラント欲セハ熱  
河西方ノ山地ヨリ山海閥ニ出ルカ或ハ一定猶予期間内ニ京  
奉線ニテ閔外ニ撤退スルカハ奉天軍ノ折フ處ニ委ネ将来山  
地ヨリノ侵入軍隊若ハ滿州土着軍隊其他ニシテ滿州ノ治安  
ヲ紊サントスルモノ有ル場合ニハ山海閥、洮南、吉林等支  
那鐵道ノ主要地點ヲ我カ陸軍ヲ以テ一時占領シ鐵道ハ全然  
支那軍隊ノ使用管理ヨリ離脱セシメ次第ニ依リテハ奉天兵  
工廠ヲ一時差押ルノ舉ニ出テ以テ軍閥私闖ノ為ニ東三省ノ

コト無ク又國際相寄ノ今日支那ノ内亂ハ支那一己ノ事態ニ  
非ス世界列國共ニ其ノ禍ヲ受ク我カ國家經濟上又真ニ此ノ  
儘ニ看過スヘカラス依テ此ノ際帝国政府ハ列国ニ提議シテ  
先ツ以テ軍閥私闖ヲ禁スルノ舉ニ出テムコトヲ要望ス素ヨ  
リ停戰勸告強制ハ内政干渉ノ一端タルヘキモ之カ干渉ヲ為  
スハ實ハ列國力各自國民經濟ニ對スル自衛權ノ發動ニシテ  
將又支那生民ニ対スル人道的見地ヨリ已ムヲ得サルニ出テ  
然モ政權ノ何人ニ帰スルカハ一二支那輿論ノ向背ニ委ネ衆  
目ノ帰スル處支那統一事業ヲ為スニ足ルヘキ政治家ノ生ス  
ルニ及テ列國之ヲ支持シテ其ノ業ヲ為サシムトセハ干渉必  
シシモ不可ナラス

万一南北両軍閥ニシテ列国ノ停戰要求ニ聽從セスハ津浦線

京漢線膠濟線京奉線若ハ滻寧線等ノ鐵道両端ヲ列国ノ軍隊

ニ於テ占領シ進ンテハ奉天漢口漢陽上海等ニ於ケル兵工廠  
ノ管理及ヒ軍器輸入禁止ヲ勵行シ之カ為ニ要スル費用ハ押

倣ハハ列國又敢テ苦シム處ナク而シテ軍閥私闖自然ニ止ミ  
政權ハ政治的自然ノ帰趨ニ從ヒ落着クヘキ延ニ落着キテ政

情安定ヲ得ヘシ右ハ素ヨリ列國協同ノ動作ニ俟ツヘク殊ニ

治安ヲ攪乱セシメサル我カ決意ヲ明カニスルコトハ他日東  
三省政府ノ実權者確定ノ場合ニハ右押收鐵道ノ還付ヲ条件  
トシテ滿蒙開発ニ關スル我力要望ノ實行ヲ促スノ措置ニ出  
テ度尚又支那全局ノ問題ニ付テハ本官等ノ容喙スヘキ限り  
ニ非スト雖モ南北政情ノ安定セス内外共ニ累年擾亂ニ苦シ  
ムハニ三軍閥私闖ノ致ス処此儘ニセハ五十年、百年ニシテ  
猶且治平ヲ見ルコト難シ之史乘ノ明証スル処又識者ノ等シ  
ク認ムル処ナリ

近年支那ヲ論スルモノ多クハ支那國民ノ正当ナル要望ニ副  
ハムト言ヒ支那自身ヲシテ支那ヲ治メシムト言フト雖モ民  
國ノ初年青年支那ニ囑望シテ列國ハ清朝ノ倒壊ヲモ介意セ  
ス革命運動ヲ援助セル形跡アリシモ爾來十余年騒乱炮ム時  
ナク南方國民政府出現以來擾乱更ニ甚シク上海、南京、漢  
口事變等到ル處團匪ノ再来ヲ思ハシム惟フニ南北軍其ノ何  
レカ政權ヲ握ルモ暴政依然タルヘク治術ノ欠クルニ於テ選  
フ處ナカルヘシ從テ南北妥協ニ望ミヲ囑シ若ハ彼等カ為ス  
儘ニ放任シテ支那ノ治平ヲ求ムルハ遂ニ空望タルヘク寧ロ  
進テ支那治平ノ為ニ干涉ヲナスノ可ナルヲ信ス之ヲ支那近  
年ノ歴史ニ徵シテモ外國ノ干渉ナクシテ内亂ノ収マリタル

支那ニ緊要ノ利害ヲ有スル英國トノ完全ナル諒解ヲ以テス  
ヘキ處英ハ本件提議ニ必シモ不同意ナラサルヘク米國ハ  
由來外交上頼ムヘカラサル國柄ニシテ其ノ向背亦深ク意ト  
スルニ足ラサルヘキカ尤モ懸念スヘキハ列國へ發議ノ時機  
ナリ列國ヲシテ我提議ノ万々已ムヲ得サルニ出テタルヲ諒  
解セシムヘキ時機ニ於テ之カ協議開始ヲ要スヘシト思考ス  
北京ヘ転電セリ

112 昭和2年7月(2)日

在奉天蜂谷總領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

奉天における二分五厘付加税徵收実況に

ついて

奉天 本省

7月2日後着

第一八一号  
往電第一七七号ニ関シ

當地稅捐局ハ六月二十五日付ニテ付加稅ヲ補徵スヘキ旨布

告ヲ發シタルニ依リ爾來徵收ノ有無注意シ居タル處邦商ニ  
對シ城内搬入ノ際徵稅ヲ試ミタル一二ノ例アリシモ其拒絶  
ニ遇ヒ徵收セス一方支那側商人ニ對シ專照單ノ場合ト同様

### 三 满蒙懸案解決交渉

外商ヨリ買入レタル貨物ヲ届出テシメ之ヲ税表ニ照ラシ二分五厘又ハ五分ノ課税ヲナシツツアル模様ナルカ目下市場ハ端境期ノ為取引少キト今日迄ノ所邦商ヨリ直接徵收シ居ラサル為別段問題ヲ惹起シ居ラサルモ銷場税及附加税二重徵收ノ結果支那側購買力ノ減退ヲ憂ヒ居レリ

尚本件ニ付七月一日当地税局長カ当館員ヘ語レル所ニ拠レハ大連ニ付附加税徵收所設置方從来日本側ト折衝シ來レルモ日本側ノ同意無ク此上等閑三付シ難キヲ以テ将来大連安東等ニテ徵收シ得ラル迄暫時補徵ノ意味ニテ省内各地税局ニテ徵收スル事トシタルカ日本側ハ納税ヲ肯ンセス未タ協定モ見サルニ付當分日本商人ニハ課税セス支那商取扱ノ洋貨ニ対シ課税シツツアルモ未タ成績拏ラス云々

右ニ対シ館員ヨリ仮令支那商ヨリ徵收スルモ不当ナルヲ指摘シ置ケルカ最近支那官憲カ或ハ鉛場税ト言ヒ付附加税ト称シ外商ニ課税セントシ目的ヲ達セサルヤ支那商ヨリ徵税ヲ企テ多少共成功セハ更ニ同様ノ筆法ニテ他ノ課税ヲナサント企テ然モ其收入ヲ以テ軍費其他ニ濫用シツツアルハ外貨ニ対スル不当課税問題及重税負担ニ依ル省民疲弊ノ見地ヨリ注意スヘキ点ナリ

### 通訓示セリ

極東ノ平和ヲ確保シ日支共榮ノ実ヲ挙クルコト我対支政策ノ根幹ナリトス而テ之カ實行ノ方法ニ至テハ日本ノ極東ニ於ケル特殊ノ地位ニ鑑ミ支那本土ト滿蒙トニ付自ラ趣ヲ異ニセサルヲ得ス今此根本方針ニ基キ当面ノ政策綱領ヲ示サンニ

一、支那国内ニ於ケル政情ノ安定ト秩序ノ回復トハ現下ノ急務ナリト雖モ其ノ実現ハ支那国民自ラ之ニ当ルコト最善ノ方法ナリ

從テ支那ノ内乱政争ニ際シ一党一派ニ偏セス専ラ民意ヲ尊重シ苟モ各派間ノ離合集散ニ干渉スルカ如キハ嚴ニ避ケサルヘカラス

二、支那ニ於ケル穩健分子ノ自覺ニ基ク正當ナル国民的要望ニ対シテハ満腔ノ同情ヲ以テ其ノ合理的達成ニ協力シ努メテ列国ト共同其ノ実現ヲ期セムトス

同時ニ支那ノ平和的經濟的發達ハ中外ノ均シク熱望スル所ニシテ支那国民ノ努力ト相俟テ列国ノ友好的協力ヲ要ス

三、敍上ノ目的ハ畢竟鞏固ナル中央政府ノ成立ニ依リ初メ

在支公使ヘ転電シ安東、牛莊、長春、哈爾賓ヘ暗送セリ  
在支公使ヘ転電シ安東、牛莊、長春、哈爾賓ヘ暗送セリ  
田中外務大臣より  
在中國塊臨時代代理公使宛（電報）

### 東方會議「対支政策綱領」に関する訓令

付記一 七月九日付

#### 满蒙懸案解決方策について

二 七月一三四日付左近司海軍省軍務局長より木村亞細亞局長宛軍務一機密第二九八号

满蒙懸案解決方策に関する回答

三 七月一四日付阿部陸軍省軍務局長より木村亞細亞局長宛書簡

满蒙懸案解決方策案に関する回答

（昭和二年七月七日來電合第一八五号並七月十一日付

來信亞一機密合第六三六号）

東方會議ハ本大臣主宰ノ下ニ本省幹部、在支公使、在上海、在漢口、在奉天各總領事並陸海軍、大藏、関東庁、朝鮮總督府各代表者ヲ会シ六月二十七日開会以來支那時局並之レカ対策ニ關シ隔意ナキ意見ヲ聴取シタル上本七日ノ最終會議ニ於テ本大臣ヨリ対支政策綱領トシテ左ノ

テ達成スヘキモ現下ノ政情ヨリ察スルニ斯ル政府ノ確立容易ナラサルヘキヲ以テ當分各地方ニ於ケル穩健ナル政權ト適宜接洽シ漸次全國統一ニ進ムノ氣運ヲ俟ツノ外ナシ

四、從テ政局ノ推移ニ伴ヒ南北政權ノ対立又ハ各種地方政府ノ連立ヲ見ルカ如キコトアラムカ日本政府ノ各政權ニ対スル態度ハ全然同様ナルヘキハ論ヲ俟タス、斯ル形勢ノ下ニ對外關係上共同ノ政府成立ノ氣運起ルニ於テハ其ノ所在地ノ如何ヲ問ハス日本ハ列國ト共ニ之ヲ歓迎シ統一政府トシテノ發達ヲ助成スルノ意図ヲ明ニスヘシ

五、此間支那ノ政情不安ニ乘シ往々ニシテ不逞分子ノ挑撻ニ因リ治安ヲ紊シ不幸ナル國際事件ヲ惹起スルノ虞アルハ争フヘカラサル所ナリ帝国政府ハ是等不逞分子ノ鎮壓及秩序ノ維持ハ共ニ支那政權ノ取締並国民ノ自覚ニ依リ實行セラレムコトヲ期待スト雖支那ニ於ケル帝國ノ権利利益並在留邦人ノ生命財産ニシテ不法ニ侵害セラル虞アルニ於テハ必要ニ応シ断乎トシテ自衛ノ措置ニ出テ之ヲ擁護スルノ外ナシ

### 三 满蒙懸案解決交渉

殊ニ日支關係ニ付捏造虛構ノ流説ニ基キ妄リニ排日排貨ノ不法運動ヲ起スモノニ對シテハ其ノ疑惑ヲ排除スルハ勿論権利擁護ノ為進ムテ機宜ノ措置ヲ執ルヲ要ス  
六、滿蒙殊ニ東三省地方ニ閑シテハ國防上並國民的生存ノ關係上重大ナル利害關係ヲ有スルヲ以テ我邦トシテ特殊ノ考量ヲ要スルノミナラス同地方ノ平和維持經濟發展ニ依リ内外人安住ノ地タラシムルコトハ接壤ノ隣邦トシテ特ニ責務ヲ感セサルヲ得ス  
然リ而シテ滿蒙南北ヲ通シテ均シク門戸開放機會均等ノ主義ニ依リ内外人ノ經濟的活動ヲ促スコト同地方ノ平和的開發ヲ速カナラシムル所以ニシテ我既得權益ノ擁護乃至懸案ノ解決ニ關シテモ亦右ノ方針ニ則リ之ヲ處理スヘシ

#### 七、(本項ハ公表セサルコト)

若夫レ東三省ノ政情安定ニ至テハ東三省人自身ノ努力ニ待ツヲ以テ最善ノ方策ト思考ス  
三省有力者ニシテ滿蒙ニ於ケル我特殊地位ヲ尊重シ眞面目ニ同地方ニ於ケル政情安定ノ方途ヲ講スルニ於テハ帝国政府ハ適宜之ヲ支持スヘシ

#### (付記一) ※ 満蒙ニ於ケル懸案解決ニ關スル件

昭和二年七月九日

滿蒙ニ於ケル政情ノ安定並懸案解決ニ關シテハ大正十五年三月二十六日閣議決定ノ次第アル處其後支那南北ノ形勢大ニ變化ヲ來セルヲ以テ茲ニ新ナル考慮ノ下ニ具体的計画ヲ樹立スルノ要アルニ至レリ殊ニ張作霖カ内外共ニ苦境ニア

ル現下ノ事態ハ滿蒙ニ於ケル諸懸案ノ解決ヲ促進スルニ最適當ナル機會ナリト認メラルニ付テハ此ノ際昭和二年七月六日閣議ノ承認ヲ経タル対支政策綱領ノ趣旨ニ基キ且過般ノ東方會議ニ於ケル關係諸官ノ意見ヲモ斟酌シ左ノ措置ニ出ツルコトト致度シ

(一)満蒙ニ於ケル諸鉄道ノ完成ニ付テハ別紙第一号ノ趣旨ニ依リ之カ促進ヲ図ルコト

(二)満蒙ニ於ケル土地問題並本溪湖鉱山問題ニ付テハ別紙第二号ノ趣旨ニ依リ之カ解决ヲ図ルコト

(三)東三省當局ノ條約違反其ノ他不法措置ニ關スル諸懸案ニ付テハ別紙第三号ノ趣旨ニ依リ之カ一併解決ヲ図ルコト

(四)以上各項ノ實行運用ニ關シテハ之ヲ外務大臣ニ一任シ各適當ナル機會ニ於テ在支公使及在奉天總領事ヲシテ之カ交渉ニ當ラシムルコト

(別紙第一号)

満蒙ニ於ケル鉄道問題ニ關スル件

滿蒙ニ於ケル鐵道問題ニ關シテハ從來ノ懸案タル我方留保線ニシテ未タ實現セサルモノアリ又別ニ延長新設ヲ要スル

八、万一動乱滿蒙ニ波及シ治安亂レテ同地方ニ於ケル我特殊ノ地位權益ニ對スル侵害起ルノ虞アルニ於テハ其ノ何レノ方面ヨリ来ルヲ問ハス之ヲ防護シ且内外人居住發展ノ地トシテ保持セラル様機ヲ逸セス適當ノ措置ニ出ツルノ覺悟アルヲ要ス

終リニ東方會議ハ支那南北ノ注意ヲ喚起シタルモノノ如クナルヲ以テ此機ヲ利用シ各位帰任ノ上ハ文武各官協力以テ対支諸問題乃至懸案ノ解決ヲ促進スルコトトシ本會議ヲシテ益々有意義ナラシムルニ努メラレタク將又敍上我對支政策實施ノ具体的方法ニ關シテハ各位ニ對シ本大臣ニ於テ別ニ協議ヲ遂クル所アルヘシ

一、吉林會寧線(實際上ハ敦化会寧線)  
本線ノ支那側ニ於ケル未成部分タル敦化江岸間約百二十八哩中

(1)敦化老道溝間約六十五哩ハ吉敦鐵道ノ延長トシテ速ニ滿鉄ヲシテ工事ヲ請負ヒ布設セシメ同時ニ道ヲ廣軌ニ改築セシメ以テ今後約三年以内ニ全線ヲ完成スルコト

(2)老頭溝江岸間約六十三哩ハ現在ノ日支合併大國輕便鐵道ヲ廣軌ニ改築セシメ

本線カ我國國防上並經濟上急速実現ヲ要スヘキハ言ヲ俟ダサルトコロナリ然ルニ朝鮮總督府ニ於テハ本線トノ連絡ヲ謀ル為一方國們江ニ沿フテ雄基ニ至ル新鐵道ヲ布設スルト同時ニ他方上三峰會寧間ノ國們鐵道ヲ買收シテ廣軌ニ改築シ以テ滿鮮交通連絡ヲ完成スル計画アリ而シテ右連絡上最必要ナル國們江ノ橋梁ハ何時ニテモ広軌ニ引直シ得ヘキ基礎工事ヲ以テ目下飯田側ニ於テ架設中ナルカ國們江支那岸ヨリ老道溝ニ至ル間ニ

ハ現在日支合弁ノ天図輕便鉄道（飯田延太郎關係）アリテ飯田側ニ於テハ此ノ際支那側ト交渉シ且從来其ノ主タル出資者タル東拓其ノ他資本家ノ援助ヲ得テ之ヲ広軌ニ改築シ今後約三年ニシテ之ヲ完成スルノ計画アリ而シテ此計画ニ依ルトキハ從來吉会線完成上ノ難闘タリシ天図鉄道ノ買収又ハ補償ノ如キ善後処分自ラ解決シ且間島地方ヲ通過スル吉会線ノ部分ハ日支合弁鉄道ノ形式ヲ維持スルコトヲ得ヘク之ヲ單純ナル借款又ハ請負鉄道ト為スヨリハ我方年来ノ政策ニモ合致スル所以ナリ將又吉会線ノ他ノ一部分タル吉林敦化間ハ目下満鉄ノ工事請負ニ依リ建設中ニシテ今後約一ヶ年半内ニ完成ノ予定ナルヲ以テ吉会全線ヲ通シ敦化老道溝開ノ約六十五哩ノ間隙ヲ生スルコトトナルヘシ就テハ此際満鉄ヲシテ右飯田側ノ計画ト相呼応スルノ趣旨ニ於テ支那側ト交渉シテ右六十五哩ヲ吉敦線ノ延長トシテ請負建設セシムルコトトシ以テ如上各方面ノ計画ヲ促進シ今後約三ヶ年ノ期間内ニ全線ヲ完成スルニ努力セシムルコト但シ天図鉄道ノ債務整理問題ニ關シテハ同時ニ関係官民ニ於テ適宜協議スヘキコト

四、通遼（白音太拉）開魯線並其延長線南滿州鉄道会社ニ於テハ本線ニ關シ既ニ支那側トノ交渉ニ着手シ居ル趣ナルニ付テハ同社ヲシテ速ニ本線ニ付協定ヲ遂ケ其実現ヲ図ラシムヘキコト

五、齊々哈爾昂々渙線、本線ニ關シテハ其ノ露國ニ対スル關係機微ナルニ鑑ミ南滿州鉄道会社幹部ヲシテ全然個人ノ資格ニ於テ支那側ヲ指導セシメ適當ノ方法ニヨリ速ニ本線ノ実現ヲ促進セシムルコト

六、洮南索倫線、本線ニ關シテハ時局ノ推移ヲ注視シ事情ノ許ス限り成ル可ク速ニ之カ實現ニ努ムルコト本線ハ一面ニ於テ東三省側ニ取リテハ北満及東部内蒙古地方ニ對スル露國勢力ノ進出ヲ控制シ併テ經濟上ノ利益ヲ増進スルノ目的ニ供セムカ為其ノ達成ヲ希望スルモノト認メラレ帝国ニ取リテモ国防上並ニ満鉄ノ營養線トシテ重要ナル価値ヲ有ス之ト共ニ他ノ一面ニ於テ此際我方ヨリ強テ本計画ヲ促進スルトキハ其ノ露國ノ利益ニ及ボ

二、長春大賚線、本線ハ速ニ之ヲ実現スルノ必要アルニ付

テハ此際南滿州鉄道会社ニ於テ

(イ)支那側ヲシテ本線ニ付標準軌幅ヲ採用セシメ

(ロ)本線路カ南滿鉄道ノ培養線タル様特ニ留意シ且ツ

(ハ)本鐵道ニ對スル日本側ノ債権ニ付テハ確實ナル担保ニ

依リ充分之ヲ保護セシメ得ルニ於テハ官設又ハ私設其

他如何ナル形式ニヨル鉄道布設ニ對シテモ同鉄道会社

ニ於テ之ヲ援助促進シ差支ナキコト

三、奉天鉄嶺間ノ一地点ヨリ新邱ニ至ルノ線ヲ適當ノ形式ニテ實現スルコト

奉天ノ西約百哩ノ新邱ノ炭田ハ埋藏量ノ大ナルコト優ニ撫順ヲ凌駕スト予想セラルル処南滿州鉄道株式会社ニ於テハ既ニ右炭田ノ約五分ノ一二ツキ日支合弁会社ノ形式ニテ完全ニ権利ヲ所有シ残余ノ大半モ亦支那人名義ニテ内密ニ其権利ヲ收メ居リ近ク同様ノ形式ヲ以テ全部ノ權利收得方計画中ナリ然ルニ大規模ノ炭田開発ニハ直接満鉄線ト接続スル鉄道線アルコトヲ必要トスルニ付此際満鉄ヲシテ適當ノ形式ニ依リ同炭田ヨリ奉天鉄嶺間適當ノ地点迄運炭専用線敷設方ヲ促進セシムヘキコト尤モ右鉄

ス影響ノ重大ナルニ顧ミ或ハ同國側ヲ刺激シ延テ日露国交ノ大局ヲ危殆ナラシムルノ虞ナシトセス從テ政府ハ絶へ斯時局ノ推移ヲ注視シ事情ノ許ス限り成ルヘク速ニ本計画ノ実現ニ努ムルコト

七、海竜吉林線

支那側計画ニ係ル海竜吉林間鉄道ハ我方既得権ヲ侵害スルモノナルモ支那側ニ於テ

(イ)前記一乃至六ノ滿蒙鉄道網計画列記ノ諸項ヲ承諾シ且(ロ)目下支那側ニ於テ計画中ノ彰武通遼（白音太拉）間鉄道ヲ建設セサルコトヲ約諾スルニ於テハ我方ニ於テモ

之ト交換的ニ支那側ノ本件海吉線計画ヲ承認スルコト支那吉林省當局ニ於テハ最近吉林海竜間鉄道ノ建設ヲ

計画シ之ヲ目下奉天側ニ於テ工事中ノ奉天海竜線ニ接続セシメムトシ居レル處右線路ハ大正七年日支間満蒙四鐵道ニ關スル交換公文ニ依ル海吉間我方留保線ト同

一地域ヲ通過スルコトナルヘキモ我方ニ於テハ既ニ奉天側ノ前記奉海線建設ヲ承認シ居レル次第モアリ旁々此際之ヲ吉林迄延長セシムルモ我方利益ニ対シ特ニ重大ナル影響ヲ及ホスマモノニ非スト認メラルルノミナ

### 三 满蒙懸案解决交渉

(別紙第三号)

(一) 内ハ各場合ニ於テ支那側ニ譲ルヘキ事項)

| 租借地   | 自開商埠地 | 新商埠地 | 商租地  |
|-------|-------|------|------|
| 裁判權   | 土地訴訟  | 土地訴訟 | 土地訴訟 |
| 課稅權   | 其ノ他   | 其ノ他  | 其ノ他  |
| 警 察 権 | 行政警察  | 司法警察 | 司法警察 |
| 課 稅 権 | 行政警察  | 司法警察 | 司法警察 |
| 裁 判 権 | 行政警察  | 行政警察 | 行政警察 |

コト

(イ) 現契約期限ヲ更ニ少クモ三十ヶ年延長スルコト  
(ロ) 事業經營ヲ日本側ニ委任スルコト其ノ他鉱区並採掘権  
ノ拡張及借款ノ担保等ニ關スル要求容レラルニ於テ  
ハ相當金額ノ出資ヲ為スニ客ナラサルノ意向ヲ示シ居  
ルヲ以テ政府ハ同社ヲ指導援助シ本件解決ニ努ムヘキ

甚シク或ハ各種不当課稅強徵ノ挙ニ出テ或ハ往年ノ錦愛鐵

道ノ再現トモ見ルヘキ打通線ノ工事ヲ着々進捗セシメツツ  
アル等枚挙ニ遑アラス而カモ我方屢次ノ抗議ニ對シテハ徒

ラニ堅白同異ノ弁ヲ弄シ毫モ反省スル所ナキ狀態ニ在リ如  
斯ハ畜ニ滿蒙ニ於ケル我經濟的發展ヲ阻礙スル事頗ル大ナ

ルノミナラス帝国ノ威信保持上甚々面白カラサル次第ナル  
ヲ以テ此ノ際東三省當局殊ニ張作霖ニ對シ條約違反其ノ他  
不法措置ニ因ル諸懸案ヲ列挙指摘シテ其ノ一併解決方ヲ迫

リ若シ張ニ於テ之ヲ拒否シ或ハ荏苒遷延スルニ於テハ帝国  
政府ハ對張關係ノ将来ニ付大ニ考慮スヘキ旨ヲ申入ルト

同時ニ場合ニ依テハ適宜左記手段ニ出ツル事アルヘキ旨ヲ  
諷シテ張ニ威圧ヲ加ヘ以テ前記諸懸案ノ一掃ヲ期スルコト

一、満鉄ハ政府ノ命ト称シテ奉天側軍事輸送ヲ拒絕スルコ

ト

二、奉天兵工廠ニ對スル石炭其他諸材料ノ供給ヲ禁遏スル  
コト

三、京奉線所屬列車ノ満鉄付屬地通過ヲ停止スルコト

四、外務、陸軍、関東庁及満鉄共ニ政府ノ意ヲ体シテ張ノ  
希望ヲ容レス且今後張ノ為諸事不利益ニ措置スル事アル

東三省當局ノ條約違反其ノ他不法措置ニ関スル件  
東三省當局ノ條約違反其ノ他不法措置ハ近年ニ至リ殊ニ

ラス元來本件海林線ノ如ク支那側ニ於テ同地方民ノ希望ニ基キ支那ノ資本ヲ以テ建設セムトスルモノニ対シ強テ我方既得権ヲ楯ニ抗議ヲ続クルハ建設的ニ満蒙鉄道網ノ完成ヲ圖ル所以ニモ非スト思考セラル  
然ルニ我方ニ於テハ一方満蒙鉄道網ノ完成ニ付テハ前記ノ通り之カ計画ヲ進ムルノ必要ニ際会シ居リ又他方支那側ノ彰武通遼(白音太拉)間鐵道計画ニ對シテハ其ノ南滿並行線タルノ故ヲ以テ之カ實現ヲ阻止セサルヘカラサル立場ニアリ旁々此際妥協ノ趣旨ニヨリ支那側ニ於テ左ノ我方提議ヲ承諾スルニ於テハ我方ニ於テモ之ト交換的ニ支那側ノ本件海吉線計画ヲ承認スルコト

(イ) 支那側ニ於テハ前記一乃至六ノ満蒙鉄道網計画列記ノ諸項ヲ承認スルコト  
(ロ) 支那側ニ於テハ彰武通遼(白音太拉)間鐵道ヲ建設セサルコト

(別紙第一号)

満蒙ニ於ケル土地問題並本溪湖鉱山問題ニ關スル件

此地域ニ於テハ邦人ハ完全ナル領事裁判権ヲ保有スルモ支那ノ課稅権及行政警察権ニ服從ス而シテ右新商埠地ニ於ケル実驗ニ鑑ミ支那側ニ於テ商租ヲ邦人ニ許スモ大ナル危険ナク然カモ支那側ニ有利ナルコトヲ自觉セシメ他日南滿州ノ全体ニ亘リテ商租ニ關スル條約ヲ實施セシムルコトヲ容易ナラシムル利アリ但シ新商埠地ニ於テハ別表ニ示ス如ク商租ノ場合ヨリモ適用地域ニ於テ局限セラルルモ邦人ノ権利ニ於テハ商租ヨリ大ナルモノヲ要求スル次第ナルヲ以テ交渉上ノ困難ハ之ヲ予見セサルヘカラス只此困難ニ對シ應スルモノハ即チ土地ノ買収ニ依リテ支那官憲ノ得ル現実ノ利益ト邦人ノ經濟活動ニ基ク地方開發ノ利益トニアリ

二、本溪湖炭坑ニ闊スル大倉組ノ現契約ハ昭和十五年末ニ  
テ期限満了ノ予定ナル處大倉組ニ於テハ此ノ際

一、土地問題ニ關シテハ商租問題ハ暫ク之ヲ措キ商租ニ至ル道程トシテ鐵道沿線ノ商埠地ヲ拡張シ若クハ新設セシメ殊ニ新設鐵道ノ主要停車場付近ニ広大ナル地域例へハ數百支里ノ半径ヲ以テ描ケル一帶ノ地ヲ新商埠地トシテ開放セシムルコト

三 满蒙懸案解决交渉

ヘキ旨ヲ嚴重申入ルコト  
尚右制裁手段ノ通告乃至実行ニ付テハ予メ奉天總領事ヨリ  
請訓ノ上外務大臣之ヲ決定訓令スルコト

\*  
(付記二)  
軍務一機密第二九八号  
昭和二年七月十三日  
(接受日不明)

昭和二年七月十三日

左近司海軍省軍務局長

木村外務省亞細亞局長殿

満蒙ニ於ケル懸案解決ニ関スル件

七月十三日付御照会ノ本件了承右ハ當省ノ関スル限り異存  
無之候右回答ス

(付記三)

拝陳者滿蒙ニ於ケル懸案解決方ニ関スル書類披見候處大  
体ニ於テ異存無之候モ左ノ点ニ就テハ特ニ御配慮及御注意  
相煩シ度此段得貴意候 敬具

イ、満蒙鐵道中本案ニ挙ケラレサル數線ニ關シ説明書ニ  
「本懸案外ニ某々ノ希望線アルコト」ヲ明記セラレ度シ

114 昭和2年7月19日 在奉天吉田總領事より  
木村外務省亞細亞局長殿  
田中外務大臣宛(電報)  
洮斎線の東支線横断問題は満蒙懸案解決案に  
対する張作霖の態度決定まで引延すよう意見  
具申

奉天 7月19日前發

本省 7月19日後着

第一九〇号

本官過日大連通過ノ砌大蔵理事ヨリ洮斎線昂々溪「クロス」  
問題ニ付満鉄力工事費支出ヲ承認セハ張作霖ハ斷行ニ決定  
シ目下満鉄ノ回答ヲ待チツツアルノ趣ヲ承知セルカ北満問

付記 事宛電報第九一號  
満蒙鐵道交渉解決方について  
満蒙懸案解決問題  
本省 7月20日後2時發  
第九〇号

題ニ付テハ天羽總領事意見ノ如ク我ハ露國ト或ル程度提携  
妥協シテ支那側ヲ控制スルノ差当リ利益トスル今日張ノ益  
々露國ヲ窮迫セントスルニ当リテ(北京發閣下宛電報第八  
一号ニ依ル)徒ラニ彼ニ加勢スル事ニナラハ一「クロ  
ス」線ノ為ニ北満全般ノ利益ヲ失フヘク日露ノ現在關係ヨ  
リセハ本件ニ就テモ露ト協議ハ必スシモ不可能ナラサルカ  
如シ東方會議ノ結果トシテ張ノ対日觀ニ反省ヲ促サムトス  
ル今日ト言ヒ新社長モ別ニ対露意見モアルヘク今直ニ張ノ  
希望ヲ許サス暫時本件ハ其決定ヲ引延シ満鉄ヲシテ其態度  
ヲ曖昧ナラシメテ先ツ満蒙懸案解決案ノ实行ニ入り張カ反  
省ノ時機ニ入りタル時機ニ張ヲ援助シテ東支ヲ説キ円満裡  
ニ本件解決ヲ見ル様指導セハ露ニ對シテモ將又張ニ對シテ  
恩威並行ハルル事トナルヘキニ付本件ハ篤ト御詮議ヲ切望  
ス

115 昭和2年7月20日 田中外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛(電報)

張作霖政權の條約違反その他不法措置に関する  
対処策について

別電 七月二十日付田中外務大臣より在奉天吉田總領

ロ、通遼、彰武線ニ對スル反対ハ軍部トシテハ必スシモ之  
ヲ支持セサルコト  
ハ、別紙第三号ニ挙ケラレアル手段ニ關シテハ其影響等ニ  
稽へ之力時期及方法ニ就キ大臣ヨリ閣議ニ於テ意見ヲ提  
出セラルルコトアルヘキコト

側ノ熟慮反省ヲ促シ一応前記不法措置ヲ阻止シ又ハ矯正シ

タル上別電第九一号ノ通り鉄道問題ノ解決ニ移ルコトト致度尤モ交渉ノ情勢ニ從ヒ利ヲ以テ彼ヲ誘フノ要アル場合ニハ関税付加税二分五厘増徴ニ付当分默認ヲ与フルコトヲ約シ又ハ右別電鉄道問題措置案ノ一部又ハ全部ヲモ仄カシ差支ナシ

一、南滿鉄道ニ依ル東三省側軍事輸送ヲ拒絶スルコト

二、奉天兵工廠ニ対スル石炭其ノ他諸材料ノ供給ヲ禁遏スルコト

三、京奉線軍用列車ノ滿鉄付属地通過ヲ停止スルコト

四、外務、陸軍、關東府及滿鉄共ニ政府ノ意ヲ体シテ東三省側ノ希望ヲ容レス且今後東三省側ノ為諸事不利益ニ措置スルコトアルヘキ旨嚴重申入ルコト

就テハ貴官ハ右ノ次第御含ミノ上本件懸案解決方充分御努力相成度委細郵報

北京、吉林、長春、哈爾濱、間島、齊々哈爾ニ転電アリ度

(別電)

本省 7月20日後發

適當ノ形式ニテ速ニ実現スルコト

四、通遼開魯線並其延長線

本線ニ闊シテハ滿鉄ヲシテ速ニ協定ヲ遂ケ其実現ヲ計ラシムルコト

五、齊々哈爾昂々溪線

本線ニ闊シテハ其露國ニ対スル關係機微ナルニ鑑ミ裏面ヨリ滿鉄ヲシテ支那側ヲ指導セシメ適當ノ方法ニ依リ其实現ヲ促進セシムルコト

六、洮南索倫線

本線ニ闊シテハ時局ノ推移ヲ注視シ事情ノ許ス限り成可ク之カ実現ニ努ムルコト

七、海龍吉林線並打虎山通遼線

支那側計画ニ係ル海吉線並打通線ハ我既得權ヲ侵害スルモノナルモ支那ニ於テ前記一乃至六ノ滿蒙鉄道網計画列記ノ諸項中少ク共一、二、三、ノ我方ノ希望セル線ノ數設ヲ承諾スルニ於テハ我方ニ於テモ之ト交換的ニ支那側ノ海吉線並場合ニ依テハ打通線ヲモ承認スルコト但打通線承認ノ場合ハ支那側ニ於テ将来本線ヲ北方ニ延長セサルコト並前記三、新邱運炭線ノ打通線交叉ヲ承認スヘキ

第九一号

満蒙鐵道問題ニ闊シテハ此際差當リ別紙ノ諸点ニ付交渉ノ狀況ニ応シ適當ノ形式ヲ以テ一括又ハ別箇ニ成ル可ク短期間中ニ南滿州鐵道會社ヲシテ適當之カ実現ニ努力セシムルコト又右諸線ノ実現ニ當リテハ

(イ)標準軌幅ヲ採用セシメ且

(ロ)日本側ノ債権ハ確実ナル担保ニ依リ充分之ヲ保護スルコトヲ考量スルコト

一、吉林会寧線

本線未成部分中

(イ)敦化老道溝間ハ吉敦鐵道ノ延長トシテ速カニ滿鉄ヲシテ工事ヲ請負敷設セシメ同時ニ

(ロ)老道溝江岸間ハ現在ノ天岡鐵道ヲ廣軌ニ改築セシムルコト

二、長春大賚線

本線ニ付テハ官設又ハ私設其他如何ナル形式ニ依ルヲ問ハス滿鉄ヲシテ之カ実現ヲ援助促進セシムルコト

三、新邱運炭線

奉天鐵嶺間ノ一地点ヨリ新邱炭田ニ至ル運炭専用鐵道ヲ

(付記)  
※  
満蒙問題促進ニ闊スル第一ノ実行案

昭和二年七月二十日

発ヲ実現スル趣旨ヲ貫徹スル為ニハ右方針ニ戻ラサルモノナルニ於テハ寧ロ支那側ノ要望ヲ容レ場合ニ依リテハ從來抗議セル海吉打通兩線ニ付テモ從来ノ条約上ノ行懸リニ拘ラス之ヲ讓歩シ以テ滿蒙問題ノ実現ニ関シ着々歩ヲ進ムルコト現下ノ急務ナリト信ス

宛電訓案ニ閔シ至急高裁ヲ仰ク  
仍テ別紙滿蒙ニ於ケル鐵道問題ニ閔スル件及在奉天總領事

元  
統

東三省当局ノ條約違反其ノ他不法措置ニ関スル件

東三省当局ノ條約違反其ノ他ノ不法措置ハ近年ニ至り殊ニ甚シク或ハ各種不当課税強徵ノ挙ニ出テ或ハ打通線海吉線ノ如キ日支協定違反ノ鉄道工事ヲ進捗セシメツツアル等枚挙ニ遑アラス而モ我方屢次ノ抗議ニ対シ毫モ反省スル所ナキ状態ナル処如斯ハ滿蒙ニ於ケル我經濟的發展ヲ阻害スル事大ナルモノアルニ付テハ滿蒙問題促進ノ第一着手トシテ先ツ我方ノ断乎タル態度ヲ示スノ要アリ素ヨリ諸懸案ノ解決ニ関シテハ或ハ誘フニ利ヲ以テシ時ニ讓歩妥協ヲナスノ要アルモ他面断乎タル態度ニ出テ其ノ深甚ナル反省ヲ促シ

別紙

## 滿蒙ニ於ケル鐵道問題ニ關スル件

一、南滿鉄道ニヨル東三省側軍事輸送ヲ相続スルコト  
二、奉天兵工廠ニ対スル石炭其他諸材料ノ供給ヲ禁遏スル  
コト

四、外務、陸軍、関東庁及満鉄共ニ政府ノ意ヲ体シテ東三省側ノ希望ヲ容レス且今後東三省側ノ為諸事不利益ニ措置スルコトアルヘキ旨ヲ嚴重申入ルコト

先ツ我方ノ断乎タル態度ヲ示スノ要アリ素ヨリ諸懸案ノ解決ニ関シテハ或ハ誘フニ利ヲ以テシ時ニ譲歩妥協ヲナスノ要アルモ他面断乎タル態度ニ出テ其ノ深甚ナル反省ヲ促シ

滿蒙ニ於ケル鐵道問題ニ關シテハ政治上経済上軍事上ノ見地ニ基キ完成ヲ期スヘキモノ鮮ナカラスト雖モ此際差當リ別記ノ諸線ニ付交渉ノ状況ニ応シ適當ノ形式ヲ以テ一括又ハ別個ニ可成短期間内ニ南滿州鐵道会社等ヲシテ適宜之カ実現ニ努力セシムルコト

但シ右諸線ノ実現ニ当リテハ左ノ諸点ヲ考慮スルコト  
ト  
(イ)標準軌幅ヲ採用セシムルコト

一、吉林會寧線（實際上八敦化會寧線）記

本線ノ支那側ニ於ケル未成部分タル敦化ト岡們江岸間約百二十八哩中

(1) 敦化老道溝間約六十五哩ハ吉敦鉄道ノ延長トシテ速ニ

〔四〕老頭溝江岸間約六十三哩ハ現在ノ日支合弁天國輕便鐵道ヲ広軌ニ改築セシムルコト

但シ天國輕便鉄道ノ債務整理問題  
係官民ニ於テ適宜協議スヘキコト

本線ニ関シテハ時局ノ推移ヲ注視シ事情ノ許ス限り成ル可ク速ニ之力実現ニ努ムルコト  
七、海龍吉林線並打虎山通遼（白音太拉）線  
支那側計画ニ係ル海龍吉林間鉄道並打虎山通遼（白音太

五、齊々哈爾昂々溪線

本線ニ関シテハ其露国ニ対スル關係機微ナルニ鑑ミ裏面ヨリ南滿州鉄道会社ヲシテ支那側ヲ指導セシメ適當ノ方

本線ニ関シテハ時局ノ推移ヲ注視シ事情ノ許ス限り成ル可ク速ニ之カ実現ニ努ムルコト

七、海龍吉林線並打虎山通遼（白音太拉）線  
支那側計畫二係兒海龍吉林間鐵道並打虎山通遼（白音太

拉) 間鉄道ハ日支協定ニ違反スルモノナルモ支那側ニ於テ前記一乃至六ノ満蒙鉄道網計画列記ノ諸項又ハ少クトモ一、二、三、ノ我方ノ希望セル線ノ布設ヲ承諾スルニ於テハ我方ニ於テモ之ト交換的ニ支那側ノ海吉線計画並必要ノ場合ハ打通線計画ヲモ承認スルコト尤モ打通線承認ノ場合ハ支那側ニ於テ将来本線ヲ北方ニ延長セサルヘキ旨並新邱連炭線ノ交叉ヲ容認スルコトノ保障ヲ取付ケ置クコト

116 昭和2年7月23日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案解決促進に関する莫奉天省長との会見について

第一九九号  
貴電第九〇号二閔シ

東方會議ノ結果ニ付テハ支那側甚懸念シ居ルモノノ如ク去ル十九日交渉員來訪シ我模様ヲ内偵ニ努ムル模様アリ本官ハ態ト東方會議ニ付テハ答フルヲ避ケ帰任後支那側往訪ヲ

117 昭和2年7月23日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛

満蒙懸案解決促進に関する莫奉天省長宛覚書送付について

機密公第四五二号

昭和2年7月二十三日 在奉天總領事 吉田 茂

外務大臣男爵 田中 義一殿

懸案解決交渉開始ニ閔スル覺書送付ノ件

本件ニ閔シ往電(一六文書)第一九九号所載ノ奉天省長宛覚書別紙御参考トシテ送付シタルニ付御查閱相成度

本信写送付先 在支代理公使

(別紙)

覚書

貴省長就任以來貴我ノ間不幸ナル交渉事件頻出シ而テ惟ニ解決ヲ見サルノミナラス益其多キヲ加ヘントスルノ傾アリ又発生事件ハ條約ノ違反言論ノ圧迫公理民福ヲ無視セル不當課税善隣ノ誼ヲ無視スル非友誼的行政行為ニ出ツルモノ多ク之ニ対シ本官ハ屢忠言ヲ致シテ切ニ貴省長ニ訴フル処

モナサス一面鎌田ヲシテ東方會議ノ結果我決意ノ固キモノアルヲ支那側ニ仄カサシメ又盛京時報ニモ我決意ノ一端ヲ示スカ如キ記事ヲ掲載セシメ置キ漸ク本二十三日莫省長ニ面談セリ本官ハ先ツ彼我交渉停頓ノ現状ヲ指摘シ貴省長就任以来交渉案件日ニ頻出シ何時モ解決ヲ見ス不当課税鐵道問題盛京時報ノ発売禁止ヲ始メ殊ニ帽兒山分館問題ニ至ツテハ省長トシテ責任ヲ執ルノ好意ナシト迄断言セラル以上最早交渉ノ余地モナキ次第ニシテ本官在京中逐一帝国政府ニ具申セル處帝国政府ニ於テモ此事態ニ付深甚ノ注意ヲ喚起シ今般本官ニ対シ貴我從来ノ関係及特殊ノ地位ニ基キ貴官ニ特ニ反省ヲ求ムル為訓令ノ次第アリト告ケ暫ク反省ノ期間ヲ与フルコト尚反省ノ実ヲ示ササルニ於テハ反省セシムヘキ手段ヲ執ルニ躊躇セサル氣配ヲ言外ニ示シ前顯ノ趣旨ヲ認メタル覺書ヲ交付セリ省長ハ黙々トシテ本官ノ演述ヲ聴取シ居レリ本官ハ反省手段ニ付テハ何等言及セス又彼即座ノ回答ヲモ要求セス彼ニ熟考ノ機會ヲ与フルノミニ止メタリ多分北京ニ協議セントスルモノカト想像ス北京へ転電セリ

118 昭和2年7月25日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

張作霖に対する覺書につき芳沢公使への依頼について

別電 七月二十五日付在奉天吉田總領事より田中外務大臣宛第二〇二号

覚書回答に関する莫省長との会見について

奉天 本省 7月25日後着

本官發在支公使宛電報

第一五二号

本官発大臣宛電報第二〇二号（別電）ノ通省長ハ張作霖ノ許ニ指令ヲ請ヒツツアリト察セラルニ付七月二十三日付（一七文書）機密公第四五二号拙信添付省長ヘ交付ノ覚書写ヲ張ニ送り当方ノ主張ニ付可然支持説明ヲ加ヘラレタシ外務大臣ヘ転電セリ

（別電）

奉天 7月25日後発  
本省 7月26日前着

第一〇二号

省長本二十五日來訪頻リニ温顔ヲ以テ雑談ヲ試ミツツ努メテ交渉案件ニ触ルルヲ避クルノ態度ヲ示セルニ付本官ヨリ覚書ニ対シ回答ヲ促セルニ四五日中ニ文書ニテ回答致スヘシト答ヘタルヲ以テ文書口答ニテノ議論ハ既ニ尽キ居リ要ハ貴方反省ノ有無ニ有リ反省ノ実ナシト認ムル場合ニハ帝國政府ハ已ムヲ得ス適宜ノ措置ニ出ツルヤモ計ラレス貴官ノ賴ム処ハ奉軍ノ武力ニアルヘキモ善隣ノ誼ヲ無視シ無道ノ政治ヲ行ヘル武力ノ賴ムヘカラサルハ古ヨリ然リ由来奉

於テ之カ実現方ヲ希望シ居ルモノナルニ付強イテ之ヲ抑圧スルニモ及ハサルヘク又必シモ他ノ諸問題ト一併解決ヲ計ルノ必要モナキヤニ思考セラレタルヲ以テ今般満鉄新幹部トモ協議ノ結果本件ハ他ノ諸問題ト切離シ支那側ヲシテ単独ニ之力解決促進ヲ計ラシムルコトニ打合済ナルニ付御承知置キアリ度將又北京発本大臣宛電報第八一一号ノ件ニ對シテハ當方ニ於テ差当リ之ニ取合サル積ナルニ付結局本件ハ單純ナル東支横断問題トシテ解決セラルヘク從テ日露ノ関係ニ対シテモ別段ノ影響ヲ及ホササルヘシト思考セラルル次第ナリ御含ミ迄

北京、哈爾賓ニ転電アリ度

120 昭和2年8月1日 在奉天吉田總領事より 田中外務大臣宛（電報）

双參謀長に対する日本側の強制手段実施の予告について

奉天 8月1日後発  
本省 8月2日前着

軍ノ現勢力ハ我ニ負フ處多シ東方會議ニ於ケル田中首相ノ

對支方針ニ明カナル如ク我特殊地位ヲ尊重セス政情安定ノ方途ヲ講セサルモノハ帝国政府ノ支持セサル處帝国政府ノ支持ヲ得サレハ奉軍ノ前途知ルヘキノミ本官此ノ言ヲ為スハ奉軍ノ崩壊ヲ望ムカ故ニ非ス貴官ノ反省ニ依リ貴我關係改マリ政情安定ノ成ランコトヲ切ニ望ムカ故ノミトノ意ヲ告ケ置キタリ惟フニ北京ノ指令ヲ待ツモノナルヘク其中中江鎮ヘ増派ノ駐屯兵到着ノ報至ルヘク夫レト照應シテ更ニ省長ニ迫ルヘク先ツ主トシテ帽兒山問題、盛京時報問題ヲ論シ次テ打通線問題ヨリ鐵道問題ニ移リ度心組ナリ

北京、安東ヘ転電セリ

119 昭和2年7月28日 田中外務大臣より 在奉天吉田總領事宛（電報）

東支線横断問題は中國側をして単独に解決促進を計らしむることについて

本省 7月28日後6時40分発

第九三号（極秘）

貴電第一九〇号三閥シ

右貴電ノ次第ハアルモ本件「クロス」問題ハ目下支那側ニ

莫省長カ未タ何等ノ回答ヲ為ササルニ付一昨三十日双參謀長（奉天留守居役）ヲ訪ネ省長宛覚書写ヲ示シ過日來省長ニ反省ヲ促シ居ル處未タニ回答ナク右ハ我ニ対スル礼儀ヲ欠クモノト言フヘク帝国政府ハ元ヨリ奉天軍ニ惡意無キモ省長カ斯ル態度ヲ持スル以上自然其反省ヲ促ス手段トシテ遺憾ナカラ適當ノ措置ニ出スルノ已ム無キニ至ルヲ保セス敢テ本件交渉ニ付貴官ノ援助ヲ求ムル次第ニ非サレハ其内容ハ省長ニ尋ねラルヘク唯適當ノ措置ニ出ツトセハ奉軍軍事ニモ影響スヘキ事故ヲ惹起スヘキニ付軍事當局者タル貴官ニ予メ通シ置ク旨申聞ケタリ北京發閣下宛電報第八五九号末段ニ依レハ張作霖ハ相變ラス排日運動發生ヲ以テ我ヲ威嚇シ居ル様ノ次第三付遂ニハ一応ノ強制手段ニ訴フルノ外無カルヘク依リテ明二日貴電第九〇号ニ基キ近ク軍用列車ノ奉天付屬地通過ヲ差止ムヘキ意味合ヲ先ツロ頭ヲ以テ支那側ニ通スル考ヘナリ御承知置キヲ請フ

121 昭和2年8月2日 在奉天吉田總領事より 田中外務大臣宛（電報）

北京宛拙電第一五五号ニ閲シ

止措置実施通告について

別電一 八月二日付在奉天吉田總領事より田中外務大臣宛第二一四号

京奉線軍用列車満鉄付屬地通過停止措置実施

準備を求める満鉄宛電報について

臣宛第二一五号

同右につき關東廳へ通電について

臣宛第二一五号

奉天 8月2日後発

本省 8月2日後着

\* 第二一三号  
〔二〇文書〕

往電第二一一一號ニ閏シ

其後省長ヨリ何等ノ回答ヲモ為ササルカ一面ニ近時当地支那官憲ノ安東守備隊射殺事件及我所謂滿蒙積極政策ニ対ス

ル支那新聞紙ノ排日記事不取締不当課税其他通商阻害ノ各

種ノ行為等総合シ來レハ支那側ニ於テ何分反省ノ実無ク本

日省長ニ対シ貴電第九〇号ノ〔末段三京奉線軍用列車ノ満

鉄付屬地通過停止ノ意味合ヲ通シタリ今後尚手慮ナキ場合ニハ直ニ其実行ニ移リ度依テ別電第二一四号及別電第二一

五号ノ通り満鉄關東廳ニ電報シタルニ付本省ヨリ同社ニ対

シ可然御訓令ヲ請フ

(別電一)

奉天 8月2日後発

本省 8月2日後着

満鉄宛電報左ノ通

爾來奉天當局ニ対シ條約違反其他ノ不当措置ニ閏スル懸案

解決ヲ求メ居レル處未タニ回答ヲ為サス此ノ上ハ適宜ノ手段ニ依リ嚴重ニ支那側へ反省ヲ促スノ外無ク依テ京奉線軍用列車満鉄付屬地通過一時停止方當方ヨリ申出テ次第何時ニテモ實行出来得ル様直ニ何分ノ御手配ヲ請フ

（別電二）

奉天 8月3日前発

本省 8月3日前着

第二一五号

本官発關東廳長官宛電報第二六号

爾來奉天當局ニ対シ條約違反其他ノ不当措置ニ対スル解決

ヲ要求ノ處省長ハ遂ニ未タニ何等ノ回答ヲ為サス此上ハ適宜ノ手段ニ依リ支那側ノ反省ヲ現実ニ促スノ外無ク依テ京奉線軍用列車ノ満鉄付屬地通過一時停止方何時ニテモ實行

（別電三）

奉天 8月3日前発

本省 8月3日前着

第二一七号

本官発關東廳長官宛電報第二六号

爾來奉天當局ニ対シ條約違反其他ノ不当措置ニ対スル解決

ヲ要求ノ處省長ハ遂ニ未タニ何等ノ回答ヲ為サス此上ハ適

宜ノ手段ニ依リ支那側ノ反省ヲ現実ニ促スノ外無ク依テ京

奉線軍用列車ノ満鉄付屬地通過一時停止方何時ニテモ實行

（別電四）

奉天 8月3日前発

本省 8月3日前着

第二一八号

本官発關東廳長官宛電報第二六号

宛第二一八号

對張作霖態度の徹底化に關し芳沢公使ヘ依頼について

（別電五）

北京來電第六〇号ニ閏シ不取敢別電（本官発北京宛第一五

八号）ノ通り北京ニ電報シ置キタルカ張及ヒ楊宇霆カ本庄武官ヘ心易キタケニ兎角我儘ノミ申シ募ル風アリテ帝国政

府ノ決意モ充分ニ徹底セサル憾アルカ如シ

松井少將ニハ近ク北京ニ帰ル趣ニ付去ル一日東方會議ノ状

況ヲ告クルト共ニ滿蒙懸案解決方針ニ付テモ篤ト説明ヲ加ヘ彼我全局ノ關係ノタメニ此際一時奉天側ニ対シ反省ヲ促ス手段ヲトルノ已ムヲ得サル所以ヲ語リ張以下ニ充分我真意ヲ諒解セシムル様依頼シ置キタルカ帝国政府ヨリモ本庄

武官ニ対シ松井少將ト共ニ帝国政府ノ意ノアル処ヲ張ニ徹底セシムル様尽力方確ト訓令アル様致シタシ

別電 满蒙懸案解決交渉

（別電）

122 昭和2年8月2日

奉天 8月2日後發  
本省 8月3日前着

※ 第二一六号

満鉄社長宛電報左ノ通り

前電中京奉線軍用列車満鉄付屬地通過停止準備トアルハ貴社奉天鐵道事務所へ當方ノ請求アリシ付屬地内京奉線路ニ簡単ナル施工ヲ加ヘテ一時汽車通行ノ自由ヲ欠カシムルタケノ措置方命令シ置カルル様希望スル次第ナリ為念

123 昭和2年8月3日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張作霖政權に対する満蒙懸案解決方針の日本

側態度徹底化について

別電 八月三日着在奉天吉田總領事より田中外務大臣

奉天 発  
本省 8月3日後着

奉天 発  
本省 8月3日後着

194

※  
第二一八号

本官発在支公使宛電報第一五八号

別電

貴電第六〇号ニ閔シ

張作霖等力我ニ対シ不満ヲ抱ク以上ニ特殊關係ヲ有スル東三省ニ於ケル彼等ノ遣口ニ対シテハ我等不満ヲ抱カサルヲ得サル現状事態ニ之アリ元来張以下年来ノ我ニ馴レテ此ノ特殊關係ヲ忘却シ我モ亦之ヲ忘却セシメサルタケ措置ヲ怠リタルカ故ニ今日滿蒙問題ノ停頓ヲ來シタル次第ニテ彼我真ノ提携諒解ニ到達スルカ為一時權宜ノ手段トシテ彼等ニ此ノ際反省ヲ促斯塔ケノ手段ヲ執ルハ真ニ已ムヲ得サル処

分館問題累次報告ノ通滿蒙懸案ノ一部トシテ彼等ニ要求致シ居ルニテ斯ル小問題ニモ尚支那側カ諒解ヲ与ヘストセハ鐵道問題等ノ大問題ニ付テハ更ニ諒解ヲ与ヘサルヘク又比較的奉天派ニ有利ノ今日コソ満州問題ノ解決ヲ迫ルノ好機会ナルヘク奉天側ノ勢力不振ノ際ニ之ニ迫ラハ彼等ヲ徒ラニ僻マシムルノミニテ我真意ハ益々了解セサルヘク仮ニ解

124 昭和2年8月4日 呂玉閣東長官より

田中外務大臣宛(電報)

京奉線軍用列車満鉄付屬地通過停止措置に

ついては慎重な考慮を要するとの意見具申

関東厅 8月4日後着  
本省 8月4日後着

※  
第八二号

貴電第二六号ニ基キ滿鉄軍司令部ト一応打合セタルニ左ノ諸説アリ

一、支那側ノ條約違反ニ対シシ當方ニ於テモ京奉線延長取極メ条項ノ一時停止ヲ為スハ等シク條約違反ノ責ヲ負フ結果トナリ面白カラス

二、仮令軍用列車ノ通過ヲ差止ムルモ皇姑屯駅ヨリ転送ノ途アルニ付支那側ハ多少ノ不便ヲ感スル事アルモ當方ノ期待スルカ如キ苦痛ヲ与ヘス威嚇ノ目的ヲ達シ難カルヘシ

三、一旦威嚇ノ態度ニ出テ其効果無キニ於テハ更ニ第一、第三ノ方法ヲ講スルヲ要シ從テ最後ノ手段ニ出ツルノ決心ト用意トヲ必要トスヘシ

四、実行方法ニ付テ満鉄ニシテハ「クロス」点ヲ封鎖スレハ事足ルモ列車ノ運行ヲ確実ニ停止セントセハ軍用列車ト普通列車トノ見別ヲ為シ充分ナル武力ヲ以テ之ヲ強行スル覺悟ト準備トヲ要スヘシ

五、又先方ニ報復手段ノ口実ヲ与ヘ沿線至ル處ニ列車運行妨害或ハ城内邦人圧迫等ノ挙動ニ出ツル事アルヤモ想像セラレ之ニ対シ警備上ノ処置ヲモ考慮スル必要アリ

決ヲ得ルモ實行不可ノ無効ニ終ルヘク且彼等今日ノ得意モ余リ根底アルニアラサルヘキカ

元來張等カ我ニ対シテ彼此ノ言ヲ為スハ今更ノ儀ニ無之畢竟彼等一流ノ得手勝手ノ我儘ニテ此ノ機會ニ反省ヲ促シ彼我關係ノ真相ニ付覺醒セシムル所ナクシハ奉派自身モ遂ニハ自滅スヘク彼等ノ為ニモ利益ニアラス將又不當課稅其他

ノ問題ヨリ各國領事ヲ始メ一般外國人モ省政府ノ遣口ニ付テハ益々困リ居ル處ニテニ我カ力ニ依リテ省政府ヲ反省セシムル様希望シ居レリ尚又仮令解決ヲ迫ルノ時機ニアラストスルモ既ニ帝國政府ノ方針一決ノ上ハ其斷然タル決意ヲ支那側ニ徹底セシメサレハ却テ後難生スヘク本庄武官ヨリモ張ニ徹底スル様尽力ヲ煩ハシ度シ

上記ノ次第ニテ何レモ篤ト考慮ヲ要スヘキ事柄ト思料セラルニ付其實行方法ニ付テハ慎重ノ御注意ヲ必要トスヘク満鉄ノミナラス軍及ヒ當庁ニ於テモ右實行ニ協力スル場合ニ於テハ細部ノ訓令ヲ要スヘキ点モアリト考ヘラルニ付此ノ点モ併セテ御考慮相成度

打合ノ大要並ニ本官ノ思付キ申進ス

125 昭和2年8月4日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

京奉線軍用列車通過停止措置実行について

奉天 8月4日後着  
本省 8月5日前着

※  
第二一九号  
(二二二文書)  
(二二二三号ニ閔シ  
往電)

本月二日省長ヘ通告ヲナス管ナリシモ彼ハ多忙ト称シ面会ヲ拒絶シ來レルカ漸ク本四日通告スル事トセリ右ニ對スル支那側ノ今後ノ應接振ヲ一応見極メタル上先方出方如何ニ

依リ愈々本月七日京奉線軍用列車通過停止実行ニ取掛リ度  
ク御含置ヲ請フ

126 昭和2年8月4日

在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

京奉線軍用列車通過停止措置実施を莫奉天省

長に通告した旨の報告

奉天 8月4日後発  
本省 8月5日前着

第十二二〇号

(二二五文書)

往電第二二一九号ニ閑シ

一昨二日省長ニ通告ノ筈ナリシモ省長力面会ヲ承諾セサリ  
シ為本四日午前蜂谷ヲシテ省長ニ面会シ過日ノ覚書ニ対シ  
爾來何等ノ回示ナシ

右ハ帝国政府ノ期待ニ反シ畜ニ再思反省ヲ得サルノミナラ  
ス我ニ対スル礼ニモアラスト思ハルニ依リ此ノ上ハ適當  
ト認ムル措置ヲ講スルノ外ナク依テ京奉線軍用列車滿鉄奉  
天付属地通過ヲ近ク一時差止メントス此レ我カ抗議ヲ無視  
シ打通線海吉線ヲ強行敷設セントスル等ノ條約違反ニ対ス  
ル対抗手段ト承知セラルヘク而シテ又省長ノ此ノ措置振り

ヲ遺憾トシ其反省ヲ促スノ意ニ外ナラストノ旨ヲ演述セシ  
メタリ

127 昭和2年8月5日

在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

児玉閏東府長官宛京奉線軍用列車通過停止措

置断行を求める意見具申について

奉天 8月5日後発  
本省 8月5日前着

第十二二三号

貴電第八二号ニ閑シ

(一)他國ノ条反ニ対スル対抗手段トシテ相当ノ措置ヲ為スノ  
國際慣例タルハ御承知ノ通リ現ニ南京政府ノ不當課税ニ  
対シ英國ハ海軍力ノ使用ヲモ考慮シツツアリ

128 昭和2年8月5日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

京奉線軍用列車通過停止措置に關し在東三省

日本各機関が共同歩調を探るべき旨の意見具

申

奉天 8月5日前發  
本省 8月5日後着

第十二三四号(極秘)

(二二四文書)

児玉長官來電第八二号ニ閑シ

### 三 满蒙懸案解決交渉

(一)普通列車ヲ目標トセス懸案解決案ハ慎重協議ノ結果ニシ  
テ奉軍今ヤ南方ニ事ヲ構ヘ内外多事ナリ好ク我ニ反抗シ  
テ御来示ノ如キ重大ナル事態ヲ惹起スル力アリヤ無謀ノ  
事ヲ為サハ彼自ラ傷クヘク此ノ弱点ヲ看過セハ滿蒙問題  
ノ解決永遠二期スヘカラス要ハ機ヲ見テ断行ノ勇ニアリ  
且廟議既ニ決シ矢ハ弦ヲ離ル幸ニ御協力ヲ待ツテ所期ノ  
目的ヲ達成センコトヲ希フ

省長ハ之ヲ聞キ取りタル後覚書ニ対シテハ近ク回答スヘク  
京奉線ノ件ハ承知シタリト答ヘ次テ蜂谷ハ臧式毅ヲモ訪問  
シテ省長ニ対スルト同様ノ趣旨ヲ述ヘタルニ彼ハ御申出ノ  
件ハ目下責任者北京ニアルヲ以テ委細北京ニ報告スヘシト  
答ヘタリ



### 三 满蒙懸案解決交渉

ノ次第アリ爾來省長ノ回答ヲ待チ居リタルニ遂ニ今日迄回答ヲ得ス右ハ帝国政府ノ期待ニ反シ只ニ貴省長ノ反省再思ヲ得サルノミナラス我ニ対スル礼ニモ非スト思ハル仍テ此上ハ適当ト認ムル措置ヲ講スルノ外無グ貴官ノ措置振リニ對シ遺憾ノ意ヲ表スル為京奉線ニ拠ル軍用列車ノ満鉄奉天付属地通過ヲ近ク一時差止メントス是レ我抗議ヲ無視シ打通線及海吉線ヲ強制敷設セントスルニ対スル対抗手段ト承知セラレ度シ右ハ固ヨリ貴省長ノ反省ヲ促スカ為已ムヲ得スシテ此手段ニ訴ヘントスルモノニシテ一二貴省長ノ再思反省ヲ求ムル意ニ外ナラス

132 昭和2年8月6日 在奉天吉田總領事より

田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案解決交渉の經過説明のうえ莫省長の  
対日態度反省をうながすよう外務次官より汪

駐日公使へ申入れ依頼について

奉天 8月6日前發  
本省 8月6日後着

第二二五号

貴電(二九文書)第九六号御来訓ノ次第敬承当地交渉ノ経過ハ屢次往電

133 昭和2年8月6日 在奉天吉田總領事より

田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案解決交渉は地方的交渉とすべき旨の  
意見具申

奉天 8月6日後發  
本省 8月6日後着

第二二六号

貴電(二九文書)第九六号ニ閔シ

御来訓ノ次第一応ハ誠ニ御尤ト存スルモ北京交渉案ハ過般東方會議ニ於テ本官ヨリ申述ヘタル通兎角問題ヲ大ニシ国際問題トシテ外界ノ注意ヲ喚起シ又直接張作霖若ハ中央北京政府ニ我要求ヲ提議セハ支那側ノ遂ニ我ニ聽從セントスル場合ニ於テモ支那一流ノ面目論出テ聽從ヲ困難トスヘク問題ヲ小ニセントセハ成ルヘク地方問題ニ限局スルカ良ク支那側ノ面目論ニ触レサラントセハ地方的交渉ヲ優レリト

スヘシ然レトモ又此ノ際北京交渉ニ付特ニ何等カノ成案ア

ルニ於テハ格別ナルモ吉会線敷設ノ北京交渉ノ如キモ数ケ月ニ瓦リテ單ニ主義上異存ナシト迄ノ支那側ノ言明ニ到達シタルニ過キストセハ今日支那側カ何等ノ圧迫ヲ感セシムテ理ニ届シ我希望ニ応スルコトアリトハ考フ能ハス

北京ニ於テスルモ尚強制圧迫ヲ加フルノ已ムヲ得ストスル

場合帝国公使カ威嚇ノ意味アル言辞ヲ弄スルハ固ヨリ妥当ニ非サルヘク強制威嚇ハ矢張関係地方ノ領事輩ノロヲ借ル

ノ外ナカルヘク然シテ其強制手段ハ支那側ニ絶ヘス明示暗示シテ圧迫ヲ感セシメツツ一面利益ヲ以テ誘ヒツツ支那側ニ要求ヲ容レシムルノ外ナカルヘク殊更帽兒山問題ニ就テ一旦示シタル強制手段ハ一回ニシテ消耗シ尽ス性質ニ非サ

ノ通ニテ芳沢公使帰任迄此儘ニ過サハ本官一己ノ面目ハ何レトスルモ今後交渉ノ全局ニ影響スヘク就テハ外務次官ヨリ直接東京駐在支那公使ニ対シ是迄当地交渉ノ経過ヲ適宜ニ申聞ケラレタル上本官ヨリ強制手段ヲ避ケタシト考フルニ付再応支那政府ヲ通シ莫ノ対日態度ニ付既ニ電稟アリタルモ日支ノ国交ニ顧ミ努メテ極端ナル手段ヲ避ケタシト考問題モ同様此儘打棄テ置キ難キニ付前同様支那公使ニ対シ莫ノ反省ヲ促シ度キ旨申聞ケラレ朝鮮軍司令官ニ対シテハ然ルヘク電報御説明ノ上増遣隊ハ現状ノ姿勢ニテ漸次同地ニ駐屯スル様御交渉ヲ願度シ

134 昭和2年8月6日 在奉天吉田總領事より

田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案解決方策は閣議決定を経ざるもので  
ある旨木村亞細亞局長よりの通知について

付記 八月二十九日付

満蒙懸案解決問題に關し関係各方面との連絡に

本省 8月6日後6時40分発

第九八号

木村ヨリ

貴電第二二二号ニ閔シ

七月二十三日付亞一機密第九五号満蒙懸案解決ニ閔スル件ハ東方會議ニ於ケル審議ノ結果ニ基キタルモノニテモアリ且ハ関係省トノ内協議ニ於テ各省トモ大体異議ナキコトヲ

確メタルニ付外務大臣ノ決裁ノミヲ經別ニ閣議ノ決定ヲ仰  
キタル次第ニハ非サルニ付右ニ御含ミ置キアリタシ

(付記)

\*満蒙懸案解決問題ニ関シ關係各方面トノ連絡ニ関スル

件

(昭和二年八月二十九日)

満蒙懸案解決方ニ關シテハ東方會議以来陸軍、海軍、大蔵

省、関東長官、朝鮮總督府、在支公使、在奉天總領事並満

(欄外記入) 鉄側トモ適宜協議ヲ遂ケタルカ右關係各方面ニテモ大体外

務省案ニ対シ異存ナキコトヲ確メタルヲ以テ昭和二年八月二十日本件ニ關シ田中外務大臣ノ決裁ヲ經タル上在奉天吉

田總領事宛交渉開始方電訓シ右ノ次第ハ七月二十六日前記

各方面ニ通報セリ

而シテ吉田總領事ハ其ノ以前奉天帰任(七月十七日帰任)

ノ途次大連ニ立寄リ予メ斯ル場合ニ於ケル協力方ニ付満鉄

側ト協議シタリ

又吉田總領事ハ本件交渉開始後支那側ニ対シ京奉線軍用列

車付属地通過禁止ノ通告ヲナスニ先チ八月二日右ノ次第ヲ

各方面ニ通報セリ

而シテ吉田總領事ハ其ノ以前奉天帰任(七月十七日帰任)

ノ途次大連ニ立寄リ予メ斯ル場合ニ於ケル協力方ニ付満鉄

側ト協議シタリ

又吉田總領事ハ本件交渉開始後支那側ニ対シ京奉線軍用列

車付属地通過禁止ノ通告ヲナスニ先チ八月二日右ノ次第ヲ

各方面ニ通報セリ

キ

(イ)七月二十六日在大連関東長官宛本件書類ヲ正式ニ送付セリ

(イ)七月二十三日東京発同二十八日大連帰任  
右書類ハ三十一日関東庁着

(ハ)八月二日吉田總領事ヨリ京奉線軍用列車ノ満鉄付属地通過禁止ノ件ヲ支那側ニ通告スヘキ旨ヲ電報セリ  
(右通告ハ八月四日実行セラル)

関東軍司令官

(イ)七月一日東方會議第四回會議ニ於テ吉田委員ヨリ本件懸案交渉殊ニ強制手段ニ付説明シタルヲ以テ大体ノ經緯ハ承知シ居ラル旨

(イ)陸軍省ヨリハ七月二十八日八月六日本件ニ付電報シ  
タリ

本庄武官、松井奉天顧問  
七月二十八日及八月六日陸軍側ヨリ本件ニ付電報済  
大蔵省、朝鮮總督

七月二十六日本件書類ヲ正式ニ送付セリ  
芳沢公使

関東長官並満鉄本社ニ通報シ爾後モ適宜連絡ヲ取リツツア  
リ

以上關係方面トノ連絡日付別表ノ如シ

陸軍

(イ)七月十三日阿部軍務局長並松井第二部長宛本件草案ヲ送付シ右ニ對シ阿部局長ヨリ七月十四日大体異存ナキ旨回答アリ

(イ)七月二十六日陸軍大臣並參謀總長宛本件草案ニ送付シ置ケリ

海軍

(イ)七月十三日左近司軍務局長並米内第三班長宛本件草案ヲ送付シ右ニ對シ左近司局長ヨリ七月十三日異議ナキ旨回答アリ

(イ)七月二十六日海軍大臣並軍令部長宛本件書類ヲ正式ニ送付セリ

関東府

(イ)七月一日東方會議第四回會議ニ於テ吉田委員ヨリ本件懸案交渉殊ニ強制手段ニ付説明ヲナシタルニ右ニ對シ児玉委員ニ於テハ別段異議ヲ述フルコトナカリ

吉田總領事

七月十二日東京出發上海、大連ヲ經テ帰任  
ヲナシ七月十七日帰任

(イ)七月二十六日東京支社山本社長ヨリ右受領ノ旨回答アリ尤モ其以前本件關係書類ハ社長、副社長ニ交付セリ

(イ)七月十五日頃吉田總領事ハ大連ニ於テ本件ニ付本社幹部ト協議ス(山本社長ハ七月二十日就任)

満鉄

(イ)七月二十六日東京支社山本社長ヨリ右受領ノ旨回答アリ尤モ其以前本件關係書類ハ社長、副社長ニ交付セリ

(イ)七月十五日頃吉田總領事ハ大連ニ於テ本件ニ付本社幹部ト協議ス(山本社長ハ七月二十日就任)

(欄外記入)

七月十二日小委員会ニテ可決開議案トシテ他關係省ニ内協議ス  
八月二十日森政務次官ノ意見ニテ開議案トセス外務大臣ノ決裁  
スミニテ訓令議事ニ決定シ大臣ノ高裁ヲ經タリ

## 吉田奉天総領事の方針を支持する旨の報告

付 記 満蒙懸案解決交渉の協力要請について

旅 順 8月6日後6時40分発  
8月7日前1時13分着

参謀本部 (八月八日外務省写接受)

※ 関電第二一五号

一、奉天吉田総領事ハ前報告ノ如ク懸案解決ニ関シ支那側ノ反省ヲ促シアルモ何等回答ナキ為本月四日日本側ノ決意ヲ示ス為且吉海鉄道ノ条約違反ニ対スル報復手段トシテ京奉線軍用列車ノ満鉄付属地通過ヲ停止スヘキ旨ヲ通告セリ之ニ対シ奉天官憲ハ在北京張作霖ノ指示ヲ待ツ旨回答セルニ過キサルヲ以テ吉田総領事ハ近ク(七日ニ決行シ度腹ナルカ如シ)京奉線軍用列車ノ運行遮断ヲ実施スルノ意図ヲ有シ関東長官満鉄当局ニモ援助方依頼シ來レリ

二、軍ニ対シテハ事前ニ何等ノ連絡ナカリシモ既ニ事茲ニ及ンテハ其交渉ノ可否ヲ論スルノ余地ナク東方會議ノ既定方針ニ基キ必要ニ際シ總領事ヲ支持援助スル方針ナリ尚吉田総領事ニ対シテハ交渉事件中当部ニ關係ヲ生スル事項ハ適時連絡ヲ密ニスヘキヲ要求シ置ケリ

注一、( )内ハ関東軍參謀長ノミ  
二、參謀本部ヨリ本庄少将ヘモ電報ス

136 昭和2年8月8日

田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛(電報)

### 満蒙懸案解決の強制手段につき協議のため森

次官より芳沢公使に対する帰任要請について

\* 第三四九号

森政務次官ヨリ芳沢公使へ左ノ通り

新聞報ニ依レハ十一日頃貴地発漢口ニ赴カル趣ナル処満蒙懸案解決問題ニ關シ吉田総領事宛電報(二二九文書)第九六号ノ通訓令

アリタルト行違ヒニ同總領事ヨリ支那側ニ対シ強制手段ニ出ツヘキ旨通告ヲ了シタル趣ニテ本件ハ今ヤ重要切迫ノ時期ニ入りタルヤニ思考セラルルニ付此際速ニ帰任ヲ願ハレ間敷ヤ大臣ト協議ノ都合モアリ何分ノ儀折返シ回電アリ度シ

\* 第八七〇号

六日本庄中將満蒙懸案解決ニ關スル奉天交渉ニ付テ楊宇霆

ニ会ヒタル経緯ハ陸軍情報ニテ御承知ナランカ其ノ際楊ハ

日本側ニテ帽兒山ノ領事館ノ開館ヲ急カル理由ハ一モ自

(付記)

※ 満蒙懸案解決ニ關スル件

次官ヨリ北京松井少将、関東軍參謀長宛電報(暗号)

二十八日發陸第二五〇号電満蒙懸案解決方針ノ實行ニ關シ

テハ貴官初メ關係各方面ヨリノ意見ニ接シアル處右ノ閣議ヲ經タル訳ニハアラサルモ東方會議ニモ提議セラレ又既ニ外相ヨリ公使及奉天總領事ニ訓令セラレタルモノニシテ政府ノ方針ト見ルヘキモノナリ尤モ奉天側カ我要求ヲ容レサル場合ニ於ケル報復手段ニ就テハ外相ヨリ吉田總領事ニ對シ余リ焦慮セス芳沢公使ノ帰任ヲ待ツヘキ旨電訓セラルル筈要スルニ貴見ノ如ク先ツ東方會議ノ決定ニ基ク我大方針ヲ奉天側ニ諒解セシメ報復手段ヲ用スル迄モナク自然ニ具体的問題ノ解決ヲ見ルヲ得ハ至極好都合ナリト思考ス交渉実施ノ手段及順序ニ就テハ種々意見アランモ此際各方面協力一致目的ノ達成ヲ期シ度ニ付右ノ趣旨ヲ含ミ關係方面ト連絡ノ上張作霖初メ奉天側ヲ説得シテ我精神ノ存スル所ヲ充分諒解セシメ以テ懸案ノ急速且円滿ナル解決ヲ見ル様尽力アリ度

命ニ依リ(以上松井顧問ニ電報セリ為参考)

び吉田奉天総領事の通告に関する照会について

136 昭和2年8月8日

田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛(電報)

第一〇五九号

芳沢公使ヨリ森政務次官ヘ

貴電御来示ノ次第ニモ顧ミ漢口行ヲ中止シ十二日当地出發大連經由帰任ノ途ニ就クコトト致スヘシ但シ吉田總領事ノ通告ハ政府ノ承認ヲ經タル上発送セラレタルモノナリヤ折返シ上海ヘ御電報アリタシ

\* 第一〇五九号

昭和2年8月8日 在中国塊臨時代理公使より

田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案解決問題に関する本庄中将と楊宇霆

との会見の模様報告

138 昭和2年8月8日

本省 8月8日前後  
本省 8月9日前着

北京 8月8日後発  
本省 8月9日前着

三 満蒙懸案解決交渉  
137 昭和2年8月8日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)  
芳沢公使より森次官に対する帰任予定報告及

分ヲ首肯セシムルモノナシ又日本側ハ莫省長対手ニ解決ヲ急カル模様ナルカ莫ハスル問題ヲ解決スル様ノ地位ニ在

ラサルコトヲ日本側カ氣付カレサルハ不可思議ナリ而シテ

解決強行手段トシテ日本側カ用ヒラル軍事輸送阻止ト言

フカ如キハ其レ即チ支那側ヲシテ南滿鐵道ノ競争線ヲ作ラ

ントスルノ必要ヲ感セシムル所以ナリトテ平素滿鐵カ要求

スル煩瑣ナル手続ト日本政府ノ對滿政策力滿鉄ニ偏スルノ

不満ヲ述ヘ更ニ今度日本ノ交渉ノ底意ハ日支共存共榮ノ完

全ナル了解ヲ目的トセラルコトハ分レト其前ニ支那側ニ

打撃ヲ与ヘント考ヘ居ラルコト恰モ津浦線ニ於テ最近蔣

介石ノトレル戰法即チ蔣ハ妥協ヲ熱望シ乍ラ一度徐州ニ於

テ北軍ニ打撃ヲ与ヘタル後妥協ヲ有利ニ導カントスルニ酷

似セリ斯ル筆法ヲ以テスレハ早晚衝突（武力ノ衝突カ意見

ノ決裂カ楊ノ真意不明）免レサルヘシト言ヒ容易ニ屈服ノ

色ヲ示ササリシ由ナリ本官ハ近々張作霖ト見会スヘシ

（在北京本庄公使館付武官より  
南參謀次長宛（電報）

### 満蒙懸案解決問題に関する楊宇霆との会見に

ついて

139 昭和2年8月8日

（8月10日外務省写接受）

北京 8月8日前11時20分発  
参謀本部 8月9日前9時25分着  
支第四六七号

※  
支第四五〇号臨江県領事館強行設置ノ件ニ関スル田中首相ヨリノ返電ノ有無ニ關シ張作霖ヨリ再三問合セ來リシモ故ラニ往訪ヲ避ケアリシ處昨六日朝外務大臣ヨリ代理公使宛訓電中小官等ヨリモ張作霖ヲ説得スル様軍部ヨリ訓電アルヘキ旨付記シアリ仍テ代理公使ト打合セ先ツ松井顧問同道昨日午後楊宇霆ヲ訪ヒ懇談セリ即チ

(1)過日張元帥ヨリ本件ニ関スル日本ノ真意ヲ聞キ吳レトノ

コトナリシカ未タ軍部方面ノ來電ニ接セサルモ公使館方面ヘノ着電中ニハ張元帥ハ常ニ戰勝テハ日本ノ希望ニ從

ヒ得ヘク中央政權ヲ得ハ日本ノ如何ナル要求モ容レ得ヘシト語リアシニ大元帥ノ地位ニ登レルノ今日日滿相互

ノ懸案一トシテ解決セラレタルモノナク張元帥ト別懇ノ間ニ在ル田中首相ノ政府ニ於テ猶且ツ然リトセハ張元帥

ノ誠意モ疑ハレサルニアラストノ不満漸ク我朝野ニ多シト述ヘタリ

(2)過日東方會議ハ北方政權ヲ助ケテ滿蒙開発ヲ策シ日滿両

者ノ共榮ヲ計ラントノコトナルカ最モ容易ナル本問題サヘ一モ二モナク土民ヲ煽動シ反対セラルニ至リテハ現政府トノ間ニ滿蒙開発ノ如キハ實現シ難ク從テ兩者提携モ全ク望無カルヘシト述ヘシニ楊宇霆ハ次ノ如ク臨江県領事館問題ノ事ニ至リテハ全ク不可解ニシテ開放地ニモ非ス又一名ノ日本人モ無キ所ニ領事館カ何ノ必要アリヤ或ハ不逞鮮人取締ノ為ナランモ過般朝鮮當局トノ間ニ鮮人取締内約ヲ結ヒテ以來之ニ鬨スル問題著シク減少セシ筈ナリ兎ニ角支那側トシテハ斯ノ如キ正当ノ理由ナキコトニ從ヒ威力ヲ以テ圧制シタリトテ直ニ之ニ屈從センカ我官憲ノ体面ト威信ヲ傷クルコト甚シク統治上ニモ尠カラス影響ヲ及ホスヘシ又日本ノ当事者ハ奉天省長東辺道尹等ニ対シ楊宇霆及外交總長王蔭泰等カ既ニ同意ヲ与ヘタリト迫ラル由ナルモ自分等ハ條理ヲ尽サハ成立スヘキモノナリト述ヘシナランモ同意ヲ与ヘンカ如キコト断シテナク又楊宇霆王蔭泰等カ何ノ権限ヲ以テ省道尹等ヲ差置イテ此種問題ヲ決定シ得ヘキカ非公式ノ好意的談話ヲ直ニ國際的交渉ニ利用セラルハ迷惑至極ナリ云々小官等之ニ対シ領事館設置ハ何等其國ノ主權ヲ侵害スルモ

### 三 满蒙懸案解决交渉

滿鉄ノ利益ヲ損スルモノニハ悉ク反対スルニ似タリ不可解ノ次第ナリト述ヘシヲ以テ小官等ハ其誤解ヲ説明スルト共ニ苟モ条約上ノ規定アルモノヲ何等ノ相談ナシニ勝手ニ之ヲ無視セルノ非法ヲ説キ置キシカ彼ハ吉海線ハ日本カ海竜線ヲ譲渡シ當時既ニ当然其延長線タル吉海線ヲモ放棄セシモノト認ムヘク必スシモ条約違反ニ非スト云ヒ且五日夜奉天臧式毅ヨリノ通信ニ依レハ奉天總領事ハ省長ニ対シ數回懸案解決ヲ迫リ其交付セシ覚書ノ如キハ極度ニ省長ヲ非難シ侮辱セラル省長カスル重大問題ヲ解決シ能ハサル奉天側ノ内情ヲ知リ乍ラ故ラニ省長ヲ責メラルハ果シテ何ノ為ナリヤ而シテ之ヲ肯カスハ滿鉄及之ヲ横断スル支那線ノ軍事輸送ヲ差止ムヘシト通告セリト其亂暴驚クヘク奉天ハ今ヤ浮沈ヲ賭シテ討赤軍ニ從事セルニ東支鐵道ハ勿論我軍需品ノ輸送ヲ許サス而シテ吾等カ馮玉祥派及武漢派ヲ指シテ労農共產党ノ走狗ナリト罵倒セルト同様ニ吾人ノ反対派ハ吾等ヲ日本ノ傀儡ト迄誹謗セラレツツ其日本ヨリ軍需品ノ輸送ヲ差止メタル吾等ハ滿鉄ヲ呪ヒ自由ニ運行シ得ヘキ鐵道ヲ自ラ作ラント欲スル故無キニアラスヤ吾等ニ鐵道ノ單獨建設ヲ促スモノハ實ニ日本ナリ吉田總領事ノ如ク属國ニ

ランカ為之以上深入リスルヲ控ヘ置ケリ

最後ニ横合ヒヨリ試ニ思ヒ奉天ハ今ヤ其軍ヲ閨内ニ進メ滿蒙開発ノ為ニハ是非トモ日本ノ援助ヲ煩ハササルヲ得サル運命ニアルニ非スヤ又鐵道問題ノ如キモ多ク今日迄互ニ内意ヲ談シタルコトモアルモノナリ日本當局ニシテ今少シク奉天側ノ立場ヲモ考ヘ人民ニ對シテモ之ヲ納得セシメ得ルタケノ方法ヲ講セラルニ於テハ別段六ヶ敷モノトモ思ハレサルニアラスヤト洩セリ

以上ハ楊宇霆ノ談話ヲ羅列スルニ止ムル次第ナルカ彼等胸

中ニ於テ困惑苦衷ヲ感シアルハ確ニ看破シ得ヘキモサリト

テ輸送ノ脅迫ニモ応シ兼ネル色アルモ明白ナリ

本日貴電第一五〇号ニ接シタルヲ以テ明日再ヒ松井顧問ト共ニ張作霖ヲ訪問ノ上改メテ卑見ヲ申述フルコトトスヘシ

右ハ全部堀代理公使ニモ連絡シタリ

140 昭和2年8月9日 田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛（電報）

森次官より芳沢公使へ吉田總領事の対張作霖

通告文に対する協力援助方について

本省 8月9日後5時20分発

滿鉄ノ利益ヲ損スルモノニハ悉ク反対スルニ似タリ不可解ノ次第ナリト述ヘシヲ以テ小官等ハ其誤解ヲ説明スルト共ニ苟モ条約上ノ規定アルモノヲ何等ノ相談ナシニ勝手ニ之ヲ無視セルノ非法ヲ説キ置キシカ彼ハ吉海線ハ日本カ海竜線ヲ譲渡シ當時既ニ当然其延長線タル吉海線ヲモ放棄セシモノト認ムヘク必スシモ条約違反ニ非スト云ヒ且五日夜奉天臧式毅ヨリノ通信ニ依レハ奉天總領事ハ省長ニ対シ數回懸案解決ヲ迫リ其交付セシ覚書ノ如キハ極度ニ省長ヲ非難シ侮辱セラル省長カスル重大問題ヲ解決シ能ハサル奉天側ノ内情ヲ知リ乍ラ故ラニ省長ヲ責メラルハ果シテ何ノ為ナリヤ而シテ之ヲ肯カスハ滿鉄及之ヲ横断スル支那線ノ軍事輸送ヲ差止ムヘシト通告セリト其亂暴驚クヘク奉天ハ今ヤ浮沈ヲ賭シテ討赤軍ニ從事セルニ東支鐵道ハ勿論我軍需品ノ輸送ヲ許サス而シテ吾等カ馮玉祥派及武漢派ヲ指シテ労農共產党ノ走狗ナリト罵倒セルト同様ニ吾人ノ反対派ハ吾等ヲ日本ノ傀儡ト迄誹謗セラレツツ其日本ヨリ軍需品ノ輸送ヲ差止メタル吾等ハ滿鉄ヲ呪ヒ自由ニ運行シ得ヘキ鐵道ヲ自ラ作ラント欲スル故無キニアラスヤ吾等ニ鐵道ノ單獨建設ヲ促スモノハ實ニ日本ナリ吉田總領事ノ如ク属國ニ

臨ムカ如キ態度ヲ持続セラルニ於テハ或ハ數日ノ中ニ衝突ニ至ルヘキヲ懼ル又日本ハ滿蒙ニ對シテ特種親密ノ関係ニアリト説カル然シテ日本ハ天津南京上海及漢口方面ニ於テ二分五厘ノ付加税ヲ默認シナカラ独リ滿州ハ特種親密ノ關係ニアルカ故ニ二分五厘ノ付加税サヘモ今以テ許サレス日本ハ南方ニ於テ失ヒシ處ヲ特種親密ノ地方ニ於テ補ハントセラルニヤ有難カラサル親密ナリ

張元帥以下吾等カ芳沢公使ニ会スルモ児玉長官ニ会ヒシ時モ將又日本ノ朝野有力者ト談スルモ悉ク穩健ニシテ常ニ誠意ヲ披瀝セラルニ独リ奉天總領事ハ我等ノ面子ヲ無視シ高圧手段ヲ弄シ恰モ二十一個條強制當時ト同様ノ態度ヲ持シ我等ヲシテ愉快ニ日本ト提携スル能ハサラシム果シテソレカ日本政府ノ真意ナルヤ否ヤ理解ニ迷フ或ハ吉田總領事ハ奉天側ニ一擊ヲ試ミ後徐々ニ交渉ヲ進メントノ企図カモ知レサレト斯ノ如キハ体面ヲ重スル我等支那人ヲ解セサルノ甚シキモノニテ出来ルモノサヘ破壊ニ導クモノナリトシ始終彼等立場ノ苦痛ト同時ニ憤懣ノ言葉ヲ繰リ返セリ小官等ハ以上楊ノ不平ニ對シ一々冒頭ニ述ヘシ根本主義ニ基キ反駁シ又説明シ置キシモ爾後當局ノ交渉ニ支障ヲ及ボササス

第三五〇号  
（三七文書）  
貴電第一〇五九号ニ閲シ

森政務次官ヨリ芳沢公使へ左ノ通り

吉田總領事ノ通告ハ往電第<sup>（二九文書）</sup>九六号ト行違ヒニ發送セラレタルモノニシテ貴官ノ北京交渉ト呼應スル能ハサリシハ遺憾ナルモ奉天宛往電<sup>（二五文書）</sup>第九〇号一般訓令ニ基キ通告セラレ本省ニ於テ之ヲ支持スル要アリ此ノ際貴公使ノ協力援助ヲ切望ス

141 昭和2年8月9日 在北京本庄公使館付武官より  
南參謀次長宛（電報）

満蒙懸案解決問題に関する張作霖との会見について

北 京 8月9日前發  
參謀本部 8月9日後着

支第四七〇号  
（8月11日外務省写接受）

八日午後松井顧問ト共ニ張作霖（数日前ヨリ胃腸ヲ害シ亞リ）ヲ訪ヒ次長電第一五〇号ニ基キ説明スルニ努メタル处彼ハ憤懣ニ堪ヘサル態度ニテ吉田總領事ハ交渉ノ範囲ヲ越ヘテ莫省長等ト直接交渉セラレタルハ如何ナル次第ナリヤ

### 三 满蒙懸案解決交渉

144 昭和2年8月10日

田中外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛（電報）

満蒙懸案二関シ篤ト貴官ト協議ヲ遂クル為森政務次官十五日奉天着吉田總領事ト共ニ大連ニ赴キ同地ニ於テ貴官ト会見スルコトトシ度キ予定ナルニ付貴官ハ大連ニ於テ右両官ノ到着ヲ待受ケラルコトト致度シ

第三五一号

143 昭和2年8月10日  
在上海矢田總領事宛（電報）  
本省 8月10日後2時50分發

官、吉田奉天總領事と協議すべき旨の訓令

（二九文書）  
第九六号ノ通り本庄、松井ニ対シ側面ヨリ奉天交渉ヲ援助呼応スル様取計ヒ置キタル次第ナルカ同公使モ當方ノ勧告ヲ容レ漢口行ラ止メ十二日上海ヲ発シ大連經由帰任スルコトトナリタルニ付テハ貴官モ大連ニテ同公使ト落合ヒ今後ノ交渉方針ニ付篤ト懇談ヲ遂ケラレタシ貴官並公使ト協議ノ為森政務次官貴地ヲ經テ貴官ト同伴大連ニテ公使ト会見スル為十一日朝東京出発京城下車十五日貴地着ノ予定

田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛（電報）

第三五一号

143 昭和2年8月10日  
在上海矢田總領事宛（電報）  
本省 8月10日後2時50分發

満蒙懸案解決問題に關する日本側の態度を汪付記 八月十二日付出席次官より汪駐日公使  
宛満蒙懸案自録並びに摘要

第一〇二号  
（二三文書）  
貴電第二二五号ニ閲シ

九日汪公使ノ來訪ヲ求メ本大臣ノ命令トシテ出席次官ヨリ左ノ通嚴重申入レ置キタリ

現内閣ハ特ニ満蒙問題ニ付テハ深甚ナ注意ヲ払ヒ日本ノ既得ノ権利ヲ確保シ同時ニ満蒙ノ經濟的平和的開發ヲ共存共榮ノ見地ヨリ促進セムコトヲ希望シ東方會議ニ於テモ此ノ方針ノ遂行ノ為ニハ日支双方共ニ誠意ヲ批瀝シテ充分友好的解決ヲ計ルコト肝要ナル趣旨ノ決議ヲナシタリ然ルニ從來ノ諸懸案殊ニ條約並協定ニ反スル鉄道ヲ我方再三ノ抗議ニ拘ラス之ヲ無視シテ布設セムトスル件各種ノ不当課稅言論圧迫帽兒山分館設置等両國ノ不快ナル案件頻々トシテ起リノ交渉今日ニ至ル迄何等進捗セス元來右諸問題ハ日支双方誠意ヲ披瀝シテ考量スルハ幾多解決ノ方法アルヘク不

殊ニ海吉線ノ如キ吉林省ノ事ニテ莫省長ニ何等關係ナキモノ迄ヲモ羅列シテ攻撃材料トセラルヲ不可解ナリトシ元來吾人ノ土地ニ吾人ノ資力ヲ以テ鉄道ヲ建設セントスルニ對シ日本領事カ一々苦情ヲ申込ムコトサヘ不都合（條約ヲ無視セル張作霖ノ誤解ナリ）ナリト信シアルニ其要求ニ応セサル報復トシテ奉天軍々需品ノ輸送ヲ差シ止ムト云フニ至リテハ言語道断ナリ吾人ハ万障ヲ排シ微力ヲ以テ鉄道ヲ建設セサルヘカラサルノ決心ヲ固メタリト述ヘ臨江県領事館問題ノ如キモ人民ノ反対強ク之ヲ抑压スルニ由ナシト放テ戰鬪ヲナスモノニ非ス田中内閣成立後ニ於テモ幾多ノ懸案一トシテ解決セラレサルヨリ莫省長ニ誠意ナキモノト認メタルニ因ルナルヘシ

張作霖ノ説ニモ誤解アリ委細ハ楊宇霆ニ説明シ置キシカ故ニ茲ニ意見ヲ述ヘサルヘキモ最初ニ述ヘシ我カ精神ノ存スル處ヲ諒解セラルヘキナリト説明セルニ彼ハ芳沢公使ノ帰任ヲ待テ万事相スヘシトナシ滿鐵副社長ニ新任セシ松岡氏ハ何時着任スヘキヤ等語リ更ニ公使帰任後ノ相談ハ猶相当ノ時日アルコト故先ツ篤ト堀代理公使ノ意見ヲモ徵ス可シ

ト獎メシニ彼ハ胃腸ノ癒ユルヲ待テ面会スヘシト語レリ右會見後楊宇霆ニ我代理公使ト親シク非公式ニ打合セシテハ如何ト説キシニ彼ハ之ヲ快諾シ更ニ松井顧問ニ再ヒ奉天ニ至リ予ノ手書ヲ携エ莫省長ニ成ル可ク相互ノ衝突ヲ避クヘク説明方依頼セリ

（松井顧問ハ堀代理公使ノ楊宇霆及張作霖ニ會見後同代理人使ト相合セノ上出発ノ予定）

142 昭和2年8月10日 田中外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛（電報）  
満蒙懸案の交渉方針に關し芳沢公使と協議方訓令

本省 8月10日後3時40分發

第一〇二号

満蒙懸案ニ関シ其ノ後ノ成行ハ屢次ノ貴電ニ依リ承知スル處御申越ノ次第ニ依リ次官並木村局長九日汪公使ニ會見懇談ヲ遂ケタルニ付其ノ結果ニ付テハ別ニ電報スヘキモ不幸ニシテ本件ノ交渉ハ貴地ト北京トノ間ニ調子合ハス折角ノ御苦心モ夫レカ為ニ不成功ニ終ルコトナキヤヲ懸念セラレタルヲ以テ北京宛往電（二三〇文書）第三〇〇号ノ通り芳沢公使ニ又往電

### 三 满蒙懸案解決交渉

取敢日支間ノ此等諸問題ヲ解決シ双方ノ不快ノ種ヲ一掃シタル上茲ニ日支間ニ満州ニ関スル問題ニ付胸襟ヲ開キテ友好的協議ニ入ル覚悟ナル處東三省當局ハ日本側ノ抗議並交渉ニ対シ殆ト之ヲ無視シ又ハ遷延シテ一向誠意ヲ示サス依テ帝国政府ニ於テハ特ニ東三省當局ノ態度ノ変更ヲ希望シ嚴肅ナル態度ヲ以テ此際熟慮反省ヲ促シ之ニ対シ從來ト同様不誠意ノ態度ナルニ於テハ日支ノ國交上甚タ遺憾ナルモ強制手段ヲ講セサルヲ得スト云フ結論ニ到着シタリ吉田總領事ハ右ノ方針ヲ体シテ帰任シ前後二回ニ瓦リ莫省長ニ對シ東方會議ノ空氣並帝国政府ノ意ノアル所ヲ披瀝シ特ニ同省長カ曩ニ吉田總領事ニ対シ省長トシテ帝国政府ニ対シ責任ヲ執ルノ好意ナシト迄断言シタル態度ヲ改メムコトヲ希望シ同時ニ念ノ為右ノ趣旨ヲ覚書ニ認メ其ノ回答ヲ求メタル處約二週間ヲ経タルモ何等ノ回答ヲ寄セス依ツテ遂ニ其ノ反省ヲ促ス手段トシテ政府ノ命ニ依リ京奉線ノ軍用列車滿鉄付屬地通過ヲ禁止スルノ手段ニ出ツルノ要アルヤモ計り難キコトヲ警告シタル處要領ヲ得サル回答ヲ寄セ然モ自分ハ多忙ノ故ヲ以テ交渉員ト交渉アリタシト言フカ如キ我方ノ嚴肅且熱心ナル態度ニ対シ其ノ礼ヲ尽ササルノミナラ

ス最近ニ於テハ排日排貨ノ運動ヲ起シ其ノ裏面ニハ莫省長ノ差金与リテ力アリトノ情報ヲ伝フルモノサヘアル次第ナルカ以上ノ如キ東三省當局ノ態度ハ日本政府ノ了解シ難キ所ニシテ果シテ東三省ノ首脳タル張大元帥ハ右ノ如キ態度ヲ支持セラレ居ルモノナリヤ否ヤ汪公使ニ於テ此点ニ関シ特ニ北京ニ電報セラレムコトヲ希望ス固ヨリ帝国政府ハ満州ニ関スル問題ニ付テハ誠心誠意ヲ以テ共存ノ主義ニ基キ友好的交渉ヲ重ねタキ決心ニテ吉田ハ田中總理ノ使命ヲ含ミ適宜交渉ヲ進メツツアル次第ナル事地方問題ニ属スト雖モ最近東三省當局ノ不誠意ナル態度ニ關シテハ帝国政府トシテ終ニ吉田總領事ノ通告セルカ如キ断乎タル処置ニ出テナルヲ得サル場合アルヘク唯此際日本殊ニ東三省當局トノ親交ニ鑑ミ今一応北京ニ於ケル東三省最高首脳ノ熟慮ノ余地ヲ存スル為奉天總領事ニ対シテハ前記強制手段ノ実施ハ暫ク延期スヘキコトヲ命シ置キタルカ此際特ニ張大元帥ノ深甚ナル考量促シ度ク將又芳沢公使ハ之力為急ニ北京ニ帰任シ対支政策殊ニ満州問題ニ付田中總理ノ使命ヲ張大元帥ニ懇談シ同時ニ本件ニ就テモ帝国政府ノ決意ヲ伝フル筈ナリト述ヘタル處汪公使ハ右帝国政府ノ意ノ在ル所ヲ直ニ本

国ニ電報スヘシト答ヘ詳細ハ書面報告ノ要アリトテ上記諸係争事件ノ目録摘要ヲ求メタルニ付之ヲ交付シ置キタリ

(付記)  
※ 東三省關係日支間懸案目録並摘要

八月十二日出淵次官ヨリ

汪公使ニ非公式ニ送付シタルモノ

#### 目録

- 一、打虎山通遼間鐵道布設問題
- 二、海竜城吉林間鐵道布設問題
- 三、帽兒山分館開設問題
- 四、東三省ニ於ケル條約違反課稅問題
- (イ)二分五厘付加稅
- (ロ)其ノ他ノ各種條約違反課稅
- 五、盛京時報發売禁止問題

一、打虎山通遼間鐵道布設問題

支那側當局ニ於テハ打虎山通遼（白音太拉）間ノ鐵道ヲ

計画シ既ニ大正十四年八月打虎山新立屯間ノ敷設ヲ了シ尚昭和二年一月新立屯彰武間ノ敷設ヲ終ヘ目下更ニ工事

支那吉林省當局ハ大正十五年秋海竜城吉林間鐵道ヲ奉海線ノ延長トシテ布設スヘキ旨ヲ發表セラレタルカ日本政府ニ於テハ右海吉間予定線カ大正七年日支間満蒙四鐵道ニ関スル鑑ミ在奉天並吉林兩領事ヲシテ大正十五年十一月以来屢々支那側當局ニ対シ抗議セシメタルモ支那側ニ於テハ日本ノ抗議ヲ無視シ既ニ海吉鐵路籌備處ヲ設ケ材料ヲ購入シ土工ヲ開始シ着々本鐵道建設準備ヲ進メ居レリ

三、帽兒山分館開設問題

本件ニ付テハ帝国政府ハ彼我ノ交誼ニ鑑ミ誤解ナキヲ期

スル為本年三月中旬北京外交部及奉天安東支那地方官憲

### 三 满蒙懸案解决交渉

ニ予メ分館設置ヲ通報セシメ之ニ対シ王外交次長及楊宇霆氏ハ堀參事官ニ対シ本件ハ至極簡単ナル問題ニシテ差支ナキコトト思フトノ趣旨ヲ答ヘタルヲ以テ四月中旬田中副領事ハ職員數名ヲ帶同シ帽兒山ノ対岸中江鎮ニ到着シ不取敢臨江県知事ニ対シテ会見ヲ申込ミタルモ拒絶セラレ五月二十二日新任知事ニ対シ更ニ会見ヲ申込ミタルモ再ヒ拒絶セラレタリ依テ同副領事ハ五月二十九日護照ヲ携ヘ館員ヲ率イテ帽兒山ニ赴キタル處意外ニモ支那側ハ官民協力ヲ以テ一行ヲ境外ニ押出シ同時ニ予テ分館用建物トシテ曩ニ借受ケアル家屋ヲ破壊セリ同副領事ハ五月末知事ニ対シ公信ヲ以テ其ノ責任ヲ問ヘルモ何等ノ回答ニ接セス  
此間ニ於テ臨江支那官憲殊ニ警察所長先導トナリテ地方人民ノ分館設置反対運動ヲ煽動シ何等不都合ナキ朝鮮人ヲ迫害追放シタルノミナラス隣接諸県ニモ通電シテ反対運動ヲ誘発セシメ遂ニ両岸ノ通商不能ニ陥レリ其後北京外交部ヨリ我公使館ニ対シ五月十三日付ヲ以テ分館設立ハ未タ其ノ時機ニ非サルモノト認ムル旨回答アリタルニ付我方ハ更ニ五月三十日付ヲ以テ既定ノ計画ヲ変更シ得

本側抗議交渉ニ係ラス強行セリ例へハ奉天省城其ノ他ノ各地ニ於ケル銷場税奉天吉林兩省及哈爾賓特別区ニ於ケル捲煙特捐奉天商埠地内邦人家屋ニ対スル家屋税单一税ノ特典ヲ有スル滿州紡績会社製品ニ対スル二重課税安奉線鐵道用地ニ対スル課税採木公司ニ対スル課税等其ノ主ナルモノナリ

#### 五、盛京時報発売禁止問題

本年六月十日奉天軍司令部ハ盛京時報カ奉天軍ニ不利ナル電報ヲ掲載シタリトノ理由ニ依リ在奉天日本總領事及

同新聞社ニ対シ何等ノ予告ナク同新聞ノ発売ヲ禁止シ強制手段ヲ以テ其ノ配達及郵送ヲ妨ケタリ依テ同地日本總領事ハ莫省長ニ面会シ奉天側ノ不当ニ対シテ抗議シタル

處省長ニ於テ誠意アル解決ヲ為サントスル意向見エサルニ付在北京堀代理公使ヨリ楊宇霆氏ニ掛合タルモ楊氏ハ日本側ヨリ直接外交總長ニ交渉方ヲ希望シタリ於茲同代理人公使ハ總長ニ面会ノ上本件急速解決方ヲ申入レタルニシトノ意思ヲ示サス爾後在奉天總領事及堀代理公使ニ於テ各々交渉ニ尽シタルモ未タ解決ニ至ラス

ニ予メ分館設置ヲ通報セシメ之ニ対シ王外交次長及楊宇霆氏ハ堀參事官ニ対シ本件ハ至極簡単ナル問題ニシテ差支ナキコトト思フトノ趣旨ヲ答ヘタルヲ以テ四月中旬田中副領事ハ職員數名ヲ帶同シ帽兒山ノ対岸中江鎮ニ到着シ不取敢臨江県知事ニ対シテ会見ヲ申込ミタルモ拒絶セラレ五月二十二日新任知事ニ対シ更ニ会見ヲ申込ミタルモ再ヒ拒絶セラレタリ依テ同副領事ハ五月二十九日護照ヲ携ヘ館員ヲ率イテ帽兒山ニ赴キタル處意外ニモ支那側ハ官民協力ヲ以テ一行ヲ境外ニ押出シ同時ニ予テ分館用建物トシテ曩ニ借受ケアル家屋ヲ破壊セリ同副領事ハ五月末知事ニ対シ公信ヲ以テ其ノ責任ヲ問ヘルモ何等ノ回答ニ接セス  
此間ニ於テ臨江支那官憲殊ニ警察所長先導トナリテ地方人民ノ分館設置反対運動ヲ煽動シ何等不都合ナキ朝鮮人ヲ迫害追放シタルノミナラス隣接諸県ニモ通電シテ反対運動ヲ誘発セシメ遂ニ両岸ノ通商不能ニ陥レリ其後北京外交部ヨリ我公使館ニ対シ五月十三日付ヲ以テ分館設立ハ未タ其ノ時機ニ非サルモノト認ムル旨回答アリタルニ付我方ハ更ニ五月三十日付ヲ以テ既定ノ計画ヲ変更シ得

サル旨覚書ヲ外交部ニ送致スルト共ニ在奉天吉田總領事ヲシテ莫奉天省長ニ対シ本件至急解決方極力交渉セシメタルモ省長ニ毫モ好意ナク遂ニ省長トシテ責任ヲ執ルノ好意ナキコトヲ言明スルニ至レリ

#### 四、東三省ニ於ケル條約違反課税問題

##### (1)二分五厘付加税

廣東其他諸地方ノ例ニ倣ヒ滿州官憲ニ於テモ本年三月頃ヨリ二分五厘付加税ヲ自主的ニ徵收セムトシタルモ條約ノ規定ヲ無視セル同付加税ノ徵收ハ我方トシテ到底之ヲ承認シ難キニ付從來各地ニ於テ列國ト共同又ハ單獨ニ之ニ強硬抗議シ來リタル次第ナルカ殊ニ滿州ニ於テハ租借地及鉄道付屬地内ニ於テ別ニ徵稅機關ヲ設ケ徵稅セムコトヲ提議シタルヲ以テ之ヲ拒斥シタリ然ルニ其ノ他ノ各地ニ於テハ莫省長其他ノ地方官憲ハ我方屢次ノ抗議ニ対シ中央政府ノ命令ヲ盾トシ各地稅関ニ於テ實力ニ依リ本件付加税ノ徵收ヲ行フ結果當業者側ニ於テハ實際取引ノ必要上抗議付ニテ納稅セリ

##### (2)其ノ他ノ各種條約違反課税

東三省當局ハ從來條約ニ違反セル各種ノ不當課稅ヲ日

#### 帽兒山分館開設問題

##### 一、分館設置ノ理由

##### 二、我方第一次覺書

##### 三、田中副領事一行中江鎮滯在

##### 四、第一次覺書ニ對スル外外交部ノ回答

##### 五、我方第二次覺書

##### 六、一行ノ帽兒山乘込

##### 七、第二次覺書ニ對スル外交部ノ回答

##### 八、我方第三次覺書

##### 九、其ノ後ノ狀態

#### 帽兒山分館開設問題

##### 一、分館設置ノ理由

帽兒山分館管轄下トナスヘキ撫松、安岡、長白、臨江ノ四県内ニハ七十五人ノ内地人三万八百六十人ノ鮮人（大正十三年乃至大正十五年統計）住居シ年々多額ノ貿易額

ヲ算スルニ拘ラス不逞鮮人及馬賊ノ跳梁盛ニシテ支那軍警ノ警備力薄弱ナルニ乘シ良民ヲ圧迫シ農民ノ水田經營ヲ放棄シテ帰鮮スルモノ多ク日支間ノ紛争絶ヘス領事館分館開設ノ必要ハ夙ニ唱導セラレタルカ大正十五年度予

算成立ト共ニ本年二月頃ヨリ分館開設ノ準備ニ着手シ副領事田中作外書記生警部各一名及巡查六名計九名ヲ配属セシムル事トシ同官現地到着ヲ待ツテ開館ヲ發表スルコトトシタリ

## 二、我方第一次覚書

三月十七日堀參事官ハ外交部ニ赴キ「日支両國間貿易逐年遞増ノ現状ニ鑑ミ今般日本政府ハ在安東領事館管理内帽兒山ニ同領事館分館ノ必要ヲ認メ近ク館員派遣ノ計画ナル書面ヲ手交シ又口頭ヲ以テ（一）鴨綠江岸ニ於ケル最近貿易關係ノ遞増ト共ニ（二）安東間島両領事館間ニ瓦ル長距離ナル管轄区域連絡ノタメ（三）既存條約ニ基キ既存領事館ノ配下ニ一分館ヲ設置セントスル意向ヲ伝ヘタル所王外交次長ハ右ハ至極簡単ナル問題ナリト思考スルモ尚楊宇霆トモ談合スヘキ旨答ヘタルヲ以テ堀參事官ハ十八日更ニ楊宇霆ト面会ノ序ヲ以テ其ノ了解ヲ求メタルニ楊ハ右ハ差支ナシト思フト述へ且ツ最近帰奉ノ上莫省長トモ相談ノ上書面ヲ以テ外交部トノ間ニ話ヲ經ムル様取計フヘシト答ヘタリ

## 三、田中副領事一行中江鎮滯在

変更スル能ハサル」ヲ通告セリ

## 六、一行ノ帽兒山乗込

然ルニ其ノ後該地ニ於ケル排日運動ハ愈猖獗ヲ極メ五月二十九日一行カ護照ヲ携ヘ帽兒山ニ赴ケルヲ擁シ官民協力一行ヲ境外ニ押出シアマツサヘ多數ノ暴民ハ分館タルヘキ家屋ニ進入シテ之ヲ破壊シ一行ハ対岸ニ引揚クルノ已ムナキニ至リ爾來武装対峙シテ両岸ノ交通ハ遮断サレ臨江ニ於ケル鮮人压迫ハ益募り来レリ

## 七、第二次覚書ニ對スル外交部ノ回答

越ヘテ六月三十日ニ至リ外交部ハ我第二次通牒ニ對スル回答ヲ送付シ來リ「支那政府ニ於テ承認セサル以前ニ於テ遽ニ材料ヲ運搬シ領事館ノ建設ヲナスニ於テハ當該地方民衆ノ反感ヲ惹起スル恐アリ之カタメ事端ヲ發生シ両國親交ノ本旨ニ影響スル所ナキヲ保セス其ノ責任頗ル重大ナルヲ以テ當分ノ内之カ設置ヲ延期セン事ヲ伝達シ來レルカ

## 八、我方第三次覚書

帝国公使館ニ於テハ七月六日重ネテ覚書ヲ以テ本件予定変更不可能ノ趣ヲ通告シ地方民ノ誤解是正方要求シ置ケ

斯クテ分館主任タルヘキ田中副領事ハ四月十六日中江鎮ニ到着セルカ對岸帽兒山ニ於テハ何時カ領事館分館開設ノ評ヲ伝ヘ聞キ排日運動愈猛烈トナリ臨江縣知事等ハ奉天省庁側ト相計リ副領事ノ要求ニ対シ再度面会ヲ拒絶シ来レリ

## カクテ副領事一行ノ乗込ミ遷延久シキニ瓦リタルタメ最初簡単ナル一方的通告ニ止メ乗込ヲ待テ「フェータコンプリ」ヲ形成セントスル我方針ニ頓挫ヲ來シ居ル中

## 四、第一次覚書ニ對スル外交部ノ回答

外交部ハ五月十三日付公文ヲ以テ帽兒山ニハ「日本人ノ在留多カラス分館設置ノ時機ニアラス」トテ開館不同意ヲ通知シ來リタルヲ以テ

## 五、我方第二次覚書

日本公使館ニ於テハ五月二十九日田中一行ノ乗込ムヲ待チ五月三十日更ニ第二次通告ヲ發シ分館設置ノ必要ヲ繰返シタル後「前記日本公使館ノ通告モ單ニ日支両國ノ親交關係ニ顧ミ相互ノ誤解ヲ避ケムカタメ念ノ為ナサレタル次第ナリ依テ日本帝国公使館ハ同分館々員ヲ現地ニ派遣シ開設ニ必要ナル措置ヲトラシムヘキ既定方針ヲ何等

リ

## 九、其ノ後ノ狀態

然ルニ支那側ニ於テハ本件ハ田中内閣ノ所謂積極政策ニ對スル反対運動ノ試金石トシテ飽迄強硬ノ態度ヲ取ル一方在本邦支那公使ハ再三外務省ヲ訪問シ開館延期ヲ懇願セルカ今ヤ本問題ハ單ナル一地方問題ニ非スシテ滿蒙懸案解決反対ノ国民的輿論ヲ形成セントスルノ事態トナリ帽兒山分館開設ノ懸案モ滿蒙問題解決ノ一案トシテ交渉セラル手筈トナリタリ

145 昭和2年8月10日 在中国堀臨時代理公使より

田中外務大臣宛（電報）

## 滿蒙懸案解決に関する楊宇霆との会談について

北京 8月10日後着  
本省 8月10日後着

第八七九号  
(二三八文書)  
往電第八七〇号ニ関シ

張作霖病氣ノ故ヲ以テ十日楊宇霆ヲ訪問シ先ツ吉田總領事カ莫省長ニ致セル覺書ノ眼目ヲ説明シ日本政府ハ非常ノ抱

### 三 满蒙懸案解決交渉

負ヲ以テ日支提携満蒙鉄道網ノ完成ヲ機トシ其レニ必要ナル商議ヲ開クニ先立チ從来彼我ノ諒解ヲ妨ケ來リシ諸懸案ヲ一掃シ両者ノ間ニ何等陰影ヲ残ササラシメン趣旨ニ出タルモノニシテ此日本政府ノ既定方針ハ何人カ談判ノ局ニ當ルモ之ヲ動カシ得サルヨリ苟クモ日支提携ノ新事業ニ異議無キ限り此覚書ノ趣旨ヲ先ツ篤ト考慮セラレ諸懸案ヲ解決スルニ尽力サレ度シト述ヘタルニ楊宇霆ハ右諸懸案ノ解決ニ付自分ハ局外者ナルヨリ其積リニテ聽カレ度シトテ大体ニ於テ本官ノ陳述ノ趣旨ニハ贊意ヲ表シタル上ト同時ニ権利ヲ放棄セラレタルニ今更反対セラルハ了解シ難シ

(一) 鉄道問題ノ懸案中海吉線ニ付テハ先年松岡理事カ開海線ト同時ニ権利ヲ放棄セラレタルニ付南方ニテ故障無ク納ム

(二) 不當課税ニ関シテハ南方ノ諸港ニ於テ之カ徵稅ハ殆ト問題無ク行ハルニ北方ノミ日本ノ反対ノ為故障アルハ何故ナリヤ

(三) 盛京時報ノ不始末ニ付テハ日支何人モ心アル者ハ同紙ノ態度ニ鬱蹙セサル者無ク近頃ハ張作霖自身ハ割合ニ淡白ナレト奉天省ノ官憲カ拳テ取締ノ徹底ヲ要求セル状態ナリ

最後ニ本官ハ満蒙懸案解決問題ニ関連シ新聞紙ニ種々論議サレ一部ハ日本新聞ノ転載モアレト中ニハ特ニ今回ノ鉄道問題解決等ヲ猜疑的態度ニテ取扱ヒ支那ノ輿論ヲ誤解セシムル傾向アリ右ハ談判ニモ差支アルニ依リ取締ラレ度シト云ヘル處楊ハ之ニ興味ヲ感セルカ如ク自分ハ知ラサリシカ取調ノ上必要アラハ何等カノ「ステップ」ヲトルヘシト言ヘリ

今日楊宇霆ニ会ヒテノ感想ニ依レハ不当課税問題モ専照單ハ別トシ満蒙ノミ解決スルハ困難ナルヘク又盛京時報ニ付テハ其ノ編輯方針ヲ改良スルコト何ノ道必要ナリ又帽兒山問題ハ楊ノ意思ニ基キ貿易上ノ理由ヲ敷衍力説スルコト適当ト信スルモ之カ成功セサル場合無理押シスルモノ其効果疑ハシク又鉄道競争線ノ問題ハ将来讓歩ノ腹案ナルニ於テハ諸懸案ヲ鉄道問題ト離シテ一氣ニ解決ヲ迫ルハ如何カト思ハル概シテ「ギヴ、アンド、ティーク」ノ性質ヲ有スル鉄道

(四) 帽兒山分館問題ニ付從来自分トシテハ第三者トシテ側面ヨリ尽力シ來レリ然レ共日本側ニテ充分ノ理由ヲ示シ奉天官憲ヲ納得セシメテ開館シタルモノニ非スシテ無理ヲ通サレシモノナルニ依リ今日ノ如クナルハ蓋シ當然ナリ

ト答ヘタルヲ以テ本官ハ海吉線問題ハ日本ハ明治三十八年北京會議以来其権利ヲ放棄シタル事無ク松岡理事云々ハ恐ラク誤解ニ出ツルモノナル可ク本問題ニ付テハ後日篤ト意見ヲ述フ可シ又不当課税ノ問題ニ付南方ニテ故障無ク納ムルモノアルハ商人カ便宜上之ヲ為スニ過キス日本政府カ素ヨリ承認シタル處ニ非ス

爾余ノ二問題ハ日支両國共少シク冷静ヲ欠キ意地トナレル感無キニ非サル處何等カノ妥結ヲ觀ルニ非サレハ鉄道問題ニモ入り得サルモノト思ハルニカ此点ニ付何等御考無キヤト言ヘルニ楊ハ盛京時報ノ方ハ奉天側トシテハ當分態度ヲ変更シ得ス帽兒山ノ方ハ理由サヘ充分説明セラルレハ解決モ簡単ナル可シ只々不逞鮮人ノ取締ノ為ト言フハ三矢協定モアル今日了解シ難ク貿易増進ノ必要ヨリト言フハ領事館設置ノ理由トシテ尤モナリト思ハルニカ故ニ此点ニ依リ充

問題ノ交渉ヲ進捗セシメ其副産物トシテ諸懸案ノ解決ヲ為スコトトセハ比較的容易ナルヘク又本筋ノ談判ニ障害ヲ齎スコトモナシト思考ス既ニ御氣付ノコトト存スルモ重ネテ卑見開陳ス

146 昭和2年8月11日 在中国城臨時代理公使より  
田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案解決に関する北京政府の意向伝達のため陶尚銘及び松井少将の奉天出張について

北京 8月11日後発 本省 8月11日後着

\* 第八八六号  
(四五文書)  
青島ヨリ帰來セル陶尚銘十日來訪明日大元帥府ヨリ松井少將ト自分ト奉天府ニ出張スルコトトナリタルカ用向キハ莫省長ニ対シ満蒙懸案解決ニ関スル北京側ノ意向ヲ伝ヘ本筋交渉ノ開始ニ支障無カラシメン為メニシテ遅クモ芳沢公使ノ帰任期迄ニハ帰京ノ予定ナリト語レリ

奉天ヘ転電セリ

147 昭和2年8月12日 在中國塘臨時代理公使より  
田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案問題に関する本庄と張作霖との会談

について

本省 8月12日後着 発

第八八九号

(一四六文書) 往電第八八六号ニ関シ

八日本庄ハ張作霖カ下痢ニテ謝絶セルヲ押切リテ面会セル  
二張ハ大体楊宇霆ニ意見ヲ吹込マレタルラシク非常ナル不  
機嫌ニ同様ノ趣旨ヲ陳述シタル由ナルカ尚自分ノ如キ老  
人ニハ軍事輸送阻止ト云フカ如キ恫喝ハ利目ナシ支那ハド  
シドシ鉄道ノ自主的建設ニ取掛ルヘシ日本側カ莫省長ニ対  
スル不信認ヲ云為セラル如キハ甚タ不穩當ナリ殊ニ莫ハ  
張作相ノ計画タル海吉線問題ニ対シテハ何等發言ヲナシ得  
サル地位ニアリト云ヒ最後三芳沢公使又ハ松岡副社長ノ來  
京期ニ非常ニ待侘ヒル如キ様ニテ是等人士トノ間ニ凡テノ  
問題ヲ腹蔵ナク相談シテ円満ナル解決ヲ遂ケ度希望ヲ表白  
シタル由ナリ尚本官ハ本庄及松井ニ対シ軍事輸送阻止ノ件  
ヲ既ニ奉天總領事ヨリ莫省長ニ通シタル今日当分之ヲ実施

セサルヘキ政府ノ御意向ナルコトハ特ニ嚴秘ニ付スヘキコ  
トヲ注意シ置キタリ為念

148 昭和2年8月12日 在北京本庄公使館付武官より

日本側強制手段通告に対する王外交総長及び

楊宇霆等の反応について

北 京 8月12日後0時40分発

参謀本部 8月12日後9時32分着  
(8月13日外務省写接受)

支第四七六号

満蒙対策ニ関スル日本ノ決心ハ非常ニ固ク若シ反対セハ奉  
天軍後方連絡線タル京奉線ヲモ遮断シ兼ネマシキ意氣込ナ  
ル旨ノ報告汪駐日公使ヨリ当地外交部ニ到着シ外交總長王  
蔭泰及楊宇霆等ハ一面憤慨シ他面ニハ到底盲従スルヲ得ス若  
等情報ヲ有リノ儘張作霖ニ報告セハ彼ハ唯怒鳴り騒クノミ  
ニテ何等ノ対策アルニ非スサリトテ今回ノ如ク奉天側ノ面  
目ヲ全然躊躇セル日本ノ遣リ口ニハ到底盲従スルヲ得ス若  
シ威嚇高圧手段ヲ繰リ返ヘサルルナラハ自分等ハ辞職ノ外  
無シト云ヘリ而モ莫省長等カ奉天ニテ吉田總領事等ト甚シ  
キ衝突ニ至ラサル様注意方松井顧問ニ依頼シ同顧問ハ本十

149 昭和2年8月13日 在奉天吉田總領事より

田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案解決交渉の中心地を北京あるいは奉  
天に置くか指示要望について

奉天 本省 8月13日前着 発

第二三九号

北京発大臣宛電報第八七九号ニ関シ

(一四五文書)

鐵道抗議不当課税等所謂滿州懸案ハ昨今ノ出来事ニ之ナク  
支那側ノ無理解不誠意ノ積リ積リテ茲ニ至リ彼我交渉論議  
ハ既ニ業ニ尽サレ居ル次第ナリ盛京時報ノ現編輯方針モ亦  
支那從來ノ態度ニ原因スルモノニシテ其拠テ來ル所ヲ見ス  
突然漫然其結果ノミヲ尋ヌレハ我主張立タサルノ憾ヲ生ス  
往電第一九九号及機密第四五二号省長宛覺書及口上書ノ通  
本官ハ省長ノ再思反省ヲ促シ彼カ我ト提携ノ必要ヲ悟ラシ  
ムルコトニノミ先專念力ヲ集中シ居ル次第ニテ帽兒山問題  
ハ目下主トシテ安東領事ヨリ道尹ニ交渉シツアリ本官モ  
内心ニハ當地ニ於テ莫カ反省ノ誠意ヲ示シタル後ニ於テ先  
一二本件ヲ論議解決セント欲スルモ今回交渉開始以來格別

益タルコトヲ説明セシシテ只管我政府ノ強制行為ナルカ如  
ク述ヘ否ラスンハ我領土ニ臨ムカ如キ筆法ヲ以テ記シ此等  
カ日々支那新聞ニ記載セラレ弥カ上ニ日支ノ間ヲ疎隔シツ  
ツアルハ誠ニ遺憾ナリ

ニハ本官ハ未タ本件ニ言及セサルノミナラス其片影タモ示シ居ラサルハ屢次拙電ニテ御調ヘアリタシ然ルニ偶々先方カ本問題ヲ以テ我ニ対抗セントスル手ニ乗セラレテ我亦之ノミニ力ヲ集中シ居レルカ如ク自ラモ信シ他ニモ又此ノ感ヲ抱カシムルハ我ニトリ甚タ不得策ナリト存ス

北京來電第八七〇号ニ依レハ楊宇霆ハ本庄武官ニ對シ莫力斯ル問題ヲ解決スル地位ニ非スト云ヒ又北京來電第八七九号ニハ堀代理公使ヘ充分奉天官憲ニ説カルルカ良カルヘシト云ヒ前後矛盾ノ感アリ支那側ノ得手勝手ナルハ斯ノ如ク

毎度ノ事テ同一問題ヲ奉天北京両地ニ於テ交渉論議セハ兎角手間取ルノミナラス我主張ノ徹底ヲ欠キ結局支那側ノ乗スル所トナリテ我本来ノ目的ヲ達セサルヘキ恐アリ屢次電稟ノ通問題ヲ「ローカライズ」シ世間ノ注意ヲ惹カサル様先ツ問題ノ現場タル奉天ニ於テ莫ヲ目標ニ本官ヨリ交渉ヲ開始シ以テ間接ニ張ニ迫リ北京及東京ニ於テハ本官交渉ヲ側面ヨリ援助セラルコトトスルカ將又中心地ヲ北京ニ置キ材料ヲ本官ヨリ提供スルカ先ツ此点ヲ交渉ノ手違ヲ防カシタメ明ニセラルコトヲ要スヘク本省ノ御趣旨ハ交渉ノ中心ヲ一応当地ニ置クニアリト本官ハ諒解スルモ然ラハ北

京公使館ノ諒解充分ナラサルヤノ憾アリ本官ヨリ直接北京公使ニ對シ之ヲ指摘スルモ如何カト存セサルニ付何レモ閣下ヨリ確ト御示シヲ希望ス

150 昭和2年8月13日 出淵外務次官口述速記

### 東三省鐵道問題に関する田中首相、出淵次官、山本滿鉄社長の会談及び満鉄の権限に関する山本社長の要望について

※  
満州問題ニ關シ山本滿鉄社長ト会談ノ件

昭和二年八月十二日午後出淵次官田中總理大臣ト同大臣官邸ニ於テ会談中山本滿鉄社長總理ヲ來訪シ次官同席ノ上ニテ会談シ度キコトアリト申出テ總理直チニ之ヲ引見セリ山本社長ハ劈頭吉田總領事力最近在奉天莫省長ニ對シ極メテ強硬ナル態度ニ出テ鐵道連絡拒否問題迄言明シタル為メ支那側ニ於テ非常ニ反感ヲ懷キ斯ル形勢ニシテ持続セラレシカ鐵道問題ニ關スル解決ノ如キハ到底望無カルヘク自分ハ滿鉄社長ノ重大ナル地位ヲ自覺シ大ナル決心ヲ以テ任ニ赴キ先ツ第一ニ鐵道問題ニ關スル有利ナル解決ヲ得ムカ為メ既ニ江藤ヲ使用シ画策ヲ進メ居ル次第ナリ就テハ政府ニ

於テ若シ自分ヲシテ鐵道問題ヲ我國ノ有利ニ解決セシメムトセラルニ於テハ此際左迄重要ナラサル懸案ノ為支那側ニ對シ強硬ナル態度ヲ示シ之カ為メ累ヲ鐵道問題ニ及ホスカ如キコト無カラムコトヲ切望スト述ヘ猶進ンテ最近總理大臣ヨリ受ケタル命令ニ依レハ政府ハ滿州ニ於ケル懸案ノ解決ヲ見サル限り鐵道問題ニ對シ手ヲ着ケラレサル方針ナルカ如キモ斯クテハ鐵道問題ノ進行何時トナルヤ計リ難シ

從テ自分ハ取急キ滿州ニ赴ク必要ナカルヘシ云々ト稍興奮シタル態度ヲ以テ述ヘタリ右ニ對シ出淵次官ヨリ最近吉田總領事ノ執リタル態度ハ外務省ニ於テモ聊カ進ミ過キタル様考ヘ高速船ヲ取直シ尚自分ニ於テ汪公使ニ面会シ特ニ歳談スル所アリタル次第ナリ吉田總領事ニ於テ此上強硬ナル態度ヲ採ル心配無シ尤モ支那側ノ態度如何ニ依リテ

ハ早晚政府ニ於テ強硬ナル態度ヲ示ス必要アルヘキハ勿論ナルヘキヲ以テ其ノ場合ニハ各方面熟議ノ上一致シテ支那側ニ當ルコトト為ス方針ナリ只今社長ヨリ總理ノ命令書ニ先ツ懸案ヲ解決シ然ル後ニ鐵道問題ニ及フヘク云々トアリタル旨語ラレタルカ自分ハ該文書ノ文句ヲ記憶シ居ラサルモサル窮屈ナル命令ヲ發セラレタル筈無シ懸案ノ解決固ヨ

リ重要なナリト雖モ之ト併行シテ鐵道問題ノ解決ヲ図ルコト素ヨリ必要ナリ要ハ支那側ニ於テ誠意ヲ以テ我ニ臨ムヤ否ヤノ問題ナリ

若シ張作霖以下滿州官憲ニシテ條約上ノ義務ヲ無視シ又滿蒙ニ於ケル我國ノ地位ヲ顧ミサル如キ態度ニテ進ム限り身ヲ屈シテ一二ノ鐵道ヲ得ルカ如キハ無意味ナリ元來張作霖ヲシテ增長セシメタルハ日本人力事每ニ下手ニ出テ唯是事業ノ發展ヲノミ顧慮シ滿蒙ニ對スル帝國ノ地位ヲ充分ニ確保スルコトヲ忘リタルカ為ナルヘシト考フ今後張作霖以下滿州官憲ニ對スル場合我カ官民ハ常ニ權威アル態度ヲ示スコト絶対ニ必要ナルヘシ尚社長ハ江藤ノ運動ニ依リ鐵道問題必ス解決セラルヘシト語ラレタルカ右ハ一二ヶ月ニシテ解決シ得ヘキカト試ミニ尋ねタルニ社長ハ其ノ点ハ固ヨリ断言スルヲ得サルモ江藤ハ張作霖ノ寢室ニモ飛込ンテ自由ニ話シ得ル仲ナルヲ以テ必ス何等カノ結果ヲ得ヘシト答へ之ニ對シ出淵次官ヨリ曾テ松岡理事ハ一本ノ鐵道問題ノ為メ約半年ヲ費シタルコトアリ張作霖モ相当横着者ナルニ付日本側ニ於テ各方面一致シ断乎タル態度ヲ以テ彼ニ臨マサル限り恐ラクハ鐵道問題ニ付テモ充分ナル結果ヲ得ルコト

困難ナルヘシト告ケ置キタリ

次テ山本社長ヨリ満蒙問題ニ付是非總理ノ了解ヲ得度キコトアリトテ大要左ノ如キ三項ヲ認メタル半切ヲ示セリ

一、満蒙ニ關スル外交問題ニ付満鉄社長ヲ參與セシムルコト

二、関東州内ノ産業ニ關スル事項ハ之ヲ満鉄ニ移管スルコト

三、目下満鉄ニ於テ行ヒ居ル行政ニ關スル事項ハ之ヲ關東府ニ移管スルコト

右ニ對シ次官ヨリ第一項ニ付テハ満鉄社長タル者ハ満蒙経営ノ根幹タル満鉄ナル大会社ヲ主宰スルモノニテ而カモ政府之ヲ任命スル關係上満蒙ニ關スル外交方針等ハ常ニ政府ニ於テ同社長ヲシテ了解セシメ置クコト當然且必要ト認ム

ルモ文書ヲ以テ恰モ満鉄社長ハ當然外交問題ニ參與スルノ權限アルカ如キ形式ヲ表ハスコトハ乍遺憾同意スルコトヲ得斯要スルニ本問題ハ單ニ政府ニ於テ重要ナル外交方針ハ常ニ満鉄社長ニ了解セシメ置クヘシト云フ口頭ノ言明ニ止メ置キ度シ

第二ノ産業ニ關スル事項ハ満鉄ハ満蒙開発ノ根幹タル關係

上関東州ニ於ケル産業ニ關スル事項例ハ農事試験場トカ其ノ他産業ニ關スル施設ハ之ヲ満鉄ヲシテ統一セシムルコト好都合ナルヘシト考ヘラルニ付素ヨリ同意ニ躊躇セス第三ノ行政ニ關スル事項モ元來教育ノ如キ満鉄ニ於テ之タニ管掌スルコト面白カラスト考ヘ居ルニ付社長ヨリ進ンテ行政ニ關スル事項ヲ關東庁ニ移管センコトヲ申出テラレタルハ至極適當ノ措置ト考ヘラル旨ヲ述ヘタルニ田中總理ハ次官ノ所見ニ對シ大体同意ナルカ如キ口吻ヲ漏シ是等ノ事項ハ目下行政制度審議会ニ於テ研究セシメ居ルニ付本日満鉄社長ヨリ申出テラレタル三項ヲモ同時ニ審議セシムヘシト答ヘタリ

昭和二年八月十三日出淵次官口述速記

151 昭和2年8月13日 呂玉關東長官より  
田中外務大臣宛(電報)

森次官、芳沢公使らとの會議に関する心得方

内示について

閩東庁 8月13日後着  
本省 8月13日後着

第二号

八月十日付貴電第一六号了承本日着北京發電通次ノ如シ

「ノーレ」ヨリモ同様意味ノ通信アリ森次官芳沢公使等ノ會見ハ其目的明瞭ナラサルモ其趣旨ノ如何ニ依リテハ本通信ノ如キハ将来ノ交渉上影響少カラスト思考セラル就テハ

今回ノ會議ニ関シ本官心得方折返シ御内示ヲ請フ「十四日ヨリ森政務次官芳沢公使児玉長官奉天總領事列席ノ下ニ大連ニテ第二次東方會議トモ云フヘキ満蒙重大會議開催ニ決定シタリ森政務次官ハ既ニ大連ニ急行シ芳沢公使亦十四日早朝大連着ノ予定會議ノ内容日程其他ハ極秘ニ付セラレ居ルカ確聞スル處ニ依レハ討議ニ於テ決定シタリ満蒙政策ノ根幹ヲ更ニ具體化シ最後ノ方針ヲ決スヘキモノニシテ會議ノ主題ハ満蒙六大鐵道(吉長、洮斎、洮索、大賚、新邱、賓黑)敷設及之ニ借款問題ナリ尚同會議ニハ大倉組ヲ代表シテ河野久太郎張作霖ヲ代表シテ松井、町野両顧問ハ夫々意見陳述ノ為召集電報ニ接セリ河野氏ハ十二日朝松井氏ハ十二日夜北京發大連ニ向ヘリ

#### 日本側の意向について

奉天 8月14日後発  
本省 8月14日後着

第二四二号

米国公使ニ対シ満鉄ヨリ「キニー」ヲ途中迄説明旁隨行セシムルトノ事ニ付本官ヨリ「キニー」ヘ公使ヨリ御尋ネアリタル節ニハ左ノ通説明スル様申聞ケ置キタリ

先ツ当地方ニ於ケル不当課稅條約無視其他經濟上ノ各種不安ノ状況ヲ述ヘ斯ル事態ノ下ニ満州ノ開發ヲ望ム可カラサルニ付支那官憲ノ反省ヲ促シ幸ニシテ其目的ヲ達スレハ各國人ト共ニ其結果ヲ分タント欲シ断シテ日本ノミ利益ヲ壊滅スルノ意無キハ東方會議ニ於ケル首相ノ訓令ニ依リテ承知セラルルカ如シ帽児山問題ニ付最近支那側種々宣伝シ居ルモ本件ハ我ヨリスレハ二年以来ノ懸案ニテ中央政府動搖ノ為ミニ其交渉ヲ差控ヘ居リシカ幸北京奉天同一意見ノ下ニ帰シタルヲ以テ初メテ過般支那政府ニ申出テタル處王外交總長及楊宇霆ハ本件ヲ輕微ニ心得強ヒテ反対ノ意ヲ表セサリシヲ以テ結局我カ希望ヲ容ル可シト考ヘ北京ニ於テ交渉ヲ続ケツツ副領事ヲ派遣セル處予期ニ反シ一行任地ニ出

### 三 满蒙懸案解決交渉

152 昭和2年8月14日 在奉天吉田總領事より

田中外務大臣宛(電報)  
米国駐華公使に説明すべき満蒙懸案に関する

三 满蒙懸案解决交渉

発後急ニ支那側ヨリ彼此ト云ヒ出シ一旦旅行者トシテ入込

タルニ一行ヲ強力ヲ以テ追出シ分館予定家屋ヲモ破壊スル

ニ至レリ以来本件ハ其ノ儘ニ副領事一行ハ朝鮮ニテ交渉ノ

發展ヲ待タシメツツアル次第ナルカ演習ハ例年ノ例ニテ初

メヨリ二週間ニ終了スル予定ナリシ處支那側ハ分館創立ト

演習トヨ結ヒ付ケ宣伝材料ニ使ヒツツアリ

最近安東領事ニ対シ道尹ヨリ演習ヲ止ムレハ民衆運動ハ中

止セシム可シト申出テタルニ付固ヨリ二週間ニテ終了スル

モ所謂民衆運動ハ官憲ノ操縱ニ依ル事ナルハ明ナリ云々米

国公使ハ東京ニテ外務次官ニ会見ノ希望トノ事ニテ為念電

予定ナリシヲ以テ道尹ノ申出ハ早速承知シ置キタリ右ニテ

報ス

153 昭和2年8月16日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

森次官、芳沢公使らとの旅順における會議に

関する森次官報告

別 電 八月十六日付在奉天吉田總領事より田中外務大

臣宛第二四四号

旅順會議の結果報告について

154 昭和2年8月16日 斎藤關東軍參謀長より  
南參謀次長宛(電報)

旅順會議の結果報告について

関電第二二六号 旅 順 8月16日後4時55分  
參謀本部 8月16日後10時30分  
(8月17日外務省写接受)

関東長官官邸ニ於テ昨十五日芳沢公使、森外務次官、吉田  
總領事、關東長官、本庄中將、松井少將、軍司令官及小官  
ノ會議ニ於テ今後東方會議ノ實行上ニ關シ主働ハ北京芳沢  
公使之ヲ行ヒ地方的問題ハ吉田總領事之ニ當ルコトニ決シ  
各方面ノ協調成立セリ森次官ハ公使滞在間ニ於テ更ニ細部  
ノ打合セラ為ス筈(委細ノ経過ハ本庄ヨリ電アル筈)

155 昭和2年8月17日 在中國塘臨時代理公使より  
田中外務大臣宛(電報)

滿蒙懸案問題に関する王外交總長との会談について

北京 8月17日後発

本省 8月17日後着

\*第八九六号

十七日王外交總長訪問楊村大沽事件ニ付支那側其ノ後ノ様

奉天 8月16日前着 発  
本省 8月16日前着

第二四三号(極秘)

大連森政務次官ヨリ

昨十四日奉天經由吉田ト同行シ大連ニ來リ芳沢公使ト落合  
ヒ関東長官軍司令官トノ会談準備手筈ヲ打合セ置キ本日旅  
順ニ於テ別電第二四四号ノ通協議ヲ了セリ

(別 電) 奉天 8月16日前発  
本省 8月16日前着

第二四四号(極秘)

在大連森政務次官ヨリ左ノ通

本十五日旅順長官邸ニ於テ長官、軍司令官、軍參謀長、本  
庄、松井両武官、芳沢公使、吉田總領事ノ參集ヲ求メ協議  
ノ結果公使帰任後北京ニ於テ奉天宛貴電(二九文書)第九六号ノ趣旨ニ  
依リ奉天側幹部ニ對シ交渉ヲ開始シ我政府諸機関相呼応シ  
テ協力一致シ御来訓ノ目的達成ノ為ニ努力スル事ニ一決セ  
リ

度力日本政府ヲシテ以上ノ決心ヲ為サシムルニ至リ

後ニ來ルヘキ經濟提携ノ交渉ニ付テハ充分支那側ノ納得ヲ  
得ル様其方法ノ和平ナルヤ勿論ナリ決シテ總長ノ憂フルカ  
如キ強圧手段ヲ採ルモノニ非スト説ケルニ總長ハ懸案ノ解  
決ニ付テモ和平ニ話ヲ進メラルニ非レハ昨空氣悪化ノ  
付加税ノ如キ支那側ノ希望ニ対シテ好意的讓歩ヲ示シタラ  
ハ如何ト言ヘルニ依リソハ本末顛倒ナリ今解決ヲ迫ラレル

ハ大体支那側ニ於テ條約上ノ権利ヲ蹂躪セルモノニ対スル  
抗議ニシテ二分五厘付加税ノ如キ其尤ナルモノナリ之ヲ劈  
頭ヨリ讓歩セヨト言ハルルハ日本政府ノ今日ノ要求ヲ正解

セサルモノナリト言ヘリ總長ハ尚盛京時報問題ニ付盛京時  
報ノ態度カ両国ノ親交ヲ害シ其結果日本自身モ迷惑シ居ル  
ヘシ之ハ同紙ノ編輯部内ニ幾多ノ支那人アリ其ノ中ノ不良  
分子ノ仕業ナラハ之ヲ改革スル必要アリト言ヘルニ依リ同  
新聞ノ改革ニ付テハ恐ラク當事者ニ於テモ考フル處アルヘ  
シ然レトモソハ支那側ノ言フヘキ事ニ非スルニ邦人ノ營業  
言論ノ自由ヲ圧迫セル間日本側ニ於テ改善ノ仕様モ無キ旨  
答ヘタリ後王ハ最近ノ大連會議ニ言及シ当地ヨリ本庄、松  
島ヨリ讓歩セヨト言ハルルハ日本政府ノ今日ノ要求ヲ正解

井、河野久太郎ノ赴キタル事ニ依リテ滿蒙交渉ノ方針ニ変  
化ヲ來ス事ヲ希望スルカ如キ口吻ヲ漏セルニ依リ本官ハ何  
人カ交渉ノ局ニ當ルモ其順序ハ政府ノ既定方針ニ依リ懸案  
ノ解決ヲ先決問題トスヘキヲ力説シ置ケリ

156 昭和2年8月17日 山崎閑東府外事課長より  
吉田奉天總領事の京奉線軍用列車通過停止の  
通告措置について

昭和2年8月十七日

外務省 木村亞細亞局長殿 関東庁 山崎外事課長

拝啓益御清祥奉欣賀候陳者奉天ニ於ケル諸懸案解決交渉促  
進ノ為京奉線軍用列車滿鉄付屬地通過一時停止ノ件ニ關シ  
テハ吉田總領事ヨリ滿鉄会社宛八月二日發電報転電同三日  
午前接到シタルヲ以テ當方ニ於テハ滿鉄社及軍司令部側会  
合シ右停止方法並強行手段（警察力及兵力使用ノ場合等）  
ニ付一応協議ヲ為シタル上同日午後吉田總領事ヘ電報ニ及  
ヒタル處同總領事ニ於テハ同四日中當方電報接到前既ニ支  
那側ニ對シ通告ヲ發シタル趣ニ有之候

奉天總領事ノ交渉事件處理ニ付當方ニ於テ十分協調ノ態度  
ニ出ツヘキハ言フ迄モ無之候得共本件ノ如キ実行ノ方法順  
序等講究ヲ要スル事柄ニ付テハ前以テ當方關係向ニ十分内  
示打合アル様希望セラル次第ニ有之候本件電報照復等ノ  
レジーメ別紙ノ通御参考迄及送付候

敬具

（別紙）

奉天ニ於ケル日支交渉懸案解決方法ニ閔スル件

一、八月三日午前奉天總領事ヨリ滿鉄社長宛電報ノ転電

（同二日夜発）接到ス右ニ依レハ支那側ノ条約違反其他  
本法措置ニ因ル交渉懸案ニ關シ先方ヨリ回答セサルヲ以  
テ現実ニ支那側ノ反省ヲ促ス為メ京奉線軍用列車ノ滿鉄  
付屬地通過一時停止ノ手段ニ出テ度何時ニテモ右實行出  
来得ル様直チニ手配アリ度旨ノ申出ナリ

二、依テ右ニ閔シ滿鉄会社ニ問合セ又閏東軍司令部ノ意向  
ヲ徵スルコトトセリ

八月四日前者藤參謀長同理事等來庁シ打合セタルニ

〔〕滿鉄会社トシテハ曩ニ奉天總領事帰任ノ途來連シタル

（）軍用列車ト普通列車トノ見分ヲ為ス必要アリ若シ兩車  
混合ナル場合ハ之ニ対スル処置困難ナリ殊ニ列車内乗

客外国人ナルカ如キ場合ニハ意外ノ問題ヲ生スル虞レ  
ナキニ非ス

四 右実行方法トシテ支那側ノ實力対抗ノ場合ニ備フル為  
封鎖地点ニ警察官ヲ配置スル外軍隊ノ出動ヲモ用意シ  
置カサルヘカラス

五 軍司令部トシテハ本件ニ関シ奉天總領事ヨリモ又奉天  
特務機關ヨリモ未タ何等ノ通報ニ接セス同特務機關ニ  
問合中ナルモ前記目的ノ為軍隊ヲ出動スルトセハ準備  
ノ為二三日間ノ猶予ヲ要ス

六 右ノ目的ヲ以テ警察官及軍隊ノ行動ヲ為スハ其ノ當然  
ノ常務以外ニ屬スルヲ以テ予メ政府ノ訓令ヲ仰クヲ要  
ス

七 若シ支那側ニ於テ対抗報復手段トシテ満鉄線路妨害ノ  
行動ニ出ルコト無キヲ保セス又域内ヨリ皇姑屯駅迄荷  
馬車其他ヲ利用シ同駅ヨリ発送スルニ於テハ多少ノ不  
便アルモ大ナル苦痛ヲ感セサルヘシ

八 上ノ次第三シテ予想セラルヘキ種々ノ場合ヲ考察シタ  
ル上本件実行方法順序等ニ付奉天總領事ノ考案如何ハ不  
明ナルモ一旦支那側ニ對シ軍用列車付屬地停止ヲ通告ス

九 依テ同五日午前更ニ同總領事宛電報ヲ以テ支那側へ通告  
ノ内容並京奉線軍用列車付屬地通過停止実行ニ關スル方  
法段取ニ付テノ考案ヲ問合セタリ

十 五、八月五日午後五時奉天總領事電報來着ス其要旨  
京奉軍用列車ノ運行停止ハ目的ニ非ス結局支那側ヲシテ

之ヲ反省セシムレハ事足ルヘシ若シ先方ニ於テ多少ノ反  
抗ヲ為スモ格別ノ事態ヲ惹起セサルヘシ昨今奉天軍力南  
方軍ト事ヲ構フルノ時克ク我ニ反抗シ無謀ノ事ヲ敢テス  
ル力アリトモ認メラレス此際此ノ弱点ヲ看過セハ滿蒙問  
題ノ解決ハ永遠二期スヘカラサルヘシ

十一 要ハ機ヲ逸セサルニ在リ且廟議既ニ決シ矢ハ弓ヲ離レタ  
リ幸ニ協力ヲ俟ツ

十二 八月五日夜（午後十時着）奉天總領事來電要旨

十三 京奉線軍用列車ノ付屬地通過停止実行ハ満鉄会社ニ依頼  
シ支那側ノ出方次第ニテ臨機ノ処置ヲ講スヘク若シ先方  
ニ於テ鐵道付屬地ヲ侵スカ如キコトアラハ別ニ侵害事件  
トシテ處理スル俟

十四 八月六日午前大藏理事ヨリ電話通報要旨奉天總領事ニ於テ  
ハ外務大臣ノ訓電ニ接シ本件ノ着手遂行ヲ在支公使帰任ノ  
時迄見合スヘキ旨同總領事ヨリ通報アリタリ

十五 右ニ関シ奉天總領事ヨリ直接何等通報ニ接セサルモ當庁文  
書課長同夜出發出張ノ途同七日奉天總領事ヲ訪問シ當方ノ  
事情ヲ申入レタリ八月八日奉天總領事來信（八月四日支那  
側ヘノ通告要旨通報）接到ス

ル以上ハ飽ク迄之ヲ強行スル覺悟ト準備ナカルヘカラス  
単ニ一片ノ通告ヲ發スレハ威嚇ノ目的ヲ達スルモノト過  
信スルヲ得ストノ議ニ帰結シタリ

三、依テ取敢ス同日午後二時奉天警察署長電話ヲ以テ本件

ハ單ニ満鉄ノミナラス各方面ニ重大ナル關係アルヲ以テ  
篤ト考量アリ度旨奉天總領事ニ伝達スル様申送リ次テ同

午後五時同總領事宛電報（外務大臣ヘ転電）ヲ以テ同總  
領事ノ参考迄ニ前記打合ノ諸点ヲ掲ケ本件實行上考量ヲ  
望ム旨ヲ申送レリ

四、八月四日夜奉天總領事電報接到ス其ノ要旨  
支那側ヘハ本四日通告スルコトセリ之ニ對スル先方ノ  
応接振リヲ見極メタル上其ノ出方如何ニ依リテハ愈々來  
ル七日京奉線軍用列車付屬地通過停止ノ實行ニ取掛ルヘ  
シ

五、八月五日午後五時奉天總領事電報來着ス其要旨  
ノ内容並京奉線軍用列車付屬地通過停止実行ニ關スル方  
法段取ニ付テノ考案ヲ問合セタリ

六、京奉軍用列車ノ運行停止ハ目的ニ非ス結局支那側ヲシテ

七、東京ニ於テ總領事ヨリ帰任ノ上近ク支那側ニ對シ帽兜山分  
館設置事件等諸懸案解決ノ交涉ヲ進ムル筈ナル旨ヲ聞キタ  
ルモ右ハ委細具体的ノ話ニハ非ス

八、又在支公使及奉天總領事ニ對スル外務大臣ノ訓令写ハ同省  
ヨリ七月二十六日付ヲ以テ發送セラレ同三十一日之ヲ接到  
シ始メテ奉天總領事ニ於テ諸懸案解決並對滿蒙政策ニ關シ  
交渉処置ヲ進行スルコトニ成リタルコトヲ承知シタルモ奉  
天ニ於テ實際ニ具体的方法ヲ執ルニ当リ當方關係事項ニ付  
テハ予メ協議アルモノト考へ居リタリ

九、七月三十一日奉天警察署長來厅シ總領事ニ於テ諸懸案解決  
ノ為支那側ノ反省ヲ促ス手段トシテ京奉線軍用列車ノ付屬  
地通過一時停止ヲ實行セムトスル意向ナル旨報告アリタル  
ヲ以テ總領事カ右ノ措置ニ出ツルコトニハ大体異存無キモ  
其ノ實行着手ニ先チ満鉄会社軍司令部トモ打合ノ必要アル

ハク当庁トシテモ右ニ関シ警察力使用ニ付テハ考量ヲ要スルヲ以テ予メ請訓スヘキ旨申告ケ置キタリ  
八月三日午前奉天總領事ヨリ滿鉄会社宛ノ電報（同二日午後発）ノ転電接到シ同四日同總領事ニ於テ支那へ通告ヲ發シタル趣ヲ承知シタル次第ナリ

157 昭和2年8月18日 在奉天吉田總領事より 木村亞細亞局長宛

#### 旅順會議の協議の模様報告について

\* 拝啓益々御清栄奉賀候陳者今般旅順ニ於ケル芳沢公使、児玉長官、森次官、本官等會見協議模様別紙ノ通ニ付為念御送付申上候条御查閱相成度此段得貴意候 敬具

昭和二年八月十八日

吉田 茂

木村亞細亞局長殿

（旅順ヨリ本省宛会合結果報告電信ハ出席者ノ認印紙取レル筈也）

（別紙）

昭和二年八月十七日

旅順会合ノ結果ニ就テハ不取敢往電（一五三文書）第二四三号及第一四四

（一五三文書）第二四三号及第一四四

開始シ懸案細目討議ノ時期ニ達スレハ状況ニ從ヒ適宜交渉地若クハ交渉ノ我方相手ヲ定ムヘシト答ヘタルカ別ニ異議ナカリシヲ以テ次官ハ交渉繼續ニ付テハ參集各方面ノ贊認ヲ得タルモノト認メ可然自分來満ノ目的モ達スルヲ得ルモノト思考スト述ヘ公使ヨリ本件ノ性質重大ナルニ鑑ミ其達成ニハ尚幾多曲折アルヘク幸ニ各位ノ協力援助切望スル旨ヲ披露シ参列者一同ノ諒解ヲ得タルヲ以テ右ニテ本会合ヲ一応閉スル事ニセリ尚余談トシテ長官其他ヨリ新聞電報暴状ヲ述ヘ特ニ其筋ノ取締ニ付注意ヲ喚起スル処アリタリ

158 昭和2年8月23日 在奉天吉田總領事より 田中外務大臣宛（電報）

#### 旅順會議に関する木村亞細亞局長への追加報

告について

奉天 8月23日後発  
本省 8月23日後着

※ 第二五四号（極秘）

木村亞細亞局長へ左ノ通り

（一五三文書）

旅順會議ノ次第ハ一応往電第二四三号及去ル十八日付貴局長宛機密拙信ノ通リナルカ尚御参考迄ニ左ノ通り追加ス

請フ

号ヲ以テ報告セルカ右会合ノ席上先ツ政務次官ヨリ旅順ニ急行シ来レル理由ヲ述ヘ且ツ本官ノ奉天ニ於ケル交渉振ニ對シ種々批判ハアルモ右ハ政府ノ意ヲ体セルモノナルコトヲ已ニ本月十日汪公使ヲ通シ支那政府ニ宣明セル以上飽迄モ一意奉天宛貴電（一五文書）第九〇号ノ主義達成ニ努ムル外ナシト存スルカ參集各方面ノ意見承知致度クト述ヘタル処児玉長官ヨリ本件ノ如キ重要問題遂行ノ為ミニハ政府諸機關ノ協調連絡ノ必要ヲ益々痛感スル次第ナルカ本件今日迄ノ経過ニ微スレハ遺憾少カラス将来ノ為特ニ其筋ノ注意ヲ促シタクトアリ次官及本官ヨリ本省及奉天ノ処置振ニ付一応ノ説明ヲ為シタル後所謂強制手段ニ付次官ヨリ諸氏ノ意見ヲ求メタルニ別個ノ方法トシテ提案ナク松井ハ前頭貴電所載ノ強制手段ニ付キテハ嘗テ考ヘタルコトモナク又軍用列車阻止ニ就テモ軍部ニ於テ同意了解ヲ与ヘタル事ナシト云ヘルニ付本官ヨリ少クモ客年三月貴電第四九号ヲ引用シ斯ク閣議決定アル以上前内閣時代閣議案トシテ提出スル迄ノ了解ハ軍部ニ於テ与ヘタルモノト認ムルノ外無キヲ述ヘ軍司令官及ヒ長官ヨリ将来ノ交渉方に付質問アリタルニ付公使及ヒ本官ヨリ公使北京帰任後奉天宛貴電（一二九文書）第六号ニ基キ交渉ヲ本官ヨリ公使北京帰任後奉天宛貴電（一二九文書）第六号ニ基キ交渉ヲ

（一）旅順ヘノ汽車中本庄ハ本官ニ對シ貴電第一八三号汪公使來電ハ奉天軍幹部ニ衝動ヲ與ヘタルハ事實ニシテ張作霖ハ頻ニ本官ノ言動ニ對シ苦情ヲ並ヘ王總長ハ汪公使ノ電報ヲ其儘張作霖ニ提示スルコトヲ得ストノ泣言ヲ云ヒ楊宇霆モ亦其始末ニ弱リ居リタリトノ内情ヲ洩ラシ斯ク一度示サレタル鞭ハ相當ニ支那側ニ對シテ反省ヲ促セリト考ヘルルニ付テハ此勢ヲ崩サス益々支那側ノ反省ヲ促ス力ヲ緩メス進ムコトニ致シ度シト申シ居タリ

（二）強制手段ニ就キ本庄ヨリ更ニ有効ナル方法ナキヤト言ヘルニ付児玉長官宛拙電（一七文書）第二九号ニ説明ヲ加ヘ鐵道付属性地ヲ軍事輸送ニ對シテ封鎖スルコトハ我行政権ノ範囲内ニ於テ為シ得ヘク兵工廠ヲ孤立ニ陥ラシムレハ奉軍ノ屈服必然ニシテ之以上有効ナル方法ナシ且條約違反ニ對スルリブライザルトシテ申分ナシト説明セル處本庄モ之ヲ首肯セリ（三）往電（一五三文書）第二四四号ノ通り満蒙懸案ノ交渉地ヲ一応北京ニ譲リタリ奉天交渉説ヲ適當ト確信スルハ卑見今尚変ラサルモ余リニ之ヲ強ク主張セハ芳沢公使ノ感触如何カト考ヘ本件全局ノ進行ノ為敢テ自説ヲ固持セサリシ次第御諒承ヲ

159 昭和2年8月24日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

張作霖との会談の際説明したる日本と東三省との密接なる政治経済関係について

※ 第九二四号  
北京 8月24日後発  
本省 8月24日後着

八月二十四日本使張作霖ヲ居仁堂ニ訪問シ先ツ大元帥就任ニ対スル祝意ヲ述ヘタル處張ヨリ本使ノ上海南京方面視察ノ状況等ヲ質問シタルニ付可然応答シタル後予テ御下命ノ閣下ノ贈物ヲ交付シ且張宛閣下ノ御信書ヲ手交シタル上閣下ノ御伝言ヲ伝ヘタル處張ハ深謝ノ意ヲ表シタル後閣下ノ御健康ヲ尋ネタルニ付内閣組織後ニ二回臥床セラレタルモ幸ヒ数日ノ後全快セラレ殊ニ最近ハ益々健康ヲ回復セラレタル旨ヲ告ケタル處張ハ満足ノ旨答ヘタルニ付本使ハ進ンテ近來新聞紙上等ニ於テ盛ニ日本カ滿蒙ニ対シ大イニ積極的行動ニ出ツル等ノ説流布セラル為世間ノ注意ヲ喚起シ之カ為無用ノ誤解ヲ生シタルコト或ハ有之ヘキモ右ハ大分事実ニ相違シ日本ニトリテハ迷惑少カラサル次第ナルカ実

ルノミナラス之ヲ阻止セントスルモノナルト同時ニ

(一) 满州ニ於ケル地方官憲ニシテ穩當ナル主義ノ下ニ政治ヲ為ス以上成ル可ク之ヲ援助セントスルモノナリ之レ即チ前述ノ滿州対日本ノ密接重大ナル関係ニ基ク当然ノ帰結ト言フ可ク今回ノ東方會議ニ於ケル討議モ此ノ論結ニ達シタル次第ニシテ本使カ滯京中頻々閣下ト御面会ノ際到達シタル結果モ亦右ノ通りナリ即チ右ハ日本対滿州関係ノ根本義ナリトス但シ此ノ根本義ヲ遂行スルニ当リ必要ナル点ハ滿州官憲ニ於テ從来頻々繰返サレタル不法措置及ヒ条約違反ノ行為ニ付テ其不法ナルコト又ハ条約違反ナルコトヲ自覺シテ始メテ右根本義ノ実現ヲ観ル可キモノトス奉天總領事力最近強制手段ニ出ツルヤモ計リ難キ旨ノ警告ヲ与ヘタルハ全ク滿州官憲ヲ督シテ先以テ右自覺ヲ為サシメントシタルモノナリ滿州官憲ニシテ此ノ自覺ヲ為スニ於テハ茲ニ始メテ根本義ノ遂行ニ移リ先ツ數個ノ懸案ヲ解決シタル上経済的開発ノ段取りニ入り度キ所存ナリ尤モ之トテ大体滿州官憲ノ是迄承知ニ入レ居ル事柄ニシテ別段新規ナル事柄ニ非ス況ヤ新聞紙上等ニ現レタルカ如キ積極的政策ナ

際ノ事情ヲ説明セムニ先ツ東三省ノ日本ニ対スル関係ハ頗ル密接重大ニシテ第一經濟的方面ヨリ申セハ滿州ニ於ケル日本ノ投資額ノミニテモ十二億円弱ニ達セリ

従テ大小企業ノ数モ無数ト云フヘク如何ニ東三省ト日本ノ

經濟的関係ノ密接且重大ナルヤハ此ノ一点ニ依ルモ明カナリト云フヘク第二ニ政治的方面ヨリ申セハ東三省ノ治安ハ日本ニ執リ極メテ重大ナル問題ニシテ現ニ最近共産党員ノ活動ノ如キ頗ル恐ルヘキモノアリ之カ主謀者五十名ハ関東府ノ手ニ依リ逮捕セラレタルモ之等ノ徒ハ滿州ニ於ケル産業ヲ破壊シ治安ヲ紊乱シタルモノニテ滿州ノ為又日本ノ為真ニ由々シキ大事ニ至ラントシタルモノナリ又不逞鮮人首謀株ノ陰謀ノ如キハ常ニ朝鮮ノ治安ニ対スル脅威ニシテ右ニ付テハ大元帥ニ於テモ我方ニ好意ヲ表セラレ其ノ首領株三名ハ幸ヒニ先般逮捕スルヲ得タル次第ナルモ之ヲ要スルニ東三省ノ事態力經濟的並政治上ノ兩方面ヨリシテ如何ニ日本ニ執リ重大ナルヤハ今更叙説スル迄モナキ次第ナリ從テ滿州ニ於ケル治安ノ維持及平和的經濟開發ハ我方ノ最モ重キヲ置ク処ニシテ從テ日本政府トシテハ

(二) 支那北部ニ於ケル動乱ノ滿州内部ニ波及スル事ヲ好マサ

ナル種類ノモノニ非ス此ノ故ニ若シ大元帥ニシテ或ハ疑惑ヲ懷カルルカ如キ事アリテハ不本意ノ至リナルニ付二三ノ実例ニ基キ具体的説明ヲ試ムヘシト述ヘタル處張ハ之ヲ遼リ本件ニ付テハ楊宇霆ヲシテ本使ト接洽セシムル事ト致度ク何れ両三日中ニ楊ト御面会ノ運ニ至ルヘキモ奉天ニ於ケル交渉ハ遺憾ノ點渺カラストテ不満ヲ述ヘ日本政府ハ是迄自分ニ民意ヲ尊重スル様忠告セラレタルモ今回ノ遣口ニテハ民意ハ日本ニ反対シ自分カ民意ニ從ヘハ日本ニ反対セサルヲ得サル事トナル可シト述ヘタルニ付本使ハ本件ノ交渉ヲ楊宇霆ニ委任セラルル以上ハ本使ハ委曲楊ト会談スル事トス可シト述ヘ引取リタリ

160 昭和2年8月24日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案に関する張作霖政権との交渉は難航  
が予想される旨の報告

北京 8月24日後発  
本省 8月24日後着

満蒙問題ノ交渉方ニ就テハ滯京中閣下ノ御回訓ニ接シタル

際張作霖カ戰局ノ發展ニ顧ミ得意ノ地位ニ立ツ間ハ交渉困難ニシテ失意ニ陥ル場合始メテ容易トナルヘシト思考スル

旨申上ケ置キタル次第アル処其後戰局北方ニ有利ニ展開シ張ハ目下得意ノ地位ニ在リ加之大連及旅順ニテ承知シタル處ニテハ奉天ニ於ケル交渉ノ為張作霖楊宇霆ヲ始メ奉天側一般ニ感情ヲ害シ居ル模様ニテ從テ此交渉ハ頗ル困難ト認メラレタルニ付最初ヨリ大ナル期待ヲ繁カサル様致シタク

旨森政務次官ニ閣下ニ転申方依頼致シ置キタル次第ニテ旁々張ノ説得方ニ就テ本使ニ於テモ篤ト考量ノ上往電(一五九文書)第九二四号ノ通り論歩ヲ進メタル次第ニ付右様御含置アリタク猶

本件交渉ノ発展ニ就テハ隨時閔東長官及軍司令官ノ承知ニ入レ置クコト必要ト思考セラルモ滿鉄社長ニ対シテハ要領ニテモ移牒シ置クコト可然ト思ハル処一応御意見拝承致シタシ

161 昭和2年8月27日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛 (電報)

芳沢・張会談内容漏洩問題に関する楊宇霆との会見について

北京 発

本省 8月27日前着

第九三二号

本使張作霖トノ会見ノ事実漏洩ハ交渉ノ劈頭ノ事ニテモアリ充分支那側ノ注意ヲ喚起スル事必要ト思考シ二十六日西

田ヲシテ楊宇霆ニ面会セシメ本使張トノ会談内容カ直チニ支那側ヨリ外部ニ漏レタル事ヲ指摘シ今後絶対ニ右様ノ事無キ様嚴重注意セシメ置キタルカ其際楊ハ自分ハ未タ大元帥ト本使トノ会談内容ヲ詳細ニ承知セス只大元帥ハ公使トノ会見後ニ自分ヲ引見シ公使ヨリ滿蒙問題ニ付種々話アリ

タルカ詳細ノ事ハ自分(楊)ヲ遣スニ付良ク話サレタシト答へ置ケルニ付両三日中ニ公使ヲ往訪スヘシトノ命ヲ受ケ

タルヲ以テ明二十七日公使ヲ往訪シ詳細ニ承リ之ヲ大元帥ニ説明旁報告スルタケニテ即チ大元帥ヲ内部ニ於テ補佐スル任務ニシテ滿蒙問題ノ交渉ヲ担任スヘシト命セラレタル

ニ非ス大元帥ハ交渉ノ責任者ヲ何人ニ命スルカ判明セサルモ多分奉天ニ閑スル事ハ奉天省長及交渉員吉林ニ閑スル事

ハ吉林當該官憲ニ中央ノ事ハ外交總長ニ命スヘシ此点ヨリ見ルモ新聞記事ノ大元帥公使会談内容ノ末段ノ如キモ事実ニ非スト認ム又会見要領ノ報告書ハ未タ出来居ラス若ハ会

談内容カ漏ルルナラハ僅カ一部タケナラス全部カ漏ルル筈ナリ然ルニ一部タケ漏レタリトセハ何人モ滿蒙問題カ最初日本新聞ヨリ次テ支那新聞紙上ニ宣伝セラレ居ル昨今ノ事ナレハ何人カ大元帥ニ公使カ帰任後何ヲ話サレタルヤト問ヘルニ対シ大元帥ヨリ大略ヲ述ヘラレタルモノノ一部カ外間ニ漏レタルモノニ非サルカト推測ス云々ト語リタル趣ナリ

貴公使ヨリ如何ナル御話アリタルヤ

大元帥ヨリ内容ニ付何等ノ話ナカリシ旨述ヘタルニ付本使ヨリ張作霖ニ話シタル事ヲ繰返シ説明シタル上要スルニ我方ノ要求セル處ハ大体之迄滿州官憲ノ承知セル事柄ニシテ別段新規ノ事柄ニ非ス況ヤ新タニ租借地ヲ設定スルトカ又二十一ヶ条ヲ提出スルト云フカ如キ性質ノモノニ非ス然ルニ世間ニテ非常ニ恐慌ヲ起シツツアルハ諒解ニ苦シマサルヲ得サル處ナリト述ヘタル處楊ハ種々困難ノ事情ヲ述ヘ鉄道問題ノ如キハ吉敦鉄道ヲ纏ムル丈ニテモ松岡理事ハ約半年ヲ費シタル程ニテ地方トノ関係ハ日本側ニ於テ察セラル程容易ナルモノニ非ス殊ニ奉天黒竜江省ト異ナリ吉林省ハ最モ困難ナル省ニシテ同省ニハ外省ニ出テ仕官シ辞職後同省ニ帰リ地方ノ紳士トナリ同省ニ於ケル鉄道其ノ他ノ問題ニ付有力ナル發言權ヲ有スルモノ鮮カラス從テ一步ヲ誤レハ直ニ風潮ヲ起スヤモ計リ難キ内情アリ將又懸案ノ一タル盛京時報発売禁止ノ如キ日本側ノ出資ニ不拘支那側ノ感情ヲ害スルカ如キ記事ヲ掲ケ難問ヲ加フルカ如キハ諒解シ難キ處ニシテ又二分五厘付加税ノ如キ日本ハ南方側ノ措置ニ対シテハ比較的手軽ニ之ヲ取扱ハルニ不拘滿州ニ於

162 昭和2年8月27日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛 (電報)  
満蒙懸案解決に関する楊宇霆との会見について

北京 8月27日前後  
本省 8月28日前着

※ 第九三五号  
〔五九文書〕  
往電第九二四号ニ關シ  
八月二十七日楊宇霆來訪

二十四日貴公使大元帥ヨリ自分ヲ招キ日本公使ヨリ滿州問題ニ付話アリタルモ楊宇霆ニ御話アリタキ旨告ケ置キタルニ付両三日中ニ貴公使ヲ訪問スル様被命シタル次第ナルカ

感情ヲ害スルカ如キ記事ヲ掲ケ難問ヲ加フルカ如キハ諒解シ難キ處ニシテ又二分五厘付加税ノ如キ日本ハ南方側ノ措置ニ対シテハ比較的手軽ニ之ヲ取扱ハルニ不拘滿州ニ於

### 三 满蒙懸案解決交渉

ケル課税ニ対シテハ面倒ナル注文ヲ出サレ之カ為莫省長モ已ムヲ得ス姑息手段ヲ採リ居ルニ過キス張作霖ハ元来東三省ノ總司令ニ過キサリシモ唯今ハ中央ニ來リテ大元帥トナリ居レル次第ニシテ從前ノ事ヲ云ヘハ滿州地方官憲ニ於テモ日本ト鉄道借款ヲ締結スルモ中央政府ニ於テハ稍々モスレハ之ヲ制限若ハ抑止セントシタル程ナリシニ今ハ中央ニアル為メ直ニ速成方ヲ求メラル始末トナリタル訳ニテ遺憾ナカラ北京ニ於テ細則迄モ議了スル等ト云フカ如キハ到底出来得ヘキ事ニ非ス自分ハ元来日本ニ對シ好意ヲ有スルモノナルモ無理ヲ強イラレハ到底御受出来難ク之ニ応スレハ自分等ノ立場ヲ失ハサルヘカラス此ノ点ハ張作霖モ同様ナリト述へタルニ付本使ハ我方ニ於テハ決シテ無理ヲ強イントスルモノニ非ス問題ハ滿州ノ開発ヲ目的トスルモノニシテ貴我双方ノ利益ヲ主眼トスルモノナリト應酬シタル上尚暫ク論議ヲ重ネタル上本使ハ大元帥及ヒ貴下ニモ申シタル通り日本ハ滿州ノ治安維持及ヒ滿州官憲ノ地位等ニ付特ニ考量ヲ廻ラシ居ル程ニテ全ク經濟的開発ヲ目的トスル鐵道問題ノ如キ承諾セラレサル理由ナキニ非スヤト述ヘタル処楊ハ北京ニ於テ大綱ヲ貴公使ト自分トノ間ニ話合ヒヲ

セハ如何ト述ヘタル処楊ハ其ナラハ異存ナシト答ヘタルニ付本使ハ右ノ如キ地方の交渉ニ對シテ仮令ハ吉林督弁張作相カ余リニ頑強ナル態度ヲ採ルカ如キ場合ハ大元帥ヨリ圧迫ヲ加ヘラル様致度シト述ヘタル處其位ノコトハ致方無シ只吉林省民ノ態度緩和等ニ付テハ莫省長ヲ利用セラルルコト可然シト述ヘタルニ付本使ハ了承セル旨ヲ答ヘタル上鉄道問題ニ付テハ今日ノ話合ヒハ先ツ右ノ程度ニ止ムルモ奉天ニ於ケル懸案解決方ニ付テハ奉天官憲ニ於テモ其ノ不法若ハ條約違反ヲ自覺シ要スルニ今少シク譲歩セラルルヲ要ス本使ニ於テモ亦多少我方ノ態度緩和方ニ付尽力スヘシト述ヘタル処楊ハ至極御尤モナリ其ノ通リニスヘシト答ヘタリ次テ新聞漏洩事件ニ付往電(一六二文書)第九三二号西田ニ付スルト同様ノ弁明ヲナシタル上今後貴公使ト自分ト会合スル節ハ如何ニスルモ新聞記者ノ眼ヲ免カレ難ク若シ一切沈黙ヲ守ル場合ハ彼等ハ益々揣摩憶測ヲナシ其ノ結果却ツテ事態ヲ重大ナラシムル恐アルニ付仮令事実ニ反スル発表ニテモ何等カ發表シ置クコト得策ナリト述ヘタルニ付本使モ之ニ同感ヲ表シ然ラハ本日ノ会合ニ関シ新聞記者ヨリ質問ヲ受ケタル場合ハ彼等ニ對シ本日ハ楊督弁來訪ノ上二十四日本使

付クル位ノコトナラハ出来得ルカモ知レスト述ヘタルニ付本使ハ鐵道ノ問題ハ元来専門的ノ事柄ニモアリ何レ技術的事項ニ付テハ満鉄等ノ専門家ヲシテ地方的ニ協定セシムルコトトナルヘキモ北京ニ於テハ單ニ漠然タル大綱タケニテハ不充分ニテ出来得ルタケ詳細ナル事柄ヲモ協定スルノ必要アリト述ヘタル処楊ハ地方ノ事情ヲ無視シテ完全ナル協定ヲ北京ニ於テ作ルコトハ絶対ニ同意シ難ク尤モ御参考迄ニ申上ケンニ莫省長ハ奉天省長ナルモ奉天ニテハ地方民ニ對シ勢力無キモ其ノ故郷タル吉林ニ於テハ地方ノ紳士ニ対シ頗ル勢力ヲ有スル次第ニ付吉林省紳士連ニ對スル諒解等ハ莫省長ヲ利用セラルコト得策ト思ハルト述ヘタルニ付本使ハ地方紳士ノ諒解ヲ得ルコトモ結構ナルモ此種ノ諒解ヲ得タル後ニ非サレハ取極メ成立シ難シトセハ何レノ日取極メノ成立ヲ見ルカ計ルヘカラサル当初カラノ交渉ハ矢張リ責任アル官憲トノ間ニ行ルヘキモノナリト述ヘタル上本使ヨリ試ミニ付本使ハ大綱ヲ貴下ト自分トノ間ニ經ムルコトトシ個々ノ問題ノ中細目ニ付地方的協議ニ依リ纏り得ル問題ハ地方的交渉ニ譲リ然シテ交渉或程度ニ至リ地方的交渉不可能ノ場合ハ北京ニ於テ貴我双方ノ間ニ協議スルコトトノ通り新聞記者ニ應酬スルコトニ打合セヲ遂ケ散会セリノ通リ新聞記者ニ譲リ然シテ交渉或程度ニ至リ地方的交渉不可能ノ場合ハ北京ニ於テ貴我双方ノ間ニ協議スルコトト

163 昭和2年8月29日

在北京本庄公使館付武官より  
南參謀次長宛(電報)

芳沢公使と張作霖、楊宇霆との会談について

北 京 8月29日後11時 発

參謀本部 8月30日前3時55分着

\* 支第五一二号 (8月30日外務省写接受)

去ル二十四日芳沢公使張作霖ヲ訪ヒ東方會議ニテ決定セル滿蒙対策ハ何等積極的ノ意味ナク支那本部ノ紊乱ヲ東三省ニ波及セシメサルコト及穩健ナル政策ヲ有スル當路ヲ援助シテ治安維持ヲ謀リ日滿相互ノ為ニ經濟的開発ヲ希望スル次第ナル根本精神ヲ説明シ作霖モ大体安心シタル模様ニテ經濟開発其他ニ関スル交渉ハ楊宇霆ヲシテ之ニ当ラシムヘシト答ヘ昨二十七日楊宇霆ハ公使ヲ訪問シ北京ニテハ大体

### 三 满蒙懸案解決交渉

ノ筋道ヲ決定シ之ニ基キ其細部ハ奉天、吉林等ニテ又鉄道ニ関スルモノハ満鉄ヲシテ交渉セシムルノ方針ヲ執ルコトニ決シタリ

楊宇霆ハ芳沢公使ノ穩健ナル態度ニ満足シアリ唯公使ハ二十四日ノ張作霖ノ会見談カ新聞ニ洩レ支那新聞ニ於テ種々非難セルノ外満州ニ於テ本溪湖其他諸種ノ問題ノ続出セルヨリ相当本交渉ノ前途ヲ憂慮シ大ニ自重シアリ事実又中途幾多ノ面倒モ発生スヘク（特ニ我言論界ノ不謹慎ニ依リ）従テ森次官等ノ憂慮セシ如ク本交渉ノ急速ナル進捗ハ至難ナルヘシ尚今後本件ニ関スル交渉ノ詳細ハ公使館報告ニ譲リ當武官トシテハ時々其要旨ノミヲ報告スルニ止ムル考ヘナリ

164 昭和2年8月30日 在北日本庄公使館付武官より  
南参谋次長宛（電報）  
満蒙懸案解決に関する楊宇霆との会談について  
※第五一五号

北 京 8月30日後1時40分発  
参謀本部 8月30日後11時10分着  
（8月31日外務省写接受）

ヲ面倒ナラシメタルト同筆法ニテ今回モ亦復奉天当局ニ外交後援会ナルモノノ設立ヲ招来シタルカ如キ日滿ノ眞ノ理解ノ為ニ誠意アルモノト認メ難ク二十四日芳沢公使ノ大元帥訪問ノ内容カ直ニ支那新聞ニ洩レ（事実ハ日本新聞記者ノ様ナリ）シカ如キハ甚々遺憾ナリト述ヘシニ楊宇霆ハ決シテ故意ニ話シタル事ニ非ストテ種々新ニ弁明シ今後新聞ハ極力取締ル考ヘナリト云ヘリ

165 昭和2年9月(1)日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）  
中國側の満鉄対抗策について  
北京 発  
本省 9月1日後着  
第九四八号

我對滿積極政策ナルモノカ日本新聞ニ宣伝セラレテ以來支那側ニ於テハ逸早ク之カ対抗策ヲ講スルニ至リタルモノノ如ク就中鉄道問題ニ關シテハ元來満鉄ノ措置ニ対シテ不満ヲ抱ケル方面ニ於テ特ニ对外強硬論者ニシテ鉄道専門家タル常蔭槐カ交通部部務代理トシテ鉄道問題ヲ先決スルニ至レリタル以來愈々満鉄対抗策ノ露骨ナル実現ヲ期スルニ至レ

二十七日満州問題ニ就キ公使、楊宇霆ノ会見ニ於テ公使カ本問題ニ對スル支那目下ノ風潮ヲ靜ムルヲ差シ当リノ要決ナリント大ニ穩健ノ態度ニ出テタルハ支第五一二号電ノ如シ昨二十九日楊宇霆ニ就キ右会見ニ關スル彼カ感想ヲ探リタルニ彼ハ奉天ニ於ケル風潮ノ高マレル主ナル原因ハ奉天總領事カ莫省長ヲ非難スル公文ヲ空付ケ内政干渉ニ類スル行為ヲ取リタルコト及吉林ニ屬スル問題ヲ奉天省長ニ逼レルカ如キ無理ナル言ヒ懸リヲナセル事等ニアリ芳沢公使ノ話ハ穏和ニシテ能ク解リ夫ノ程度ナラハ予個人トシテハ出来得ルヤニ考フ又此ノ会見ノ模様ヲ大元帥ニ話シタルニ安心シアリ兔ニ角楊宇霆トシテハ裏面ニ於テ極力尽力スヘシト洩ラセリ

尚松岡満鉄副社長來燕ノ可否ニ就キ彼ノ意向ヲ探リシニ彼ハ自身ノ担任シアル山西トノ連絡問題カ成否何レカニ決定スルヲ待チ帰奉スヘク其際篤ト山本社長及松岡副社長ニ内談スヘキニ就キ松岡ノ來燕ハ其後ヲ可トスヘク目下ノ如キ本件ニ關スル支那側ノ空氣不穩ナル時ハ四困ノ注意ヲ招キ宜シカラスト答ヘタリ最後ニ先年奉天ニテ松岡カ洮南、齊々哈爾鉄道ヲ交渉シタル際貴下等カ交通委員会ヲ設ケテ事

リト認メラル交通部カ往電第九三〇号ノ扶余延長線ノ調査ヲ命シ及満鉄側トノ協調ニ依リ昂々溪、齊々哈爾間ノ所謂「クロス」問題ノ延期ヲ命令シ（満鉄本社ヨリ報告済ト思考ス）將又別電葫蘆島築港計画ヲ為スカ如キ（但成功ハ中々困難トハ認ムルモ）支那年来ノ希望ナルハ勿論ナルモ現ニ張作霖及楊宇霆ノ最高幹部等モ日本側カ強制手段トシテ満鉄ノ軍事輸送ヲ中止スヘキコトノ言明アリタル以上益々満鉄ヨリ独立セル交通機関ヲ建設スルノ必要ヲ感スル旨ヲ洩シ居ル状況ニシテ其意ノ奈辺ニ在ルヤハ想像ニ難カラス旁々此等支那側ノ対抗策ハ鉄道問題ノミナラス各方面ニ於テ今後益々露骨トナルヘク察セラル

166 昭和2年9月(2)日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）  
日本の満蒙懸案解決方針に関する新聞報道を訂正する楊宇霆の記者会見について  
北京 発  
本省 9月2日後着  
第九五八号

今次ノ満蒙懸案交渉ニ就テハ独リ支那人側ノミナラス外國

### 三 满蒙懸案解決交渉

人側ニ於テモ少カラス疑惑ヲ有シ本使カ張作霖ニ会見シタル際ノ如キ恰モ本使カ往年袁世凱ニ対シ二十一ヶ条ノ如キ要求ヲ突付ケタル筆法ニ出テタリト揣摩スル向少カラサリシ次第ナル處右疑惑ハ當方ノ努力ニモ拘ラス容易ニ永解スルニ至ラサリシカ本使ハ九月一日ノ新聞記者ニ対スル常例会見ニ於テ此種誤解ノ一掃ニ努メタル處恰モ好シ同日楊宇霆モ路透記者ヲ引見シ本件ニ關スル新聞報道カ不正確ニシテ誇張的ナル為誤解ヲ生シ居ル様ナルモ二十一ヶ条ニ類スル強硬ナル要求ハ一モナク實際ハ平行線問題(二)関稅付加稅(マダ)(三)在滿日本領事館設置問題ノ外何等具体的要求ヲ受ケ居ラス此等ハ日支兩國間ノ問題ト言ハムヨリハ寧ロ地方當局者間ノ問題ニ屬セリトテ本使ノ張作霖會見ニ言及シ短時間ナリシ為何等具体的ノ提議ナク其後自分(楊)ハ張ノ命ニ依リ本使ヲ訪問ノ上話ヲ聞キタルモ右ハ何等全權トカ代表ト云フ資格ニ非ス単ニ張個人ヲ代表セルニ過キス中央ニ關スル問題ハ外交部ヲ經又地方的問題ハ奉天交涉署ヲ經テ解決セラルヘキヲ述へ更ニ日本ノ山東出兵當時南方側ハ南軍ノ軍事行動ヲ阻害セントスルモノナリト疑ヒ北方側ハ又日本ハ不逞ノ企画ヲ行ハントスルモノナリトノ猜疑ヲ

168 昭和2年9月6日

田中外務大臣より  
在中國芳沢公使宛(電報)

奉天における排日運動に關し張作霖へ抗議す  
べき旨の訓令

本省 9月6日後8時発

第四〇一号

奉天発本大臣宛第一七〇号ニ閑シ

今次ノ滿蒙交渉ニ關シ支那側カ種々惡辣ナル對抗策ヲ講シ居レルハ御承知ノ通ナル處最近ノ奉天ニ於ケル排日示威運動ニ至リテハ遂ニ田中内閣打倒ヲ標榜スルニ至リ全ク帝国政府ヲ輕侮スルモノト云ハサル可ラス就テハ貴官ハ直ニ張作霖ニ面会シ本大臣ノ特命トシテ左ノ通申入レ結果電報アリ度シ

從來支那各地ニ排外示威運動ハアリタルモ未タ嘗テ友邦ノ内閣ノ名ヲ掲ケテ之カ打倒ヲ標榜シタルモノナシ南方ニ於ケル過激ノ分子スラモ未タ嘗テ斯ノ如ク外国ノ政府ヲ侮辱スルノ暴ヲ敢テシタルコトナシ然ルニ斯ル運動力從來対日親善ヲ口ニシ自分ノ内閣ニ最モ敬意ヲ表スト称スル張ノ根拠地タル奉天ニ於テ而モ白昼公然邦人官民ノ面前ニ於テ行

人側ニ於テモ少カラス疑惑ヲ有シ本使カ張作霖ニ会見シタル際ノ如キ恰モ本使カ往年袁世凱ニ対シ二十一ヶ条ノ如キ要求ヲ突付ケタル筆法ニ出テタリト揣摩スル向少カラサリシ次第ナル處右疑惑ハ當方ノ努力ニモ拘ラス容易ニ永解スルニ至ラサリシカ本使ハ九月一日ノ新聞記者ニ対スル常例会見ニ於テ此種誤解ノ一掃ニ努メタル處恰モ好シ同日楊宇霆モ路透記者ヲ引見シ本件ニ關スル新聞報道カ不正確ニシテ誇張的ナル為誤解ヲ生シ居ル様ナルモ二十一ヶ条ニ類スル強硬ナル要求ハ一モナク實際ハ平行線問題(二)関稅付加稅(マダ)(三)在滿日本領事館設置問題ノ外何等具体的要求ヲ受ケ居ラス此等ハ日支兩國間ノ問題ト言ハムヨリハ寧ロ地方當局者間ノ問題ニ屬セリトテ本使ノ張作霖會見ニ言及シ短時間ナリシ為何等具体的ノ提議ナク其後自分(楊)ハ張ノ命ニ依リ本使ヲ訪問ノ上話ヲ聞キタルモ右ハ何等全權トカ代表ト云フ資格ニ非ス単ニ張個人ヲ代表セルニ過キス中央ニ關スル問題ハ外交部ヲ經又地方的問題ハ奉天交涉署ヲ經テ解決セラルヘキヲ述へ更ニ日本ノ山東出兵當時南方側ハ南軍ノ軍事行動ヲ阻害セントスルモノナリト疑ヒ北方側ハ又日本ハ不逞ノ企画ヲ行ハントスルモノナリトノ猜疑ヲ

第四〇〇号

貴電第九五六号後段ニ閑シ

商租問題ノ解決ハ素ヨリ我方ノ切望スル所ナルモ本問題ハ治外法權撤廃内地難居ノ問題ト関連スルヲ以テ追テ機ヲ見テ交渉スルコトトシ今回ノ交渉ヨリハ除外シタル次第ナリ

167 昭和2年9月6日

田中外務大臣より  
在中國芳沢公使宛(電報)

商租問題の交渉は差控えるべき旨の訓令

本省 9月6日後4時30分発

抱キ居ルモ今次ノ撤兵ニ依リ何等侵略的計画ナク在留民ノ保護ニ過キサリシコト明白トナレリ等事理極メテ明白ナル説明ヲ与ヘ右會見ニ閑スル「ルータ」通信ハ本使ノ會見談ト共ニ二日ノ當地新聞「フロント・ペーイジ」ニ掲載セラレ極メテ良好ナル印象ヲ与ヘタルモノノ如ク内外ノ誤解ヲ除去スルニ相当有効ナリト認メラル「ルータ」カ此種通信ヲ「キカク」セルハ珍ラシキコトニテ往電第九五五号英國側ノ好意的態度ノ一端トモ見ラルルヲ以テ今後モ適當ニ此ノ傾向ヲ利用スル積リナリ

※  
167 昭和2年9月6日

田中外務大臣より  
在中國芳沢公使宛(電報)

商租問題の交渉は差控えるべき旨の訓令

169 昭和2年9月6日 田中外務大臣より  
在中國芳沢公使宛（電報）  
奉天における排日運動に関する森次官の要望  
について

本省 9月6日発

第四〇二号

森ヨリ

張作霖ハ素ヨリ東三省ノ官僚等ハ貴公使ノ穩和ナル交渉ニ  
対シ寧ロ付ケ上レル傾向アリ奉天ノ排日騒ニ至リテハ反対  
党ニ於テ政府攻撃ニ利用スルハ勿論政友会内ニモ激昂セル  
向アリ大臣訓電（一六八文書）第四〇一号ノ件貴公使ニ於テ断乎タル態度  
ヲ以テ交渉セラルコト切望ニ堪ヘス  
奉天ニ転電アリ度シ

170 昭和2年9月9日 田中外務大臣より  
在中國芳沢公使宛（電報）

中国側の対応を見守るべく暫く交渉を見合わ  
すべき旨の訓令

本省 9月9日後2時40分発

第四〇四号

ニ付右御含ノ上貴官ニ於テモ張へ可然応酬アリタシ  
奉天ヘ転電アレ

171 昭和2年9月10日 田中外務大臣より  
在奉天吉田總領事宛（電報）

中国側の対応を暫く静観すべき旨の訓令

本省 9月10日発

第一二五号

貴電第二七八号及第二七九号ニ閲シ  
在支公使宛往電（一七〇文書）第四〇四号ノ通り此際ハ少時嚴肅ナル沈默  
ヲ以テ支那側ノ出方ヲ監視シ我方ヨリ予防ノ措置ニ出ツル  
コトヲ差控ヘタキ考ナルニ付御来示ノ手段ノ実行殊ニ其予  
告ハ暫ク見合ハサレ度シ尤モ事態益々悪化直接邦人ニ危害  
ヲ及ホスニ至リタル場合ニハ应急ノ手段トシテ適宜自衛ノ  
措置ヲ採フルコト差支無シ右ノ方針ニテ関係官庁ト打合  
セ準備シ置カレタシ陸軍ト協議済  
在支公使、在満各領事及閏東長官ヘ転電シ閏東長官ヨリ満  
鉄社長ニ要領内報セシメラレ度

（電報）

172 昭和2年9月10日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

貴電第九七三号ニ閲シ

貴官ノ嚴重交渉ニ対シ張作霖ノ回答ハ當方予想ノ通り同意  
又ハ承認ヲ与ヘ居ラス取締ルヘシトナル処元來此度  
ノ警告ノ目的ハ排日運動ヲ捉ヘテ嚴重強硬ナル我態度ヲ先  
方ニ徹底セシメ其熟慮反省ヲ促ス為ニテ奉天宛往電第一〇  
二号汪公使ヘノ申入ノ趣旨ト同一ナリ

今日ノ場合ハ個々ノ案件ノ解決ヨリハ張等ノ対日精神ヲ一  
変セシムルヲ先決問題ト為ス東支鐵道「クロス」線中止、  
打通線ノ十一月完成、扶開線ノ測量開始、排日使嗾等我ニ  
対スル不信ノ小策ヲ弄スル彼等ニ折角強硬ナル警告ヲ与ヘ  
タル上ハ支那側カ今後反省シテ如何ナル措置ヲ執ルヤヲ見  
極ムル迄ハ寧ロ嚴重ナル沈默ヲ以テ対抗スル方得策ニシテ  
懸案交渉ハ徐ロニ支那ノ出方如何ニヨリ対策ヲ講スルコト  
トシタシ就テハ貴電末段ノ次第ハアルモ本国政府ニ於テハ  
張作霖ノ約言ニ信頼シ東三省當局ノ今後ノ措置ヲ見タク右  
ニヨリ其ノ誠意ヲ認メタル上更ニ交渉ヲ繼續スルコトトシ  
王蔭泰ヲ通シテノ懸案交渉ハ勿論楊宇霆トノ交渉ト雖少時  
見合ハスヘキ旨訓令ニ接セシ旨張ニ申入レラレタシ  
尚本庄帰朝ノ上本大臣ヨリ張ヘノ伝言ヲ別ニ申聞ケ度心組

張作霖ニ対シ楊宇霆來訪ノ日取繰上方要求シタル結果楊ハ  
九日來訪シタルニ付先以テ奉天ニ於ケル排日運動ニ閲シ其  
ノ痛切ナル注意ヲ喚起シタル處楊ハ排日運動ハ支那側内部  
ニモ入りリタル事情アルモ其ノ發展ハ誠ニ戒心ヲ要スルモ  
ノト認メラルニ付過日來多大ノ注意ヲ払ヒ來レル次第三  
テ其結果六日夜七日朝及七日夕刻帰京シ大元帥訪問ノ後大  
元帥ヨリ奉天、吉林、哈爾賓、黑龍江省ニ対シ嚴重ナル取  
締方ヲ電訓シタル次第ニテ元來現在ニ於テハ滿州モ各地ト  
同シク智識モ進歩シ民論モ相當重キヲナシ來リタル矢先日  
本ノ提議カ満蒙ニ閔スル事由大ナリト吹聴セラレタル為独  
リ満蒙ノミナラス蒙古地方ニ至ル迄非常ナル注意ヲ喚起セ  
ニ警告的電報ヲ送リ越スモノ少カラサル有様ナリト説明シ

タルニ付本使ヨリ明日ノ仲秋節ニ當リ又々示威運動ノ為ニ何等不祥事ヲ惹起スルカ如キ事アリテハ両国々交ノ為誠ニ憂慮スヘキモノアルニ付兎ニ角至急示威運動ヲ禁止スル様取計ハレ度キ旨要求シタル処楊ハ大元帥屢次ノ電訓ニ依リ最早大シタコトナカルヘク多少学生等ノ集合位ハ有之ルヘキモ危険ハナカルヘシト思ハルモ兎ニ角更ニ電話ニテ奉天ニ此上共嚴重取締方申送ルヘキ旨並ニ大元帥トシテハ此上尚取締徹底セサル場合ニハ何レ仲秋節後ハ一旦自分モ帰奉スルコトトナリ居ルニ付急キ帰奉ノ上取締方一層尽力セシムル意向ナリト述ヘタルニ付

本使ハ元来昂々溪ヨリ齊々哈爾ニ至ル東支線横断ノ中止ト云ヒ開通扶余鐵道敷設計画ト云ヒ奉天ニ於ケル排日運動ト云ヒ共ニ日本ノ提議ニ対スル対抗運動ニ非スマト述ヘタル處楊ハ否然ラス東支横断ノ中止ハ洮斉線ノ利益未タ上ラサル際更ニ借款額ヲ増シ未払利息ヲ此上トモ増額スルカ如キハ甚夕好マシカラサル次第三付差止メタル次第三テ又開通扶余鐵道敷設ノ計画ハ四逃、洮斉兩線ノ収益思ハシカラスシテ未払利息ノ嵩ム一方ナルヨリ出テタルモノナリト述ヘタルニ付本使ハ凡ソ鐵道ハ敷設後直ニ収益ヲ生スルモノ

リ開通扶余線ノ如キ明ニ滿鉄ノ並行線ニシテ滿鉄ノ収益ノ一半ヲ奪フカ如キ線路ノ敷設ハ絶対ニ同意スル能ハスト述ヘタル處楊ハ我方ニ於テハ収益ナキ間ハ利息ヲ払フコトヲ欲セス從テ此ノ方針ニ反スル取極ハ此ヲ為ササル方針ナリトテ本溪湖煤鉄公司鴨綠江採木公司等ノ合弁事業迄引用シ頻ニ愚痴ヲ並ヘタテタルニ付本使ハ日本側ノ事業家カ銀行ニ利息ヲ支払ヒ資金ヲ吐キ出シテ支那側ニ貸付クル場合ニ支那側ヨリ利息ヲ徵セサルカ如キ事ハ為シ得ル処ニ非ラス本溪湖煤鉄公司鴨綠江採木公司ノ如キハ使用人員ヲ日支折半シ収益ヲ折半シ且ツ支那官憲ニ報効金ヲ納メ居ルニ拘ラス何カ不足ナリヤト質問シタル処楊ハ現在ノ報効金位ニテハ誠ニ微々タルモノニテ不満足ナリト述ヘタルニ付本使ハ甚シク怪シカラヌ事ナリ此等ノ合弁会社ハ國際間ノ協定ニ基キ設立セルモノニシテ曾テ本使政務局長時代採木公司ノ配当金増加方奉天政府ヨリ申出アリタル際際会社ノ収益多キ時ニ於テモ会社トシテハ一定ノ積立金ヲ成シ無法ノ配当ヲナス能ハス然ラサレハ収益少キ時ノ經營ニ累ヲ及ホストノ理由ニ拒絶シタル事アリ貴下ノ希望ヲ実施スルニ於テハ如何ナル合弁事業モ存立スル能ハスト弁駁シタル上鐵道問

ニ非ラサル事ハ云フ迄モナキ次第ニテ敷設後何年カノ後ニ至リテ初メテ利益ヲ挙クル事ヲ得ル次第ナリ既ニ四逃線ノ如キハ昨年ヨリ二百数十万元ノ収益ヲ挙ケ其ノ内一年分ノ利息全部ヲ支払得タル訳ナルモ一部分ノ支払ニ止メ残額ハ四逃局ニ於テ之ヲ留保シ居ル次第ニテ今年以後ハ毎年収益ノ増加ヲ見ルヘキ趨勢ニアリ從テ追々利息ヲ償却シ続ケテ元金ノ支払ヲモ為シ得ル順序ナリ又洮斉線ハ敷設後猶間モナキコトナルカ故現在ハ収益少キモ此亦今後収益ヲ増シ利息ヲ支払得ルニ至ル事ハ明白ナリト述ヘタル処楊ハ四逃線ノ収益ハ意外ニ少ク現ニ毎年ノ利息ハ元金ニ繰入レラレ現在三千万元以上ノ借款トナリ居ル始末ニテ殊ニ今後多少ノ収益ヲ増加スルモ元來四逃線ノ工事ハ粗末ナリシ為毎年之カ修繕ニモ多額ノ費用ヲ要ス可キニ付相当ノ収益ヲ挙クルモ此等修繕費等ノ為メ利息ヲ完全ニ支払フ迄ニハ相当ノ時日ヲ要スト認メラルト述ヘタルニ付

本使ハ鐵道工事ノ粗末ナリシ事ハ事實ナルモ右ハ日本側ノ責任ニ非ス支那當局カ建設費ノ大部分ヲ他ノ目的ニ費消シタルニ基クモノナルカ其ハ兎モ角トシテ昨年以來ノ収益ヲ以テ推スニ元利完済費用ニ依リ支払ヲナシ得ヘキ事明白ナリ

三 满蒙懸案解决交渉

ネタル處楊ハ然リト答ヘタリ依テ然ラハ長大鉄道新邱運炭  
鉄道遼寧開魯鉄道東支横断鉄道洮南索倫鉄道ニ付テハ大綱  
ヲ協定シ得可シト述ヘタル處楊ハ大綱等ト称シテモ自分ノ  
地位ニ顧ミテ書面ニ認ムルコトハ出来難ク又大齊線ハ吉会  
鉄道同様吉林省ノ管轄内ニ付吉会鉄道ト同様トセサルヘ  
カラスト述ヘタルニ付本使ハ貴下ノ申条ニテハ誠ニ心細キ  
次第二付仮ニ貴下ノ趣意ヲ書キ表ハスヘシトテ本使ハ（吉  
林会寧鉄道ハ大元帥ヨリ吉林当局ニ勧メテ日本人ニ相談セ  
シム可シ大齊鉄道モ亦然リ）ト紙面ニ認メ此ヲ楊ニ示シタ  
ル處楊ハ其通ナリト答ヘタリ

依テ本使ハ他ノ四鉄道ハ貴下ノ権限内ニアル次第三付吉会  
大齊ヨリモ要領ヲ得タル協定ヲ為シ得ヘク即チ貴下トノ間  
ニ借款鉄道トナストカ合弁鉄道トスルトカ金額ヲ幾何トス  
ルトカ期限ヲ何年トスルトカ此等ノ事柄ヲ取極ムルコトハ  
差支ナカラントテ是モ紙面ニ認メ読聞カセタル處異存ナシ  
ト答ヘタル上但シ新邱運炭線ハ今日初耳ニテ日本側ノ要求  
ニ応シ得ルヤ否ヤ言明出来難シト述ヘ且ツ大綱トスルヨリ  
モ要領トセラレタシト付言シタル上洮南索倫線ハ洮齊線ヨ  
リモ一層収益無ク迷惑至極ナリト愚痴ヲ零シ居タリ楊トノ

談判茲ニ至リタル際偶々貴電(一七〇文書)第四〇四号接到シタルニ付本  
使ハ政府ヨリ談判見合方ノ電訓ニ接シタル旨ヲ告ケ是ヲ中  
止セリ

楊トノ第二回談判ハ大体右様ノ次第三テ楊ハ或ハ満州ニ於  
ケル材木鉱物等力漸次減少シ行クコト借款鉄道等力名儀ハ  
兎ニ角實際上ハ日本人ノ鉄道ナルコト等ヲ述ヘ慷慨悲憤ノ  
情ヲ漏ラシ屢々本使ト議論ヲ戰ハシタルカ要スルニ其ノ心  
理ニ於テハ愛國心ノ發動アルヘク体面保持ノ思惑モ有ル可  
ク兎ニ角交渉ノ進捗ニハ多大ノ手数ヲ要スルモノナリト思  
ハシメタリ去リ乍ラ何レノ場合ニ於テモ支那側トノ談判ハ  
初メヨリ円滑ニ進捗スルモノノ絶無ト云フ可ク利ヲ説キ勢ヲ  
示シ寛厳二分ノ方法ヲ用フルヨリ外致シ方無ク当日ノ楊字  
霆ノ態度ハ右ノ通ナルモ去リトテ必スシモ交渉ノ前途ヲ悲  
観スル必要ナシ帝国政府ニ於テモ交渉ノ道程ニ於テ今後或  
ハ（最後イシヨウ）ニ紛糾ヲ加フル事アリヤ計リ難キモ此等ハ  
余リ重キヲ置カレス堅実ニ確乎タル御決心ヲ以テ一意終局  
ノ目的ヲ達セラレント希望ス

奉天、閔東長官ヘ転電シ閔東長官ヘハ満鉄側ヘ内示方依頼  
セリ

173 昭和2年9月11日 在中國芳沢公使より

田中外務大臣宛（電報）

奉天省における不法課税について

北京 9月11日前着 発

第九八一号

本使発在奉天總領事宛電報第九七号

貴電第一九八号ニ閑シ

本使ニ於テモ勿論注意スヘキモ税捐局ノ馬車夫点検又ハ威  
嚇ノ如キ問題ハ先ツ以テ現場ニ於ケル貴官ヨリ莫省長ニ証  
拠ヲ突付ケテ嚴重其不法ヲ詰責セラル様致シタシ懸案解  
決ノタル不法課税ノ問題ハ内容複雜ニシテ当地ノミニ於  
テ急速解決セラルヘキモノニ非ス今後貴官ト相呼応協力シ  
テ成果ヲ收ムヘキモノト思考シ居レリ為念

大臣ヘ転電セリ

174 昭和2年9月13日 在奉天吉田總領事より

田中外務大臣宛（電報）

奉天省における不法課税に關し芳沢公使への

要望について

175 昭和2年9月13日 在奉天吉田總領事より

田中外務大臣宛（電報）

中国側の対応を静観する方針を持続すべき旨

奉天 9月13日後発

本省 9月13日後着

※ 第二九四号

滿鉄社長ヨリ貴大臣へ左ノ趣旨転達方依頼アリ

当方面ニ於ケル形勢並北京ニ於ケル張作霖、楊宇霆等ノ態度等ニ鑑ミ或程度迄ハ帝国政府ノ警告ノ効果アリタリト認メラレサルニアラサルモ乍遺憾充分徹底セルモノトハ俄ニ

断スルヲ得ス換言スレハ今直ニ個々ノ交渉案件ニ相当成功ノ見込ヲ以テ取懸リ得ル丈ケノ転換ヲ得タルモノトハ認ム

ヘカラス楊宇霆ノ態度ヨリ觀ルモ彼等ハ尚如何ニカシテ我

方ノ要求ニ出来得ル丈ケ応セヌ様遷延ノ策ヲ弄セムトスル

下心ナルヤニ思ハル少クトモ我要求ヲ最小限度ニ止メムト

決心セルモノノ如シ此際何ハ拙措キテモ先ツ以テ此心底ヲ

改メシムルコト急務ナリト信ス当地ニ於ケル排日運動ニ就

テ観ルモ其支那官憲ノ指嗾ニ出テタルハ明ニシテ我抗議ニ

依リ彼等カ取締励行ノ結果一時其影ヲ潜メタリトセハ是偶々前日ノ運動ノ背後ニ官憲アリシヲ立証スルモノト言フヘ

ク即チ排日運動中止セラレタルモ之ヲ開始スルニ至レル支那一流ノ心理ハ今尚伏在シ之カ根底ヲ覆サムトセハ我ニ於テ相当ノ決心ヲ要スヘシ張、楊等ノ少シ許リノ態度緩和ヤ

于長富洮昂局長との間の取極経過について  
北公秘二五第九号一六（極秘）

昭和二年九月十四日 满鉄北京公所長（印）  
特命全権公使 芳沢 謙吉閣下  
東支クロスニ閔スル件

別紙洮昂線ノ東支線横断取極ニ閔スル経緯本社ヨリ送付シ來リ写一部御送付申上候ニ付御查閱ノ上先ニ御手許ニ差出シ置候松岡副社長本月九日付電御参照可然御交渉被下度右

敬具 頤用得貴意候  
(別 紙)

庶秘第一六五号 昭和二年九月六日 庶務部長

北京公所長殿 東支クロツスニ閔スル件

本件ニ關シ昨日不取敢電報ニテ概要ヲ通知シタルカ更ニ本件ノ經緯及関係書類別紙御参考迄送付スルニ付査収相成度

以上

(別 紙)

洮昂線ノ東支線横断取極ニ閔スル経緯

洮昂線カ齐々哈爾省城ト直接連絡シ得テ始メテ其ノ經濟的機能ヲ充分ニ發揮シ得ルコトハ洮昂線敷設計画當時ヨリ明白ナルトコロナルカ大正十三年九月東三省當局及会社間ニ締結セラレタル洮昂鉄道建造請負契約ハ露西亞、東三省及日本間ノ國際關係ヲ顧慮シ洮昂線ノ北端ヲ東支線齊々哈爾駅ヲ去ル南方約六糠ノ模古氣ニ止メタリ而シテ会社ハ洮昂

當方面ニ於ケル排日ノ終息位ニテ若シ我嚴肅ナル態度ヲ緩和シウツカリ個々ノ交渉問題ニ移ルカ如キコトアラハ畢竟スルニ与シ易シト見ラレ却テ今後ノ交渉ヲ累スルノ虞アリ就テハ當分貴大臣発在支公使宛（一七〇文書）第四〇四号御訓電ノ方針ヲ持続スルコト肝要ナリト存ス御参考迄卑見電稟ス在支公使ヘ転電セリ

176 昭和2年9月14日 满鉄北京公所長より  
在中国芳沢公使宛

洮昂線の東支線横断に関する大蔵満鉄理事と

于長富洮昂局長との間の取極経過について  
北公秘二五第九号一六（極秘）

昭和二年九月十四日

满鉄北京公所長（印）

特命全権公使

芳沢 謙吉閣下

東支クロスニ閔スル件

別紙洮昂線ノ東支線横断取極ニ閔スル経緯本社ヨリ送付シ來リ写一部御送付申上候ニ付御查閱ノ上先ニ御手許ニ差出シ置候松岡副社長本月九日付電御参照可然御交渉被下度右

張大元帥ニ洮昂線ノ延長強行ヲ稟申其ノ承認ヲ乞フコトトナレリト云フ

前陳ノ事情ニテ本件ノ具体化ハ遷延セルカ八月上旬于局長來社大藏理事ト会商シ其ノ結果八月十日遂ニ兩者間ニ左ノ覚書ニ調印セリ然ルニ奉天省長ハ右覚書ニ対シ全部的承認ヲ与ヘサル為メ（本覚書ハ奉天省長ト満鉄社長ノ承認ヲ以テ効力発生ノ条件トス）于局長ハ更ニ会社ニ対シ修正案ヲ提出セリ（別紙参照）会社ハ本計画力速ニ実行サルルニ至ラムコトヲ切望シ更ニ局長ノ修正案ニ対シ修正案ヲ提出セリ然ルニ右会社ノ修正案ニ対シ于局長ハ再ヒ修正案ヲ提出シ來リタリ会社ハ之ニ対シテ未タ回答セス目下其ノ対策ニ付研究中ナリ前陳ノ如ク本件ハ急速ニ進展シ会社ハ或ル程度ノ犠牲ヲ払ツテモ該工事ノ速成ヲ期シ居タル處最近交通部ヨリ洮昂局ニ其ノ中止ヲ命シ来リタル為本件ハ目下頓挫ノ情態ニ在リ

覚書（調印スミ）  
請負契約洮昂鐵道建造計画外工事施行ノ為洮昂局局長ト大藏滿鐵理事トノ間に左記ノ事項ヲ協定ス

本覚書ハ奉天省長、満鉄社長ノ承認ヲ経タル後効力ヲ發生スルモノトス  
一、本計画外工事ハ可成民国十六年十二月末迄ニ完成ヲ期スルコト  
一、立替金ハ金利ヲ除キ金毫百參拾万円也ヲ限度トスルコト  
一、立替金ハ局長顧問連署ヲ以テ必要ニ応シ隨時分割請求セラルルトキハ会社ハ之ニ応シ支出ヲ為スコト  
計画外工事費予算書、設計書及設計図ハ工事着手前会社指定技術者ト協議スルコト

民国十六年八月十日  
昭和二年八月十日

洮昂局局長 于長富  
満鐵理事 大藏公望

覚書（于局長ノ修正案）（訳文）  
洮昂鐵路ハ工事上ノ必要ニ基キ原定ノ工事費以外ニ金額ノ增加ヲ要スルニ付局長于長富ト満鐵理事大藏公望ト会商シ左ノ如ク協定ス

一、洮昂鐵路工事費ノ増額ハ日本金百三十万元ヲ以テ限ト為シ満鐵カ之ヲ立替交付スルモノトス  
一、本増額立替金ノ償還期限ハ交付ノ日ヨリ起算シ一年ヲ以テ限ト為ス

一、立替金利息ハ年九分即チ日本金百円ニ付利息九円ノ割トス本利息ハ期間満了ノトキ元金ト共ニ支払フモノトス若シ期限ニ至リ支払ヲ為スコト能ハサル場合ハ之ヲ増額立替金中ニ加算スルモノトス

一、本増額立替金ハ洮昂鐵路局及顧問連署ヲ以テ満鐵会社ヨリ隨時引出スモノトス

本協定ハ奉天省長及満鉄社長双方ノ承認ヲ経タル後効力ヲ能ナル場合之ヲ洮昂鐵路ノ借款ニ切替フルモノトス

生スルモノトス

一、計画外工事費ハ洮昂線工事費増額トシテ立替ヲ為スコト  
ト  
一、立替金ハ金利ヲ除キ金毫百參拾万円也ヲ限度トスルコト  
一、立替金ハ局長顧問連署ヲ以テ必要ニ応シ隨時分割請求セラルルトキハ会社ハ之ニ応シ支出ヲ為スコト  
計画外工事費予算書、設計書及設計図ハ工事着手前会社指定技術者ト協議スルコト

三 满蒙懸案解决交渉

テ別途借款ト為スモノトス右何レノ場合ニ於テモ本立替  
金ヲ以テ築造又ハ購入シタル物件及之ニ依リ生スヘキ收  
入ハ總テ右借款ノ担保タルヘキモノトス  
本協定ハ奉天省長及満鉄社長双方ノ承認ヲ経タル後効力ヲ  
生スルモノトス

于局長ノ再修正案

一、第五項ハ削除シ往復文書ヲ以テ之ニ代フルコト但シ文  
案ハ左ノ如ク簡単ナルモノトシタシ

拝啓……（中略）……工事着手前「弊社派遣ノ指定  
技術者ト協議セラルコトト」致度候間御同意被成下度  
（以下原案ノ通）

二、曩ニ省長ト協議提示セル覚書按中「即改為洮昂路借款」  
ノ意味ハ貴社ト省長トノ間ニ契約スル既成工事費ノ借款  
ニ切替フルモノニアラスシテ貴社ト路局トノ間ニ契約ス  
ル借款ナルニ付第六項ハ左ノ如ク改メタシ  
本增額立替金……（中略）……洮昂鉄路ノ借款（以  
下「ニ切替」ヨリ「場合ニ於テモ」マテ削除）ト為スモ  
ノトス右ノ場合本立替金ヲ以テ（以下原案ノ通）

奉天省長公署指令第二一三二号  
令洮昂路局  
呈為擬請赶修延長路線並变更設計另擬預算由  
呈悉查所請各節尚屬可行應准如擬與修此令

奉天省長公署指令第二一三二号  
中華民国十六年八月三日  
令洮昂路局  
呈為擬請赶修延長路線並变更設計另擬預算由  
呈悉查所請各節尚屬可行應准如擬與修此令

呈為職路交通阻隔營業蕭條擬請赶速延修路綫暢旺運輸以資  
救濟並變更設計另擬預算仰乞

鑑核示遵事案奉

鈞署訓令第三三号内開案查前拠該局呈為延修昂昂溪至齊  
哈爾路綫一案當經軽咨  
黑龍江省長公署核議在案茲准復開此案該省現正籌画進行等  
因合令該局知照此令等因奉此職局自應靜候江省將此案進行  
就緒再行動工惟查職路現在實因限於中東路橫斷阻隔之關係  
江省北部物產不能南運以致營業狀況異常蕭條虧累日深負債  
不堪慮勢非將昂齊一段路綫趕速延修以濬貨物之來源則運輸不  
能暢旺營業難期發達而虧累實屬無以救濟即地方交通客商往  
來軍事運輸亦均極感困難緣此情形職路之延修實有刻不容緩  
者局長此次赴京覲見

大元帥對於職路狀況復蒙殷殷垂詢並奉

面諭將昂齊路綫趕速延修以利交通等因局長職責所在未敢因  
循為此陳明擬請一面與中東路進行架橋穿過交涉問題一面由  
職局先行動工以免延誤俾此段路綫早日觀成運輸便捷營業得  
以充量差達於職路收益實非淺鮮復查職局前呈延修路綫預算  
約需日金壹百五十七萬元茲為力求節費省工起見變更設計將  
穿過中東路擬架設之鐵筋洋灰混凝土橋改為鐵橋重行預算約  
需日金壹百九十八千元所有擬請趕速延修路綫並變更設計各緣由是否有當除分呈外理合繕具預算備文呈請  
鑑核示遵謹呈

奉天省長

177 昭和2年9月28日 田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛

満蒙懸案解決交渉転回策について

付記一 満蒙懸案解決に関する外務省及び陸軍の関係

各官の會議について（九月二十一日及び二十  
四日）

二 九月二十六日付

本庄中将帰任に際して排日及び満蒙懸案解決  
交渉に關し田中總理大臣より張作霖宛伝言案

（付記一）

満蒙懸案解決ニ關スル件

（別紙甲号及乙号ノ写各一部添付ノコト）  
(注意別紙甲号及乙号ハ圈点ヲ付シタル儘写取ルコト)

編注 本信に別紙甲号及び乙号は添付されておらず、付記一  
及び二を参照されたい。

満蒙懸案解決ニ關シ昭和二年九月二十一日及二十四日ノ兩

日外務大臣官邸ニ於テ軍部及外務省ノ関係各官ノ會議ヲ催シ左記各項ヲ協議決定シ外務大臣ノ決裁ヲ経タリ

九月二十一日出席者

出淵外務次官

阿部軍務局長

松井顧問

本庄中將  
松井第二部長  
有田亞細亞局長

天羽一等書記官

九月二十四日出席者

森外務政務次官  
南參謀次長  
本庄中將

松井顧問  
烟陸軍次官  
松井第二部長

有田亞細亞局長

古莊軍事課長（軍務局長代理）

天羽一等書記官

#### (一) 交渉転回策

一、滿州ニ於ケル排日ニ閔シ張作霖ヨリ公使ニ対シ右ノ發生ヲ遺憾トシ誠意ヲ以テ将来ノ取締ヲ約スル旨ノ挨拶ヲナサシメ同時ニ張作霖ヨリ田中總理ニ対シ同趣旨ノ私信ヲ發セシムルコトヲ以テ局面転回ノ主タル機会

#### (二) 交渉順序

上記ノ如キ手続ニヨリ交渉再開セラルニ至リタルトキハ  
一、懸案問題及鐵道問題ハ一応凡テ公使ト楊トノ間ニ交渉スルコト

二、鐵道問題ハ公使ト楊トノ間ニ大綱ヲ協定スルコト但シ出来得ル限り詳細ナルヲ可トス

三、滿鉄ハ公使楊間ニ成立シタル大綱ニ基キ細目ノ協定

ニ当リ在奉天總領事、在吉林總領事等ハ必要ニ応シ満鉄ヲ援助スルコト

四、不法課稅帽兒山分館問題等ニツキテハ大綱ニ閔シ了解出来タル上之レヲ地方交渉ニ移スコト但シ此等問題

ニ閔スル大綱ハ鐵道問題ト異リ北京ニテハ極メテ大体ニ閔スル諒解ニ止メ成ルヘク速ニ地方交渉ニ移スヲ可トス

#### (四) 鉄道線

一、東方會議ニ於テ定メタル予定線ハ支那ノ滿蒙鐵道網ノ一部トシテ全部之ヲ認メシムルヲ要ス但シ具体的ニ進捗セシムヘキ線トシテハ已ムヲ得スムハ差向キ(イ)吉会(イ)長大等重要ナル二三線位ヲ纏ムルヲ以テ満足ストス

#### (五) 交渉上ノ緩和手段

一、東三省側ニテ敷設ヲ熱望スル鐵道ニツイテハ満蒙開發ノ根本義ニ基キ著シク我国ノ利益ヲ阻礙セサル限り勉メテ之ヲ認容スルコト

トス

尚出來得レハ打通線工事ノ中止ヲナサシムルコト

二、右ニ取運フノ時期ハ滿州ノ排日運動ノ状況ニシテ現在程度ナリトセハ本庄中將帰任ノ頃即チ十月五日頃ヲ

以テ適當トス

尤モ右ハ楊ノ滯京ヲ条件トス

#### (三) 転回実施方法

一、楊ヲ使者トシテ公使館ニ陳謝セシメ其際楊ヨリ張モ芳沢公使ニ挨拶シタキ意向ナルニ付テハ張ヲ來訪セラレタキ旨ヲ申込マシメ公使張會見ノ席上ニ於テ張ヨリ挨拶セシム

右ハ支那側ヨリ自發的ニ申出サシムルノ形式ヲ執リ茲ニ至ラシムル為メニハ本庄中將ヨリ適宜楊ニ「サジエスト」セシム



先ツ松岡ノ所見ヲ聽キ若ハ奉天側ノ内情ヲ訴ヘムト欲スル

楊ノ心組カト察セラル過般本官ハ満鉄正副社長ニ述ヘ置キ

タルコト乍ラ奉天側ニ対スル多年ノ我不徹底ナル機嫌取政

策ノ積弊ヲ一掃シテ満蒙ニ新事態樹立ノ抱負ヲ実行セムト

スルニ当リ依然口舌ノ余リヲ以テ彼等ヲ胡麻化スコトノ陋

策ハ断然之ヲ棄テサラサルヘカラス由來支那側ヲ説得シ其諒解ヲ得ヘシト考フルコトハ我方通有ノ病癖ナルカ此自惚ノ去ラサル限り政府諸機関ノ協調満蒙政策ノ進展期シ難ク我敵肅ナル沈黙ヲ守ル此時様ニ於テ此自惚心ヲ去ルカ為ニノミ松岡ノ楊トノ会談ハ有益ナラムモ楊現在ノ立場トシテ張父子ノ動トモスレハ疑念ノ生シ易キ今日仮令楊カ対日關係ニ諒解アリトモ我ニ対シテハ強硬論ヲ主張セサルヲ得ナル地位ニ在リ即チ彼ハ張ノ帷幄ノ中ニ置クヘク彼ヲ交渉相手方トシテ何物ヲ得ヘケムヤ楊ニ多クヲ求メムトスルモ無益ナルヲ切言セルカ先方ノ事情ハ當ニ斯ノ如クナラムト思考ス楊ハ法庫門ヨリ帰来早々北京ニ去ルモノノ如シ

179 昭和2年9月30日 在奉天吉田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

对中国交渉はあくまで外務省を中心とすべき

旨の意見具申

奉天 9月30日後発

本省 10月1日前着

第三一三号

貴電第一三九号ニ閲シ

当國ノ例トシテ交渉少シク困難トナレハ支那側ハ忽チ其相手方ヲ忌避シテ既ニ最都合好シト考フル他相手方ヲ選ムテ

之ト交渉ヲ為サムトス今回モ亦外務側ノ肉迫漸ク急ナレハ忽チ陸軍側ニ斡旋ヲ求メ或ハ転シテ満鉄ニ走リ依テ以テ我

方ノ間隙ニ乘セムト試ミ支那側ヨリ斡旋ヲ求メラレタル陸軍満鉄側モ亦人情ノ自然何時トナク先方ノ立場ニ同情シ我

意ヲ支那側ニ徹底セシメムトスルヨリモ我ニ向ケ先方ノ意ヲ通セムトスルニ傾キ彼此ノ間ニ我方ノ足並乱レ硬軟両論ヲモ生シ終ニ二重三重外交ヲ生ス満蒙懸案及排日問題ニ關シ支那側カ本庄、松井ニ色々斡旋ヲ依頼シ鐵道問題ニ付キテ松岡ニ会談ヲ希望スル等悉ク其例ナリ児玉閑東長官ニハ諸機関協調ヲ招来スル目的ヲ以テ其参考ノ為ニ當方及在支公使ヨリ各種ノ情報ヲ供給シ來レル處昨今屢々満蒙關係外交ヲ論シテ其筋ヘ意見ヲ電稟スル處アリ右ノ如キハ閑東長官

日本トシテハ全然不干涉不調停ノ主義ヲ執ル積ナリ結局支那ハ戰亂ノ結果財政モ極端ニ乱ルルコトト思フ其際英雄力出テ統一ヲ計ル迄我々ハ待ツヨリ外致方無イト思フ然シ乍ラ支那ニハ到ル所日本人カ非常ニ多ク在住シテ居ルカラ隨時此等ノ日本人ヲ保護スルト云フ問題カ起ルカ各国モ同様ノ事ト思フ

中央政府ノナイ支那ノ状態ニ於テハ之等ノ日本人保護ニ就テハ各地方ノ実権者ト接触シ交渉ヲシテ行クヨリ外ハ無イト思フ

米国大使、米国ノ歴史(米国カ南北三分カレタル際英國ヨリ南北両方ニ代表者ヲ派遣シ置キタルコトヲ指ス)及國際法等カラ考ヘテモ只今大臣御話ノ地方実権者トノ接触交渉云々ト云フコトニ付テハ同意カ出来兼ネル米国トシテハ北京ニ代表者ヲ派遣シテ居ルカラ之ヲ漢口、南京等ノ領事ヲシテ地方的ニ交渉セシムル事ハ出来ナイ米国人ニシテ支那ニ居ル者ハ宣教師ト「スタンダード」石油会社ノ人間丈故保護ニ困難ヲ感スル様ナ状況カ出来レハ引揚ケテ帰スヨリ外ハ無イ

註議ヲ請フ

北京へ転電セリ

180 昭和2年10月3日 田中外務大臣  
マクヴェイ米国大使会談

満州問題等に関する田中外務大臣とマクヴェ

イ駐日米国大使との会談録

\*十月三日金子子爵邸ニ於ケル田中外務大臣米国

大使会見録

三 満蒙懸案解決交渉  
外務大臣、支那ノ状態ハ最近甚シク混乱ノ状態ニ陥レルモ

無力ノ北京政府トノミ交渉シテ居ル訣ニ行カン

米国大使、「カネチカット」選出米国上院議員「ビンガム」

氏最近支那視察ヨリ帰リ自分ニ話シタル所ハ只今大臣ノ

御話ト同様結局地方ノ実権者ヲ相手トシナケレハナラン

ト云フ意見テ自分ニモ話シ又國務長官ニモ其ノ意見ヲ電

報シタソウタカ政府ハ之ニ取合ハス又米国諸新聞モ「ビ

ンガム」氏ノ意見ニハ極メテ冷淡タカラ結局私ノ先程述

ヘタ所カ米国ノ方針ト言ヒ得ルト思フ

右ノ米国大使ノ話ニ対シ外務大臣ヨリ日本ノ立場ヲ種々

説明シタルニ

米国大使、日本ノ立場トシテハ夫レヨリ外或ハ方法ナカラ  
ン然シ米国政府ノ同意ハ得難イテアラウ尤モ反対モシナ

イタロウ

外務大臣、南滿州ニ就テハ日本ハ久シキ以前ヨリ種々密接  
ナル関係ヲ有シテ居ルカ支那ノ主權ヲ害シ土地ヲ占領ス  
ルト云フ様ナ野心ハ固ヨリ毫モ無イ自分等ノ理想ハ支那  
各地カ極メテ混亂シテ居ル此際ニ滿州丈ハ外国人、支那人、日本人ノ平穏ニ住居スルコトノ出来ル土地トシタイ

ト云フ考テアル滿州ノ資源ハ極メテ豊富テアルカ此レヲ

外務大臣、否

外務大臣、日本ニ対シテハ各國ニ誤解カアル殊ニ日米間ニ  
誤解カアツテハ支那テノ仕事ノ上ニモ甚タ困ル誤解アラ  
ハ御互ニ打明ケル事トシタ日米漸ク諒解シテ而シテ後  
ニ英國ニ話ヲスル様ニシタカヨカラウト思ツテ居ル

米国大使、御尤ノ御意見テアル御話ニヨリ極メテ打明ケタ  
ル事ヲ申上ケルカ奉天ノ排日ニ付テハ自分ノ所ニ各方面  
カラシテ色々ノ情報カ來ルカ何レモ期セスシテ一致シテ  
居ル夫レハ奉天ノ排日ハ日本人カヤラシテ居ルノテアル  
ツマリ排日ヲ起サシテ之ヲ利用シテ支那カラ利權ヲ得ン  
トシテ居ルノテアルト云フ意味テアルソウ云フ事ヲ為サ  
レテハ良クナイト思フ（此点ヲ言フ時ニ躊躇ノ色ヲ示シ  
タ）

外務大臣、能ク云ツテ異レタ全ク事實無根タ張作霖ハ仲々  
喰ヘナイ男テ過去ニ於テ排日ヲ交渉ニ利用シタコトカ極  
メテ多イカ今回ハ南方関係ノ人々ニ利用サレタ傾カアル  
米国大使、能ク諒解セリ機会アラハ弁解シテ置キマセウ

外務大臣、自分カ組閣シテ以來滿州ニ付テ色々手ヲ付ケ様  
ト思ツテ居ルカ世間テハ之ヲ積極政策ト称シテ非常ニ誤

開発スルニハ日本丈テハ力カ足リス是非共英米ノ人ノ加

入ヲ希望セサルヲ得ナイ然シ南滿鉄道ニ平行ノ線ヲ建設

スル如キハ断シテ承知スル事カ出来ナイ

米国大使、御尤モノ御説テアル打通線ハ如何ニ御考ヘニナ

ルカ

外務大臣、打通線ニ付テハ政府トシテハ抗議ヲ申込ンテ居

ル然シ個人ノ意見トシテハ打通線ハ滿鉄ニ左程害ニナラ

ント思フ

外務大臣、北滿州ハ南滿州ニモ劣ラス資源ノ豊富ナ所テア

ルカ是ノ開発モ南滿州同様ノ方針テ機会均等主義テ行カ  
ナケレハナラント思フ北滿州ト沿海州トハ離シテ考フル

コトハ出来ナイ又沿海州ニハ日本ハ特殊ノ関係ヲ持ツテ

居ル漁業、石油、森林等ノ開発ニ付テハ古キ以前ヨリ日

露ノ間ニ特殊ノ関係カアル此点ハ各國トモ認メラレ度イ

北滿州ニハ露西亞人多ク露國トノ関係モ自然多イ事故ニ

北滿州ノ事ニ付テハ露西亞ト話ヲ話サネハナラント思ツ

テ居ル

米国大使、北滿州ハ支那ノ領土故北滿州ニ閔スル話ニハ支  
那ヲ加ヘラル積リナリヤ

(欄外記入)

外務大臣、自分モ思フ

外務大臣、軍縮会議ノ不結果ノ為ニ色々面白カラサル噂ヲ

聞クガ日本ハ米国ニ対シテ戦争ヲスルト云フ風ナ考ハ毫

モ無イ将来モ持ツ可キモノテナイト信スル噂ハアツテモ

氣ニ掛ケラレナイ様ニシテ貰ヒ度イ

日本ハ復興事業其他ニ金ハ隨分必要タ此ノ金ハ自分ノ考テハ米国辺カラ持ツテ來ネハナラント思フ日本ハ現在ハ困難ナル状況ニ在ツテモ必ス無事ニ切抜ケ財政上破産スル様ナ国テハ断シテ無イ

米国大使、夫レハ御尤モタ此夏大統領「クーリッヂ」氏ニ

会ツタ時ニ日本ハ震災ノ際ニ武士氣ヲ出シテ瘦我慢ラシ

テ來タ為ニ銀行恐慌カ來タカ之ハ必ス回復スルニ違ナイ

ト言ツテ居ツタ

昭和二年十月七日（有田亜細亞局長口述）

（欄外記入）

米国大使ハ本国政府ヨリ支那問題ニ容嘴スヘカラストノ訓令

ヲ有ス

在中國芳沢公使より

田中外務大臣宛（電報）

181

昭和二年10月(4)日

在中國芳沢公使より

本庄中将による張作霖への田中外務大臣の伝

言通知実行について

北京 本省 10月4日後着 発

第一〇三五号

本庄三日帰任同中将ヨリ御訓令ノ次第委曲承知セリ九月二十八日付ノ本使ニ対スル御訓令ハ未タ接手セサルモ本庄ノ談ニ依レハ政府ニ於テハ非常ニ御急キトノコトナレハ本庄ヲシテ至急御伝言ヲ伝ヘシメ又同中将ヲシテ御訓令ニ依リ陳謝ノ手続ヲ執ラシムルコトニ努力セシムル心算ナリ

182 昭和2年10月4日 田中外務大臣 ティリー英國大使 会談 满州問題等に関する田中外務大臣とティリー

駐日英國大使との会談録

大臣会見録 二十六

十月四日午後英國大使田中大臣ヲ來訪ス

大臣ヨリ先般來御話シ致シ度シト思ヒ乍ラ掛ケ達ヒテ其意

ヲ果ササリシ次第ナルカソハ滿州ニ閑シテノコトナリト前

提セラレタル上

滿州ト日本トノ関係ハ御承知ノ通リニテ別ニ説明ヲ要セス

殊ニ經濟的ニハ日々緊密ナル關係ニ赴キツツアル次第ナルカ日本カ同地方ニ付何ヲ希望スルカラ約言セハ即チ滿蒙ノ

秩序力保タレ同地方カ内外人安住ノ地トナリ且經濟的平和的ニ開発セラルニ至ラムコトニシテ特ニ支那ノ他ノ各地

ニ於テ擾乱絶エサル狀態ニ鑑ミ単ニ日支人ノミナラス歐州人ノ為ニモセメテ滿州地方ノ秩序丈ヶハ維持スル要アルコ

トヲ痛感スル次第ナリ然ルニ日本カ斯クノ如ク重要視シ居レル同地方ニ於テ不幸ニシテ未タ解決ニ至ラサル地方的懸

案尠カラス現ニ張作霖ハ條約ニ反シタル各種ノ不当課税ヲ

實行スルノミナラス日支間ノ協定ニ反シタル鐵道ノ建設ヲ計画シ我方再三ノ抗議ニモ拘ラス其建設ヲ急キツツアルカ

如キ狀態ナリ滿蒙ヲシテ内外人安住ノ地タラシメ門戸開放、機会均等主義ノ下ニ平和的並ニ經濟的ニ之ヲ開發セシ

メムトスル我理想ヲ實現セムカ為ニハ先ツ上述ノ如キ行懸

リヲ一掃シテ張作霖ヲシテヨク我真意ヲ諒解セシムルコトハ必要ナルニヨリ先般此ノ趣旨ニ依リ支那側ト交渉セシメタ

ルニ交渉開始ト共ニ奉天方面ニ排日運動ノ起リタルコトハ貴大臣モ御承知ノ通リナリト述ヘラレタルニ英國大使ハ之ヲ遮リ日本ノ要求セラレタル處ハ條約上支那カ当然行フヘ

### 三 满蒙懸案解決交渉

為早速排日運動抑圧方取計フコトトナリタル次第ニテ今日ニ於テハ少クモ表面同運動ノ落付キタル形トナリ居ル次第ナルカ果シテ事態平静ニ趣クヤ暫ク之ヲ注視スル積リナリト答ヘラレ

英國大使ヨリ閣下ニ於テハ右張作霖ノ執リタル措置並ニ其後ノ態度ニ満足シ居ラルヤヲ尋ネ之ニ対シ

大臣ハ彼力厳命ヲ下シタル結果少クモ表面ニ於テハ右運動ノ治マリ居リ其後張ハ奉天省長ヲ更迭セシムルコトトシタルカ如クニテ固ヨリ自分トシテ未タ彼ノ態度ニ充分満足シ

居ル次第ニハ非サルモ彼モ自ラ焚付ケタル火ニテ其ノ手ヲ焼キタルコトナレハ之ニ教訓ヲ得テ今後其態度ヲ改メ来ル

コトナルヘク其結果滿州ノ事態ニシテ曩ニ開始シタル我方交渉ヲ進ムルニ適スルニ至ラハ之ヲ続行セントスル積リナリト答ヘラレタリ

英國大使ハ今日迄独リ滿州ノ秩序ノミカ維持セラレ来リタルハ一般外国人モ密ニ之ヲ喜ヒタル処ニシテ日本政府カ今後モ滿州ノ秩序ノ乱ルコトナカラムカ為適當ノ交渉ヲ遂ケラルコトハ最モ望マシキ処ナリト述ヘ

大臣ハ尚茲ニ付言シ置キタキコトアリ滿州ト云へハ其經濟

英國大使ハ其交渉方法ハ誠ニ賢明ナル遣リ方ナリト信スル旨ヲ述ヘタリ

更ニ英國大使ヨリ先般北京ヨリノ報告ニ依レハ支那各派勢力中現ニ露西亞ト關係アルハ馮玉祥一名ニシテ彼ハ此後援ニ拠リ支那ノ中原ニ活動セムカ為山西ノ閻錫山ヲ動カス必要ヲ感シツツアルカ如キ様子ナリシカ閣下ノ御観察如何ト尋ネ

大臣ハ閻ト馮トハ全ク政治上ノ意見並ニ立場ヲ異ニスルモノナルカ故ニ閻錫山カ露西亞ノ後援ニ依リテ立ツカ如キハ考ヘラレサル処ナリ最近閻錫山カ奉天側ニ対シ戰闘ヲ開始シタル情報アルモ右ハ若シ奉天側カ進ンテ馮玉祥ヲ討伐セハ其次ニハ閻自身モ奉天ノ攻撃ヲ受クル順序トナルコト明カナルカ故ニ閻ハ全ク自己ノ立場擁護ノ上ヨリ奉天側ニ対シ機先ヲ制シテ火蓋ヲ切リタルモノト解セラルモ扱テ此奉天山西ノ衝突カ果シテ戰争ラシキモノニ迄發展スルヤ否ヤニ付テハ自分ハ尚疑ヲ持チ居レリト述ヘラレ

英國大使ヨリ支那ニ於テハ斯クノ如キ衝突擾亂ハ何時迄モ

絶エサルコトト見フルル處閣下ニ於テハ支那ノ南北カ統一セラレテ支那一般ノ秩序カ維持セラルルノ日來ルヘシト感

的価値ヲ充分發揮セシムル為ニハ北滿州ヲモ含ム意味ナルコト勿論ニシテ北滿州カ藏スル天然ノ資源ヲ經濟的ニ開発シ之ヲ經濟的ニ運搬スルノ途ヲ講シテ始メテ前述ノ自分ノ理想ニ達シ得ル次第ナリ而シテ北滿州ハ直ニ「シベリア」ニ接シ居ル關係上將又其物資ノ運搬ノ為ニハ露國側關係ノ鐵道トモ問題ヲ起スコトトナル關係上今回ノ日支交渉ノ結果ハ廳テ露西亞トモ又話合ヲ遂クル必要アル事態ニ到達スヘク此点ハ予メ貴大使ノ御承知ニ入レ置カムト存スト述ヘラレ

英國大使ヨリ右ハ日支交渉ノ進展ト共ニ露西亞ヲモ其商議ニ加ヘラルル意ナリヤト問ヒ

大臣ハ日支ノ交渉ハ前述ノ通り懸案ノ解決ヲ主トスルモノナルカ故ニ露西亞ヲ加フヘキ筋合ニ非ス自分ノ最モ希望スル処ハ滿蒙ノ經濟的發展ノ問題ナルカ故ニ三国ノ商議トルカ如キハ外觀ヨリ直ニ政治的意味アルモノト誤解サルルカ故ニ三国商議ノ如キハ之ヲ避ケル積リニシテ日支ノ交渉ニハ露國ヲ加ヘス日露ノ交渉ニハ支那ヲ加ヘサル積リナルカ唯其双方ニ予メ諒解セシメ置クコトハ必要ナリト考ヘ居レリト答ヘラレ

セラルルヤ否ヤヲ尋ネ

大臣ハ之ニ対シ自分モ近キ将来ニ支那ニ統一政府出現スヘシトハ感シ居ラス結局我々ハ地方々々ノ政權ヲ相手トシテ問題ヲ地方的ニ解決スルノ手段ヲ執ラサルヘカラス之力為ニハ列国側ニ於テ殊ニ日英ノ間ニ於テハ益々協調ヲ保チテ支那側ニ当ルコト必要ナリト感シ居レリト述ヘラレタリ英國大使ハ今日ノ滿州ニ閔スル閣下ノ氣持ヲ率直ニ御話シ吳レラレタルコトハ自分ノ深ク謝スル処ナルノミナラス其御話シノ内容ニ付テモ自分モ賛成スル処ナルヲ以テ今日ノ御話シハ直ニ本國政府ニ転達スル積リナリト述ヘテ辭去シタリ

（昭和二年十月五日沢田電信課長口述速記）（山崎）

183 昭和二年十月五日 在上海矢田總領事より  
在中国芳沢公使宛

対滿蒙積極政策に対する伍朝枢国民政府外交  
部長の抗議文転送について

※ 付記 右抗議文の訳文（亞細亞局第一課）

昭和二年十月五日

在上海  
總領事 矢田七太郎

在北京

特命全権公使 芳沢 謙吉殿

転達ノ件

今般郭交渉員ヨリ伍外交部長發責使宛我對滿蒙積極政策ニ  
対スル抗議文（照字第二号）一通転達方依頼アリタルニ付  
別紙ノ通リ茲三転送ス

本信写送付先 外務大臣

編注 別紙原文書は添付されておらず。

（付記）

（亞細亞局第一課訳）

照会第二号

以書翰啓上致候陳者本部長ハ屢次各地團体代表者ヨリ日本  
帝国政府ハ支那ニ対シ就中滿蒙ニ対シ新政策ヲ決定セルヤ  
ノ趣ナル處如何ニトノ問合ニ接受候ニ付テハ貴公使ニ照会  
シ以テ貴国政府ニ転達方相煩ハササルヲ得サル次第ニ有之

候

報告ニ拠ルニ日本新内閣首相田中男爵發表ノ積極政策ナル  
モノハ人心ニ異常ノ焦慮ヲ与ヘルモノ有之而シテ此種政策

ハ支那ニ対シ經濟上及政治上ノ帝国主義新政策ヲ行ハント  
スルモノノ如ク且東三省及蒙古ニ対シ最モ急ニシテ貴國政

府ハ既ニ之カ提出ヲ行ヒタルノミナラス更ニ東北軍閥ノ偽  
政府ヲ相手トシ秘密曖昧裡ニ之ト協商シ広大ノ鐵道讓与權  
日本人ノ在支内地雜居權該地方ノ保護權及其他種々ノ要求

ヲ行ヒ其ハ恰モ民国四年ノ提出ニ係ル彼ノ世界ノ非トスル  
二十一ヶ条ニ一段ノ深刻サヲ加へ将ニ在滿支那ノ主權ヲ剝  
奪シ實際上日本ノ版圖内ニ隸屬セシメサレハ止マサル勢ア

リトノ趣ニ有之候貴国政府側ニ於テ此種政策ニシテ果シテ  
事實ナリトセハ必ス支那人ノ公憤ヲ惹起致ス可ク最近東三  
省人民ノ行ヘル運動ハ張作霖ノ為ニ暫時抑圧サレタリト雖

モ少ク共苟モ支那土地主權ニ危機及フノ挙動アレハ固ヨリ  
大ナル憤恨ノ勃発ニ至ルヲ窺知致サレ候

貴國及其他ノ友邦ハ屢次國際交換文書中ニ於テ支那主權ノ  
独立及領土行政ノ完全ニ付テノ尊重ヲ正式ニ認メラレ又  
門戶開放主義及其付帶發生ノ各國在支商工業機會均等主義  
ヲモ絶対ニ有サス且支那主權ノ獨立ト領土ト行政ノ完全ヲ  
尊重スルノ政策ノ依然変更ナキヲ冀望致候此段及照会得貴  
意候

ノ原則ニ關シテモ從來確認ヲ經タル處ナルカ今貴国政府提  
出ニ係ル新要求カ誠ニ伝ヘラル如クナラハ必ス此ノ國際  
公認ノ精神ヲ根本ヨリ破壞セラルモノニ有之候事情斯ノ  
如キヲ以テ国民政府ハ目下伝ヘラル消息ニ鑑ミ日本帝国

政府ニ対シ掛念ノ深甚ナルヲ表示スルト同時ニ結局ノ所根  
拠アルヤ如何ニ付照会セサルヲ得サル次第ニ有之候

現今支那二十二省中國民政府旗ハ既ニ十六省ニ遍キ處若シ  
名義上ハ六省ヲ占ムルモ實際ハ六省ニ及ハサル軍閥ト約  
訂立ヲ行フ如キハ支那國民ニ於テ承認致難キコト誠ニ見易  
キ道理ト思考致候

日本帝國政府ノ對滿蒙新政策ハ遠東ニ一ノ「アルサスロ  
レン」問題ヲ釀成スルノミナラス将来更ニ世界ノ平和ニ禍  
スル恐アルニ於テハ国民政府ハ職責ニ鑑ミ支那全國一致ノ  
民意ヲ代表シ伝ヘラレツツアル所ノ貴國政府一切ノ企図ニ  
対シ強硬ナル抗議提出ニ及ハサルヲ得サルト同時ニ貴國政  
府及人民ニ於テ若シ両國ノ諒解ト邦交ノ円満ニ意ヲ存セラ  
ルルナラハ貴國政府ハ此種伝ヘラル所ハ毫モ根拠ナキヲ  
確実ニ声明シ得ラルヘキコトヲ警告致候

本部長ハ貴國政府カ二十一ヶ条中如何ナル部分ノ再提企図  
日本帝國政府ノ對滿蒙新政策ハ遠東ニ一ノ「アルサスロ  
レン」問題ヲ釀成スルノミナラス将来更ニ世界ノ平和ニ禍  
スル恐アルニ於テハ国民政府ハ職責ニ鑑ミ支那全國一致ノ  
民意ヲ代表シ伝ヘラレツツアル所ノ貴國政府一切ノ企図ニ  
対シ強硬ナル抗議提出ニ及ハサルヲ得サルト同時ニ貴國政  
府及人民ニ於テ若シ両國ノ諒解ト邦交ノ円満ニ意ヲ存セラ  
ルルナラハ貴國政府ハ此種伝ヘラル所ハ毫モ根拠ナキヲ  
確実ニ声明シ得ラルヘキコトヲ警告致候

日本帝國政府ノ對滿蒙新政策ハ遠東ニ一ノ「アルサスロ  
レン」問題ヲ釀成スルノミナラス将来更ニ世界ノ平和ニ禍  
スル恐アルニ於テハ国民政府ハ職責ニ鑑ミ支那全國一致ノ  
民意ヲ代表シ伝ヘラレツツアル所ノ貴國政府一切ノ企図ニ  
対シ強硬ナル抗議提出ニ及ハサルヲ得サルト同時ニ貴國政  
府及人民ニ於テ若シ両國ノ諒解ト邦交ノ円満ニ意ヲ存セラ  
ルルナラハ貴國政府ハ此種伝ヘラル所ハ毫モ根拠ナキヲ  
確実ニ声明シ得ラルヘキコトヲ警告致候

いて

北京

本省

10月6日後着

184 昭和2年10月(6)日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

本庄中將の張作霖および楊宇霆との会談につ

第一〇四七号  
〔八〇文書〕  
往電第一〇三五号

本庄四日張作霖ニ面会シ閣下ノ御伝言ヲ伝ヘタル處張ハ之  
ヲ傾聽シタル趣ナリ右ニ対シ何レ回答シ来ルコトト思ハル  
モ其時機及内容ハ不明ナリトノコトニテ統テ昨五日本庄  
楊宇霆ニ会見シ御訓令ノ〔ニ基キ懇々説得セル處楊ハ結局

### 三 满蒙懸案解決交渉

ヨリ本庄へ通知シ来ル筈ナリ又本使ヨリ張ヲ往訪シ張カ遺憾ノ意ヲ表スルコトモ楊ノ閔スル限り異存ナシトノコトヲリ何レ陳謝ノ結果ハ更ニ電報スヘキモ今日迄ノ経過不取敢電報ス尚交渉ニ就テハ支那側ニ於テモ秘密ニ取運フコトヲ思ハル處若シ之カ新聞紙上ニ洩ルル場合ニハ奉天側ニ対スル非難起リ之カ為交渉ニ累ヲ及ホス虞アルニ付秘密ニ付セラル様致シ度シ

奉天へ転電セリ

185 昭和2年10月6日 在北京本庄公使館付武官より  
鈴木參謀總長宛(電報)

田中總理大臣の訓令に基づく張作霖および楊

宇麿との会談について

|                                                      |   |               |
|------------------------------------------------------|---|---------------|
| 北                                                    | 京 | 10月6日後10時50分発 |
| 参謀本部                                                 |   | 10月7日前10時8分着  |
| ※ 支第五九五号其一一十四 (10月7日外務省写接受)                          |   |               |
| 三日帰任勿々公使ト打合セ四日總理ノ伝言案ヲ白話体ニ直訳(張作霖ノ習癖上特ニ必要ト認メ)シ同夜彼ヲ訪問シ先 |   |               |

日満等シク其利ヲ受クルモノナリ  
要スルニ此事タル苟モ侵略的意味ヤ片務的意味ヲ有スルモノニ非ステ總理伝言ノ大体ヲ説明シタル所作霖ハ何時ニ似ス静肅ニ聞キ取りタリ更ニ貴下(張)ハ小官帰朝前本案ニ関シ田中内閣ノ運命ヲ問題トセラレタル處本回県會議員選挙ノ結果ヲ見ルニ分裂前ノ政友会ト憲政会ト地盤關係ニ於テ略伯仲シタルモノナルニ田中總理ハ政友会ノ一半ヲ率イ立派ニ勝利ヲ得茲ニ明年ノ国会議員改選ニモ既ニ勝算ヲ期シ得ルニ至レリ若シ仮リニ事全ク予想ニ反シ議員選挙ニ失敗スルコトアリトスルモ明年ノ議会開期迄ハ存続スヘク其間日満提携ノ実ヲ挙ケ得ルニ充分ナリ又縦ヒ野党トナルモ田中總理ハ全党ヲ率イテ同一対支方針ノモトニ邁進スルノ固キ覺悟ヲ有セラル語リタリシニ張ハ大ニ安堵セルノ状态ニ見エタリ茲ニ於テ懇ニ前記伝言案直訳ヲ示シタル處彼ハ逐一精読シタル後總理ノ好意ト熱情ハ感謝ニ堪ヘス彼ノ排日問題ノ動機ハ寧ロ日本側ヨリ惹キ起シタルモノ(臨江領事分館問題吉田總領事ノ最後通牒的通牒ヲ指ス)ニシテ(此時小官ハ所有問題カ數年ニ亘リテ解決セスシテ吉田總領事ヲシテ強硬ナル抗議ヲセサルヲ得サルニ至ラシメシ

ツ總理ト張作霖ノ関係ハ實ニ總理カ日露戰爭中福島將軍部下ノ一中佐トシテ張作霖ト知り合ヒトナリシニ始マルモノニテ極メテ深キ關係ニ在ルヲ説キ朝鮮總督乃至内閣總理トシテノ寺内大将ノ下ニ在リテ屢々東三省首脳タル張ト見エタル關係ヲ語リ田中總理ノ心情トシテハ其幸福コソ祈レ決シテ其失敗ヲ希望スルモノニアラス東方會議ノ所謂精神ナルモノヲ繰返シ斯ノ如キ尋常ナラサルモノアルヲ繆説シタル後一転シテ本回ノ東三省三行ハレタル排日問題ハソレカ南支ニ發生セリトセハサシテ注意ヲ幸クヘキニアラサルモ前記ノ如ク張トハ淺カラヌ關係ニ在ル總理ノ内閣ノ組織セラレタル時ニ於テ嘗テ前例ナキ張ノ根拠地タル東三省ニ此ノ不祥事ノ出現セシコトハ其動機ノ如何ニ拘ラス全ク我国ノ一般ヲシテ驚キ且ツ重大視セシメ万事ハ差シ置キ先ツ支那側ノ真意ヲ確ムルノ已ムナキニ至ラシメタリ是レ交渉ノ一時中止セラレタル所以ナリ彼ノ滿蒙ノ經濟開發ニ至リテハ既ニ東方會議ノ精神トシテ述ヘタル如ク日本トシテハ朝鮮統治上乃至國家ノ生存上是非共遂行セサルヘカラサルモノニテ同時ニ張ノ根拠地ヲ平和ニシ且之ヲ富裕ナラシメ彼ノ赤化思想ノ如キハ之ヲ施スニ由ナカラシムルモノニシテ

モノナリト注意ス)予ハ当初全ク之ヲ知ラス且又予カ特ニ田中内閣ニ反対スルノ理ナキニ非スヤ而モ排日問題ヲ実施シ吉林、黒竜迄モ蔓延セントスルニ方リ予ハ之カ鎮压ニ全力ヲ尽シ奉天方面ニ於ケル日本人ノ煽動スラアリ北滿ニ於テハ露国人ノ活動等アリシモ三省々長及張煥相等ニ徹底的防遏ヲ嚴命シ遂ニ奉天省長ヲ罷免スルニ至リシナリ日本側ニ於テモ此辺予ノ苦心ヲモ諒トセラレタシ免ニ角予トシテ奉天ニ在ラハ決シテ斯ノ如キコトナカラシタル筈ナリ云々

又經濟發展ノコトニ就キテ予ハ決シテ反対セス只總理ノ伝言中予ニシテ応セサレハ最後ノ決意アリトアリ如何ナル意味ナリヤ日支提携ナラ可ナルモ若シ日本カ单独实行迄セントスルナラハ予ハ傍観センノミトテ危惧ノ色アリ之ニ対シ小官ハ事態ノ重大ヲ意味スルモノナルモ其手段ハ勿論日支ノ提携ナリト説キシ処要スルニ本件ノ難点タルハ金利ノ問題ノミナリト語リシニ依リ其事ナラ總理ニ於テモ諒解セラレ公使ニ訓令アリシ由ナリト答ヘシニ満足シ只成ルヘク正式交渉ヲ避ケ内相談ズクニテ話ヲ纏メタシ然ラスハ直ニ漏洩シ紛擾ヲ釀スノ恐レアリ等語リ總理ノ伝言ノ趣旨ハ幸ニ

### 三 满蒙懸案解決交渉

十分了解シタル様ニ認メタリ仍テ小官ハ大元帥ニシテ既ニ誠意ヲ以テ此交渉ヲ進ムヘク決セラレタルニ就キテハ明日ハ楊宇霆ニ会見スヘキカ故ニ先ツ大元帥ヨリ楊ニ余リニ喧シキ理屈ヲ云ハス日滿親近ノ根本主義ニ依リテ交渉スル様注意ヲ与ヘラレタシト述ヘシニ了諾セリ（町野顧問モ傍ヨリ此會議ニ大ニ助言スル所アリ）昨五日前右張作霖ト会見ノ次第ヲ公使ニ通報シ午後楊宇霆ニ会見セリ大体張作霖ニ談シタルト同様ノ事ヲ繰リ返シ特ニ日本当局ニ於テ満州排日問題ヲ重大視シアル所以ヲ高潮シタルニ彼ハ「日本種々ノ誤解ヲ与ヘタルハ無理カラヌ事ニテ自分モ今回帰奉シテ初メテ其真相ヲ知リ得タル次第ニ全ク省議會議員改選ノ時機ニ方リ彼等カ民心ヲ得ンカ為ニ排日煽リタルコトヲ

言明シ莫省長ヲ罷免シタルハ表面ハ兎モ角実ハ日本政府及吉田總領事ノ面目ヲ重ンシタルニ存ス内々ノ話ナルカ高交渉署長モ何レ遠カラス罷免セラル筆鐵道問題ニ至リテハ難点ハ金利ノ関係ト満鉄ニ于ケル支那軍輸送条件ノ緩和トニアリ夫サヘ考慮ノ余地アラハ必シモ至難ナラスト思ハル」ト更ニ小官ヨリ東三省治外法權ノ問題ト相俟テ内地難居ニ進ムヘク大元帥トシテハ其根拠地ノ平和ヲ全支ニ誇リ

各顧問裏面ヨリ特ニ斡旋ス

右ニテ略交渉再開ノ端緒ヲ得ル筈ナルカ右楊宇霆等ノ陳謝一件ハ是非共極秘ニ付セラレ最小限満蒙交渉ノ一段落ヲ告クル迄ハ御漏シナキ様切望ニ堪ヘス東三省排日問題ハ我内地新聞カ田中内閣ノ積極政策トテ紙上ニ吹聴セルヲ支那新聞之ヲ強調シタルモノ確ニ有力ナル一原因タリ本回又我電報通信及日本通信ハ小官ノ帰任ト共ニ満蒙交渉再開ヲ打電シ来リ次テ山本満鉄社長來燕ノ予定ハ速クモ当地ニ伝ハリ漢字新聞ハ一々之ヲ転載シ日本政府ハ奉普開戦ノ機ヲ利用シ満蒙ノ侵略ヲ断行スルモノナリト針小棒大ニ罵倒シ始メタリ小官等モ山西ノ蹶起ハ本問題ノ為詢ニ好機会ナリト信スルモ言論界ノ陰惡ヲ加フルニ至レハ追テ当事者ハ必スヤ輿論ノ攻撃ヲ恐レ戰事多忙ナルヲ理由トシ躊躇シ始ムルニ至ルヘキヲ虞ル政局ノ要衝ニアル諸公トシテ対内宣伝モサルコトナカラ之力為交渉ヲ破壊ニ導クハ遺憾至極ナリ特ニ御考慮ヲ煩ハシ度シ

186 昭和2年10月(8)日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

奉天の排日運動に対し楊宇霆遺憾の意表明に

187 昭和2年10月(10)日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

奉天の排日運動に対し張作霖遺憾の意表明に

北京

発

北京  
本省  
10月8日後着

\*  
第一〇六二号  
往電第一〇五七号ニ関シ

楊宇霆約ニ從テ八日午前八時本使ヲ來訪シ（本庄中将及陳慶雲秘書列坐ス）今回ノ排日騒キハ自分カ奉天ニ帰リ親シク之ヲ見又種々其内情モ判明セル点アリ兎ニ角斯ノ如キ排日騒キノアリタルコトハ誠ニ日本政府ニ對シ御氣ノ毒ニ思フ今後出来得ル丈ノ取締ヲ為ス積リナルニ付左様御承知願ヒタシト述ヘタルニ付本使ハ此上モ取締ヲ嚴重ニセラレ度ク唯今本使ニ遺憾ノ意ヲ述ヘラレタル事ハ早速帝国政府ニ電報スル旨答ヘタリ

奉天へ転電セリ

又範ヲ全支ニ示スモノナリト説ケルニ對シ彼ハ趣旨ニ於テ同感ナリトシ鐵道問題ヲ解決シタル後ノ事ニ譲リタシト答ヘタリ此ニ於テ小官ハ貴官以下東三省官憲カ排日問題抑压ニ多大ノ努力ヲ払ハレ漸次鎮靜ニ帰シタル以上曩ニ日本政府ニ於テ奉天政府ノ真意ヲ疑ヒ一時中止シタル満蒙交渉ヲ再興セサルヘカラス就テハ貴官ハ先ツ芳沢公使ヲレタルコトナレハ右端緒ヲ開ク可ク貴官ハ先ツ芳沢公使ヲ訪問シ東三省排日鎮壓ノ近況ヲ報スルト共ニニ對シ遺憾ノ意ヲ表スルコトトシテハ如何ト説キシニ彼ハ之ヲ納得シ更ニ次テ芳沢公使ヨリ張作霖ヲ訪問シ其席上張ヨリ略同様ノ意味ヲ述フルコトトシテハ如何ト語リシニ是レ亦可ナリト答ヘタリ

尚彼ハ今後芳沢公使ト交渉ノ為ニハ秘密ヲ保持スル為ニ、三ノ地点ヲ選定シ会見スルコトトシテハ如何ト説リシヨリ予ハ之ニ同意シ帰来公使ニ伝ヘシニ公使モ楊ノ挨拶ヲ公使館ニ於テ受ケタル後ハ爾後ノ交渉ハ楊宇霆ノ希望ノ通り為ス方可ナラントノコトナリ右楊宇霆ノ公使訪問ハ明後八日朝ト内定ス張作霖ヨリ田中總理ヘノ信書ノコトハ未タ語ラサルモ大抵希望ノ通り運フ見込ニテ之等ノ取計ラヒニ就キ

本省 10月10日後着

第一〇七一号

往電第一〇六四号ニ関シ

### 三 满蒙懸案解決交渉

先方ノ都合ニヨリ五時張作霖ヲ往訪シタル処張ハ過般ノ排日騒ニ就テハ楊宇霆ヲ派遣シ事情ヲ調査シタル結果種々判明シタル次第ナルカ今日ハ既ニ消滅セリ将来絶対ニ發生セシメストハ保障シ難キモ今後ノ取締ハ出来得ル丈ヶ全力ヲ尽スヘキニ付日本政府ニ於テモ此上心配セラルニ及ハサルヘシト述ヘタルニ付本使ハ今後全力ヲ尽シテ嚴重ニ取締ラルルコトハ結構ナルカ先般ノ排日騒ニ就キ日本政府ニ對シ如何ニ考ヘラルヤト尋ネタル處張ハ先般ノ排日騒ハ自分ノ為シタルコトニアラサルヲ以テ責任ヲ負ヒ難シトノ意味ヲ述ヘタルヲ以テ本使ハ過般ノ排日騒ハ大元帥自ラ指図シテ之ヲ行ハシメタルモノトハ認メサルモ奉天ノ膝下ニ斯ノ如キ事件ノ発生シタルコトニ対シ大元帥及其部下ノ当局者ニ於テ取締ノ責任アルハ勿論ニテ殊ニ官憲ノ指嗾アリタル趣ナル以上ハ我方ニ於テ責任ヲ質サルヲ得スト述ヘタル處張ハ尚大ニ弁疏ニ努メタルニ付本使ハ日本政府ニ対シスノ如キ事件ノ発生ヲ氣ノ毒ニ感セラレサルヤト詰リタル

ニ張ハ初メテ自分ノ多年親父アル田中男ノ内閣ノ際斯ノ如キ事件ノ発生シタルコトヲ遺憾トシ御氣ノ毒ニ存スト述ヘタルニ付本使ハ将来ノ取締ニ就テハ既ニ言明セラレ今又先般ノ排日騒ニ就キ右ノ一言ヲ承リタルニ付夫レニテ満足セリト述ヘ引取リタリ不敢

188 昭和2年10月31日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛

日中間の滿蒙懸案解決交渉に關しソ連側との  
話合いを開始するとの田中外相の意向につい

機密第一〇七六号  
昭和二年十月三十一日 在支那

(接受日不明)

機密第一〇七六号  
昭和二年十月三十一日 在支那

外務大臣男爵 田中 義一殿

特命全権公使 芳沢 謙吉(印)

本件ニ關シ本件十月十日付亞一機密合第九四三号及本月十四日付亞一機密合第九六二号貴信ヲ以テ御来示ノ趣敬承然ルニ右閣下ノ英國大使ニ対スル御会談中ニ今回ノ日支交渉ノ結

果ハ纏テ露国トモ亦話合ヲ遂クル必要アル事態ニ到達スヘキコトヲ御想相成ルヤニ見受ケラルル處今回ノ日支交渉即

鉄道問題、不当課税其他帽兒山分館、盛京時報等ノ諸案件ハ露國トノ話合ヲ必要トスル筋合ノモノニ非ラサルヤニ思考セラレ他方又右閣下ト露国大使トノ御会談中閣下ハ滿蒙ノ經濟的發展策ニ關シ露国トノ間ニモ了解ヲ遂ケ日露双方ノ利益相反スルコトナクシテ滿蒙ノ地方ニ相互ニ發展シ得ル方法ヲ講セサルヘカラスト感シ居ル次第ニシテ其ノ時期ニ至ラハ露国政府トノ間ニ話合ヲ始ムル積リナリ云々トノ

御談話有之處滿州ニ関シテハ只今ハ明治四十年ノ日露間ノ勢力範囲ニ關スル秘密協定ハ存在セス又大正十四年一月ノ日露基本條約締結ニ際シテモ露国側ハ「ボーッマス」協定以外ニ付テ其ノ効力ヲ認メサル態度ニ出テタルモノニシテ受クル立場ニ在ラサル様見受ケラルニ就テハ右所謂日露間ノ話合トハ日支協定ノ結果ヲ露国側ニ知ラシムル程度ノ輕キ意味合ノモノナリヤ或ハ夫共目下ノ日支交渉ノ後其ノ結果ニ基キ更ニ一般經濟開發ニ關シテ露国ト話合ヲ開始セムトスル御意向ナリヤ其辺ノ事情本使参考迄ニ何分ノ儀御

### 回示相成度

189 昭和2年12月22日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

不法課税問題及び帽兒山分館問題に関する解  
決交渉について

北京 本省 12月22日後着

機密第一三三六号ニ關シ

松井ヲシテ内々楊宇霆ノ意向ヲ當ラシメタル処其ノ報告ニヨレハ楊ハ本問題ハ中央ヨリ地方ニ訓令シテ強制スレハ解決スルモノナルモ支那側ニ於テハ日本ノ要求ノミヲ聞キ居ルカ故ニ支那側ノ主張スル問題ノ解決ヲモ計ラレタシト云ヒテ先ツ二分五厘付加税ノ解決ヲ迫リ之ト帽兒山問題トヲ引掛ケントシ更ニ田中ノ引揚ハ地方民ノ感情ニハ好影響有ルモ交渉ノ促進ニハ何等ノ効果ナキ模様ナル趣ニ付松井ニ對シテハ二五税ハ強ヒテ關係ヲツケレハ不当課税問題ト同時ニシ得ヘキ問題ナルモ帽兒山問題ハ全然無關係ナル事ヲ申聞ケ置キタリ支那側ノ意向果シテ右ノ如シトセハ帽兒山

問題ノ交渉ハ不法課税問題ノ交渉ヲ開カサル以上進捗困難ナルヘキカト思考スルニ付テハ貴電第四九二号ノ御訓令ト往電第一三一三号本使ヨリ張作霖ニ申入趣旨トニ鑑ミ此際不法課税問題ニ関シ地方的交渉ニ取掛ル事ニ致シ度當方ニ於テハ右張作霖ヘノ申入補足ノ意味ニテ松井ヲ通シテ詳細楊宇霆ニ満州不法課税ノ状態ヲ説明セシムル事ニ取計置キタリ他方田中ノ引揚ニ付テハ仄聞スル処ニ依レハ田中ハ健康上ノ都合ニテ此ノ際是非引揚度由ナル處若シ右様ノ事情アリトセハ支那側ニ対スル交渉トハ関係ナク引揚クル外ナカルヘシ

奉天、安東へ転電セリ

~~~~~

190 昭和2年12月24日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

不法課税問題及び帽兒山分館問題に関する意見

見具申

第三六五号

奉天 本省 12月24日後着 発

本官発在支公使宛電報第二八一號

外務大臣ニ転電セリ

~~~~~

191 昭和2年12月26日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

帽兒山分館設置問題と付加税問題とは区別して交渉すべき旨訓令

本省 12月26日發

第五八一号

(一八九文書)

貴電第一三四九号ニ関シ

帽兒山問題ニ付テハ楊宇霆ハ堀ニ対シ理由サヘ充分説明セラルレハ解決モ簡単ナルヘク貿易増進ノ必要ト云フハ理由トシテ尤モト思ハル旨ヲ述ヘ(貴電第八七九号)又八月六日本庄松井ニ対シテモ大体同様ノ意見ヲ述ヘタル由ナルニ今更ラ付加税問題ト引掛けスカル単純ナル問題ヲ遷延セシメムトスルハ甚ダ不可解ナリ支那側ノ体面ヲ立ツル為ニハ我方ニ於テモ差支ナキ限り考慮スル考ニテ今日迄既三大

閣下及ヒ張作霖トノ会談(貴電第一三一三号)ノ砌二分五厘其他ノ不当課税ニ関シ詳細論議ハ閣下ニ於テ特ニ見合セラレタリトアリ右ハ元ヨリ何等力御考慮ノ次第アリテノ事ト存スルカ張作霖ニシテ本件課税ノ不当ニシテ帝国政府ノ主張ノ正当ナル所以ニ付充分諒解セサル限り此ノ儘地方的解決ニ移サレ例ヘハ本官ハ近ク帰朝シ後任カ本件交渉ニ当ルトスルモ等シク解決ニハ余程ノ困難アルヘク且奉天側ハ目下軍費ニ窮シ苛斂誅求百万金策ニ腐心シ奉天省ヘモ目下五百万弗即時送金方北京ヨリ命シ来リ居ルトノ噂モアル折柄課税問題ニ関シ地方的交渉ハ從來ニ比シ事情一層悪化セシ傾向アルモ樂觀スヘキ何等ノ事情ナシ就テハ張作霖ニ對スル閣下ノ特殊ノ関係ヲ利用シ帝国政府ノ主張ニ付充分ノ説明ヲ与ヘラレ張ヲシテ自己ノ非ヲ完全ニ諒解セシメラレタル後地方的交渉ハ移サルル様切願ニ堪ヘ斯尚又臨江ハ朝鮮ノ咸興ヨリ臨江、四平街、鄭家屯、索倫若シクハ林西ニ通スル将来所謂満州横断鉄道線要衝ニ当ルヲ以テ滿蒙政策上特ニ重要視スヘク從テ支那ヲシテ該地ヲ一般通商ニ開放セシムル事カ先決問題ニテ其結果設領問題ハ自然解決スヘ